

神崎市
男女共同参画社会の実現に向けた市民意識調査
結果報告書

令和6年11月

神崎市

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の実施要領・回答数	3
3. 調査結果利用上の注意	3
第2章 調査結果	5
1. あなたご自身のことについて	7
2. 結婚や家庭生活について	15
3. 地域活動などへの参加について	22
4. 女性が職業を持つことや社会参画について	26
5. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	35
6. ドメスティック・バイオレンス（DV＝配偶者や恋人からの暴力）について	41
7. 男女平等・男女共同参画について	49
8. 防災について	57
9. その他について	61

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

神崎市では、令和7年度を初年度とする「第4次神崎市男女共同参画基本計画・DV被害者支援計画・女性の活躍推進計画」の策定に向け、価値観や生活形態が多様化する社会情勢の変化を踏まえ、市民の皆様の日常生活及び社会生活における男女共同参画の実態や住民の意識やニーズを把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的にアンケート調査を実施することとしました。

2. 調査の実施要領・回答数

調査時期	令和6年9月
調査対象者	神崎市在住の18歳以上の方
調査方法	郵送による配布・回収、 インターネットによる回答
配布数	2,000件
有効回答数	676件
有効回答率	33.8%

3. 調査結果利用上の注意

- ・各設問のnは、回答者数を表しています。
- ・回答率は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
- ・2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、選択肢ごとの割合を合計すると100%を超える場合があります。
- ・回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、図表には「0.0」と表記しています。
- ・数表・図表は、スペースの都合上、文言等を省略している場合があります。

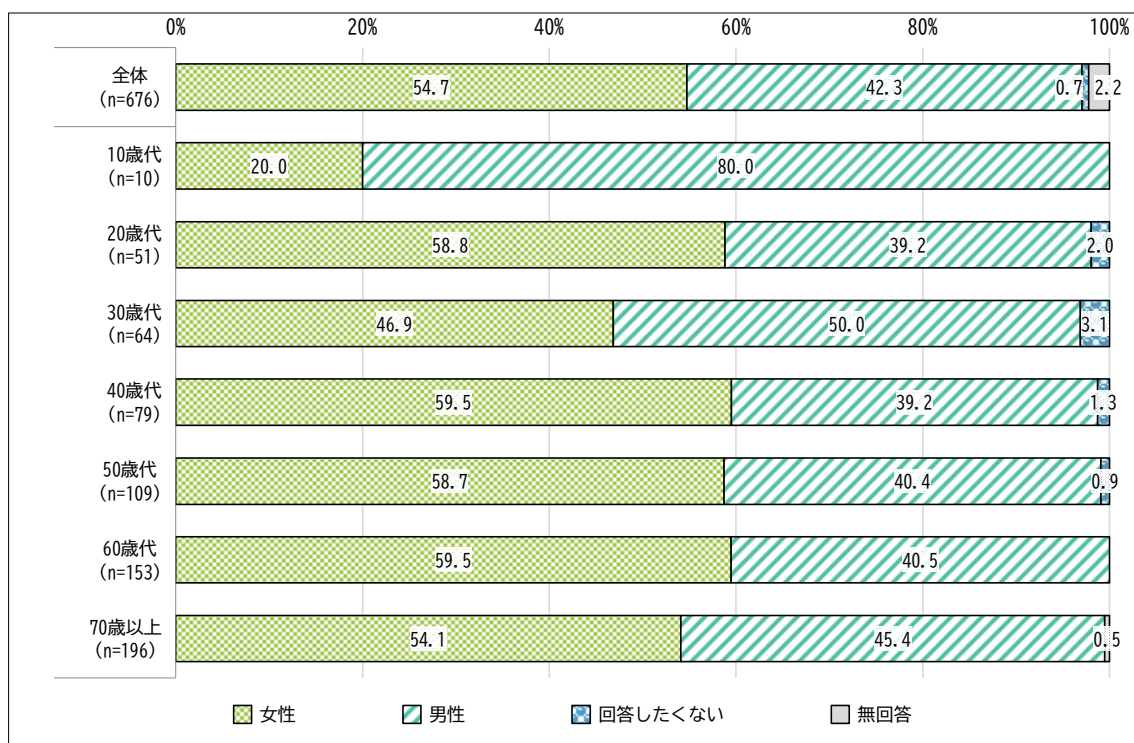
第2章 調査結果

1. あなたご自身のことについて

Q1 あなたの性別をおたずねします。(単数回答)

○全体では女性が54.7%、男性が42.3%となっています。

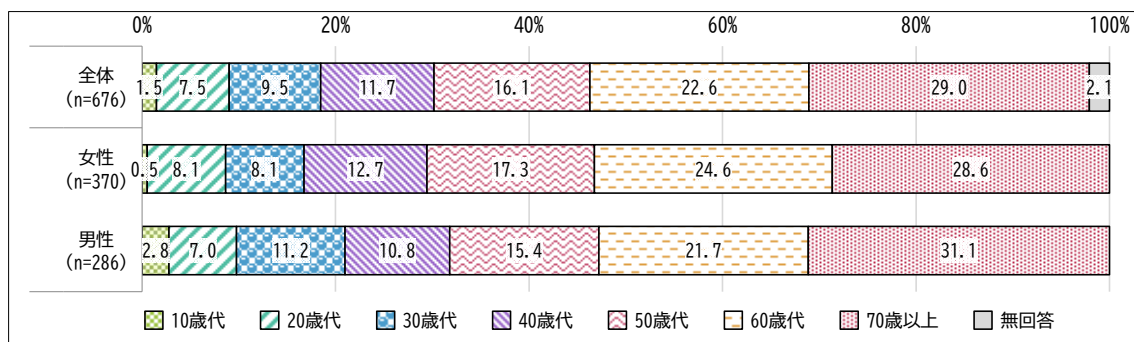
○年代別でみると、10歳代及び30歳代では「男性」が「女性」を上回っていますが、それ以外の年代では「女性」の割合が高くなっています。



Q2 あなたの年齢をおたずねします。(単数回答)

○全体では「70歳以上」が29.0%と最も高く、次いで「60歳代」22.6%、「50歳代」16.1%となっています。

○性別でみると、男女ともに約3割が「70歳以上」と回答しており、60歳以上の割合が5割を超えています。

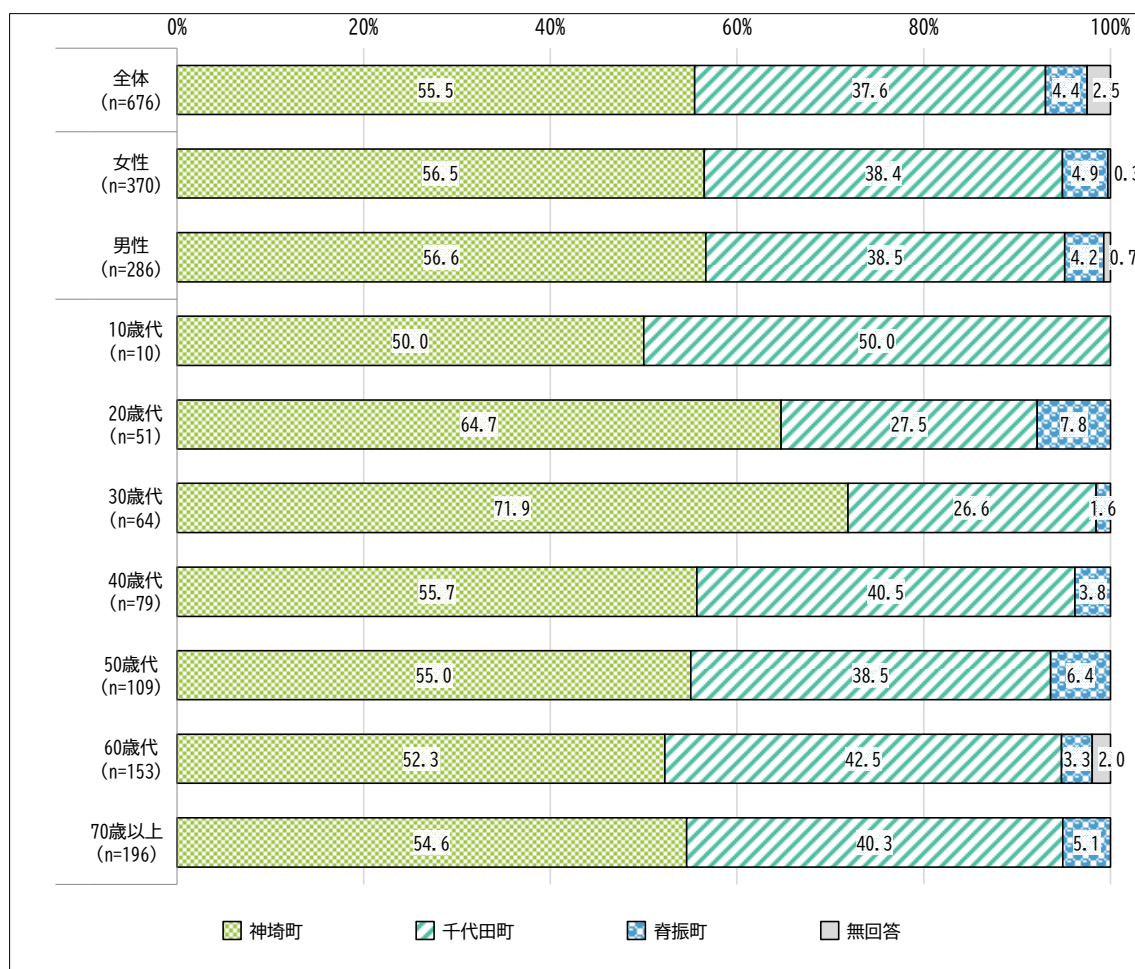


Q3 お住まいの地域はどこですか。(単数回答)

○全体では「神埼町」が 55.5%と最も高く、次いで「千代田町」37.6%、「脊振町」4.4%となっています。

○性別でも、全体と同様に「神埼町」が5割を超えており、「千代田町」が3割台、「脊振町」は1割以下となっています。

○年代別でも、どの年代も「神埼町」が最も高く、特に20～30歳代では6割を超えています。

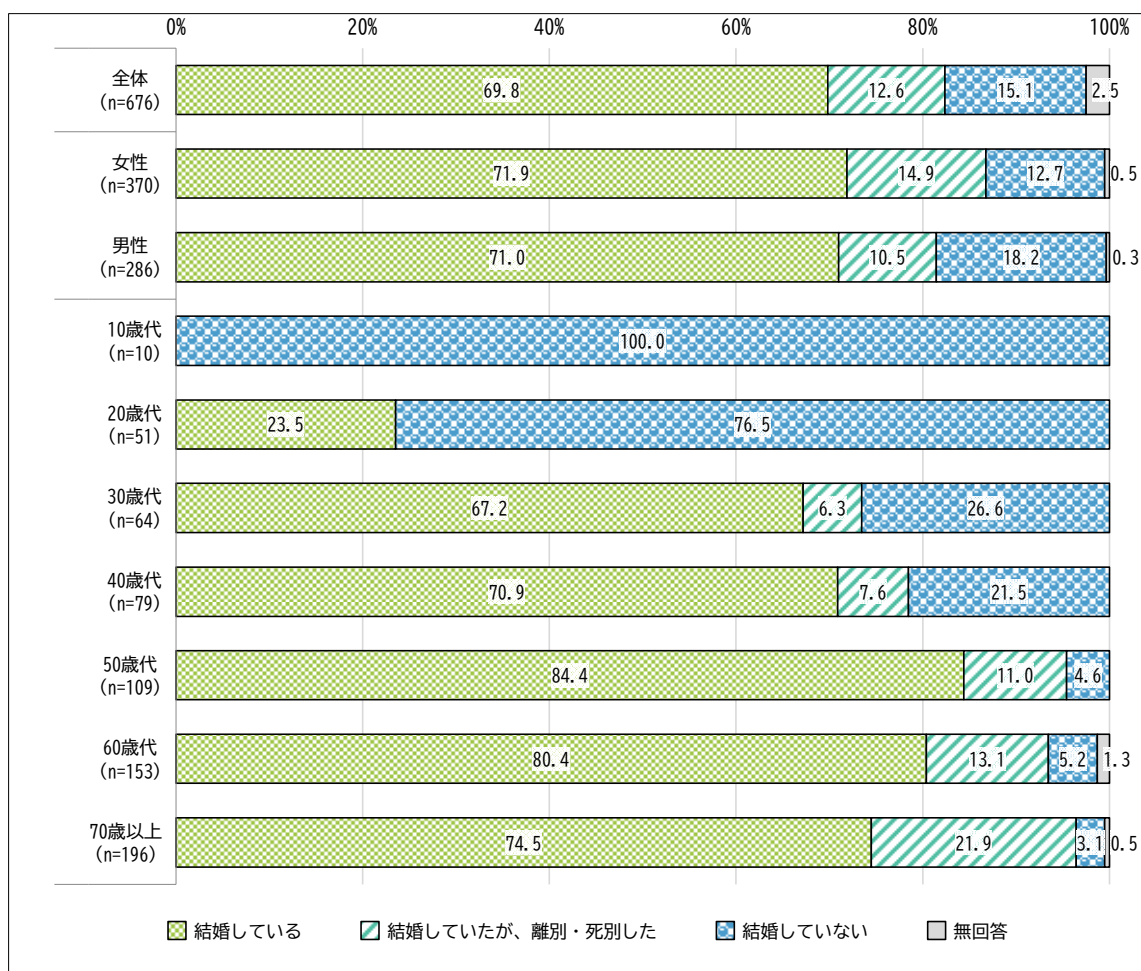


Q4 あなたは結婚（事実婚も含む）されていますか。（単数回答）

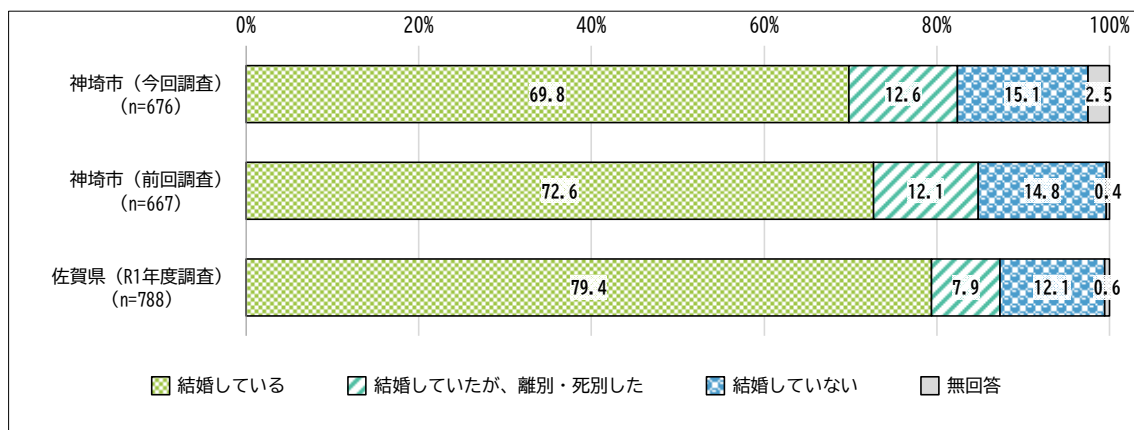
○全体では「結婚している」が 69.8%と最も高く、次いで「結婚していない」15.1%、「結婚していたが、離別・死別した」12.6%となっています。

○性別でも、男女ともに7割が「結婚している」と回答しています。

○年代別でみると、30 歳代以上では「結婚している」が6割を超えていますが、30～40 歳代では「結婚していない」も2割台となっています。また、年代が高くなるにつれて「結婚していたが、離別・死別した」が高くなっています。



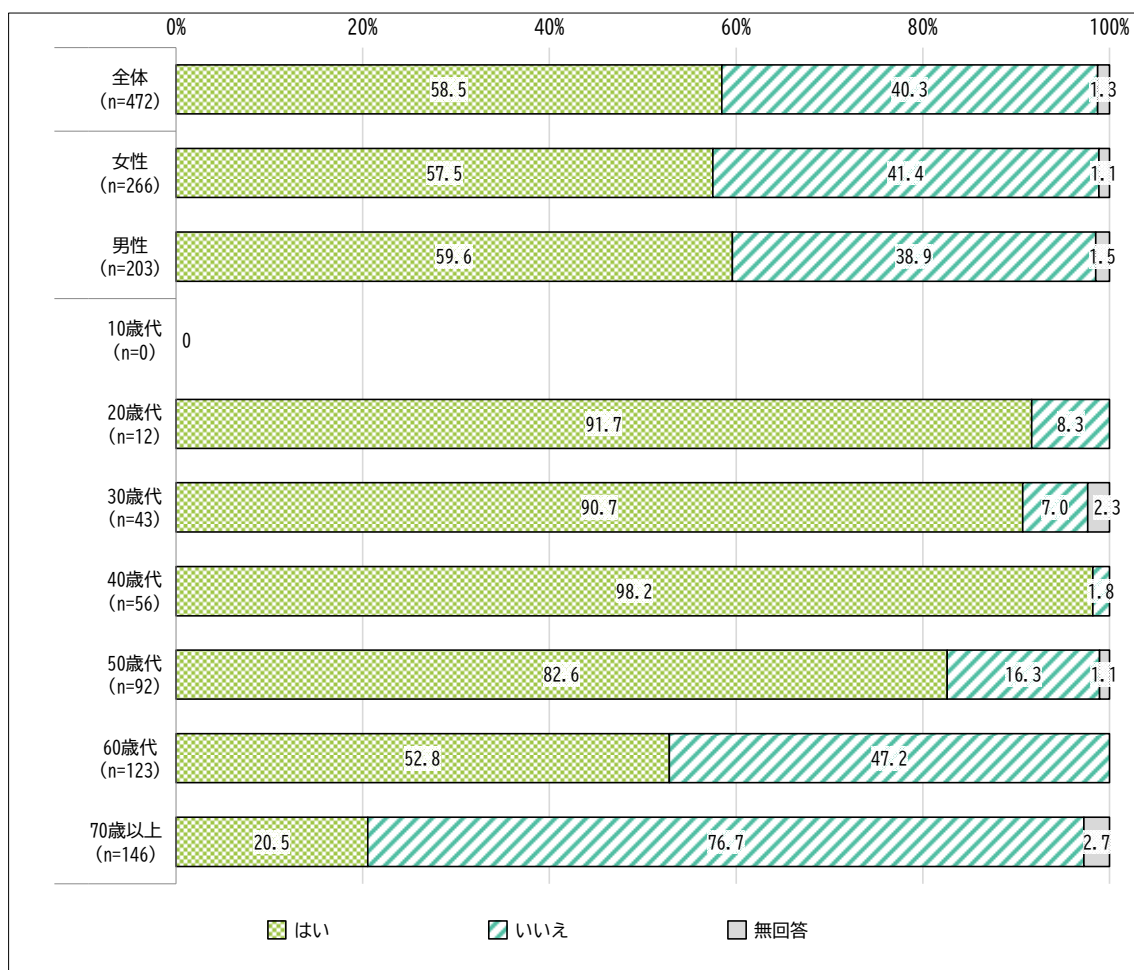
【今回・前回・県比較】



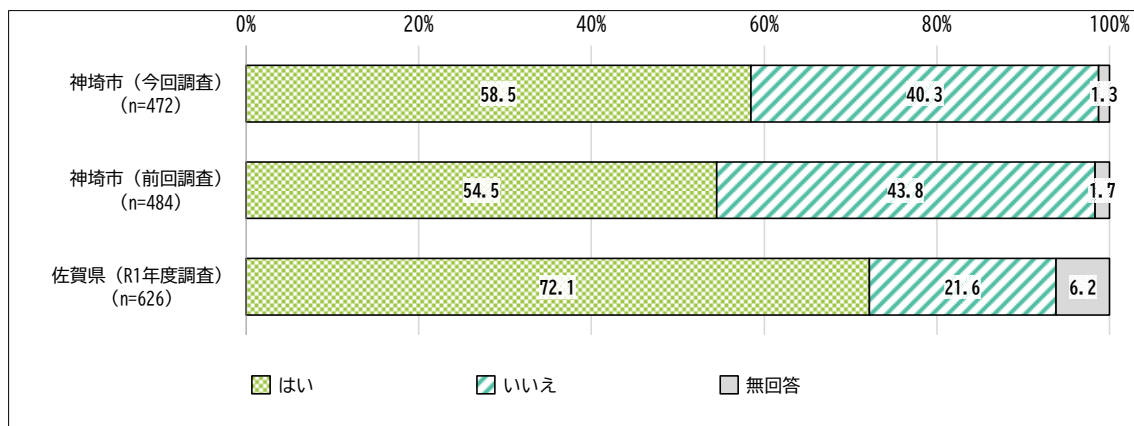
Q4で「1. 結婚している」と回答した方のみ

Q4-1 (配偶者のある方へ) 夫婦「共働き」ですか。(単数回答)

- 全体では「はい」が 58.5%、「いいえ」が 40.3%となっており、約 6 割が夫婦共働き世帯と回答しています。
- 性別でみても、男女ともに「はい」が「いいえ」を上回っています。
- 年代別でみると、20～50 歳代までは 8 割以上が「はい」と回答していますが、60 歳代では 5 割台、70 歳以上では 2 割台と年代が高くなるにつれて夫婦共働き世帯の割合が低くなっています。



【今回・前回・県比較】



Q4で「3. 結婚していない」と回答した方のみ

Q4－2 （結婚していない方へ）その理由を具体的にお書きください。（自由記述）

※詳細は、別紙「男女共同参画社会の実現に向けた市民意識調査
結果報告書（自由記述）」に掲載

内容に応じ、分類を行った結果は以下の通りです。

一人の対象者が複数の項目に関して記述している場合もありますが、ここでは
主な意見の1つを分類しています。（以下同様）

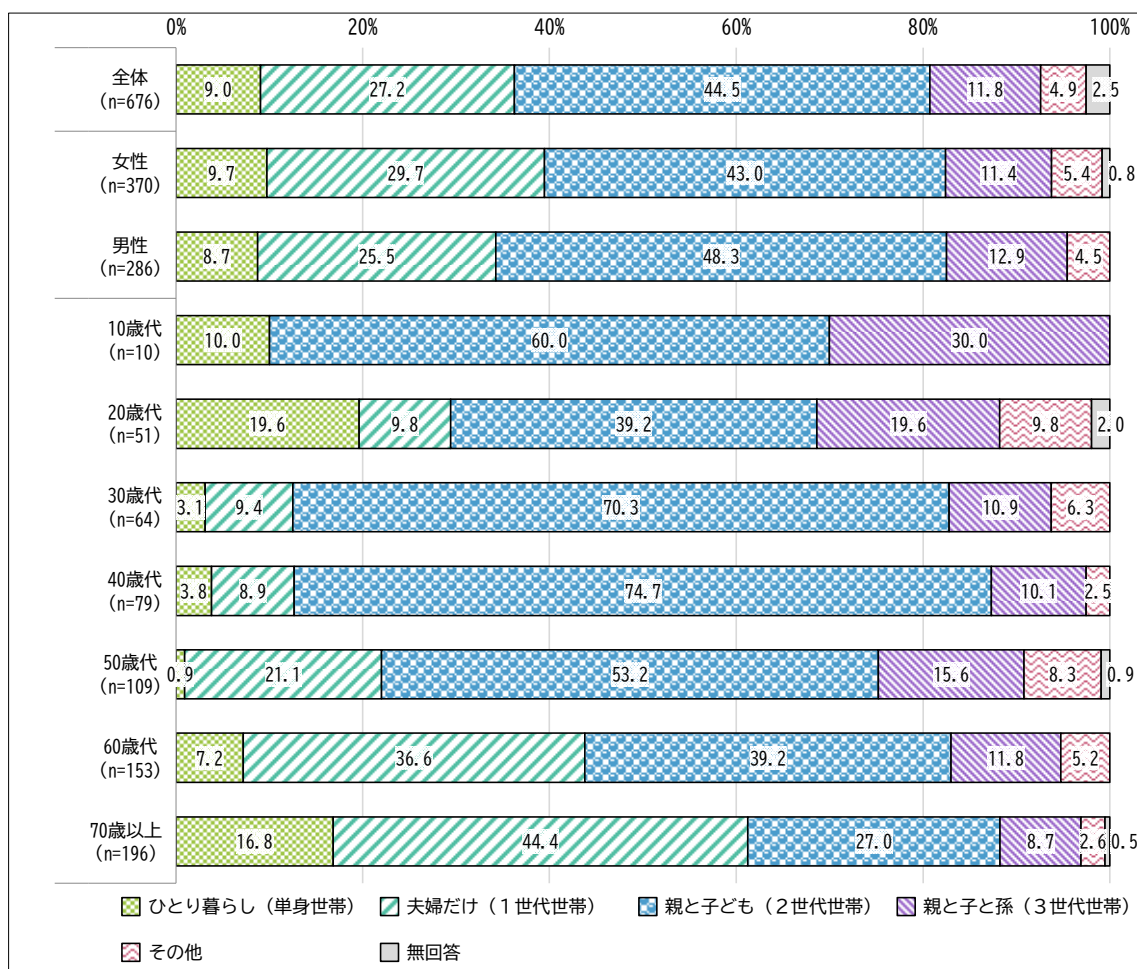
分 類	件 数
出会いがない/相手がいない	25 件
年齢的に(まだ若い)	15 件
機会がなかった/今はそのタイミングではない	12 件
結婚に興味がない	9 件
結婚の必要性を感じない	4 件
仕事	4 件
一人が楽	3 件
性的指向	2 件
家族	2 件
その他	4 件
合 計	80 件

Q5 あなたが現在同居している家族構成はどれですか。(単数回答)

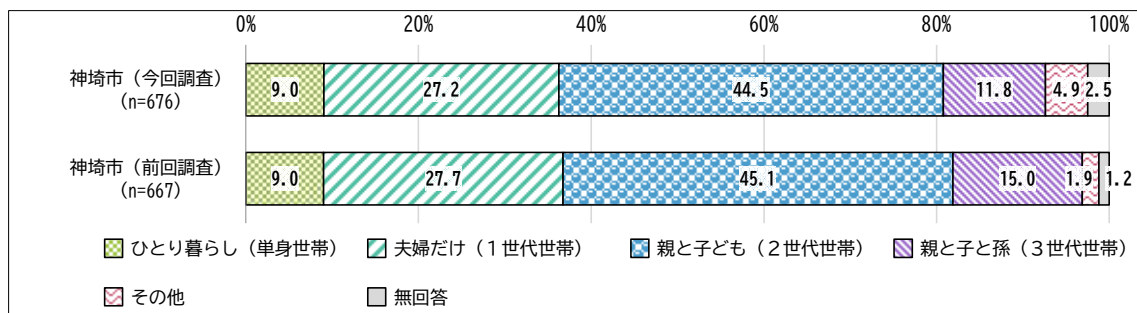
○全体では「親と子ども（２世代世帯）」が 44.5%と最も高く、次いで「夫婦だけ（１世代世帯）」27.2%、「親と子と孫（３世代世帯）」11.8%となっています。

○性別でも、男女ともに全体と同様の結果となっています。

○年代別でみると、60 歳代までは「親と子ども（２世代世帯）」が最も高く、特に 30～40 歳代では 7 割を超えており、70 歳以上では「夫婦だけ（１世代世帯）」が最も高くなっています。また、60 歳代以上では約 4 割が「夫婦だけ（１世代世帯）」と回答しています。



【今回・前回比較】

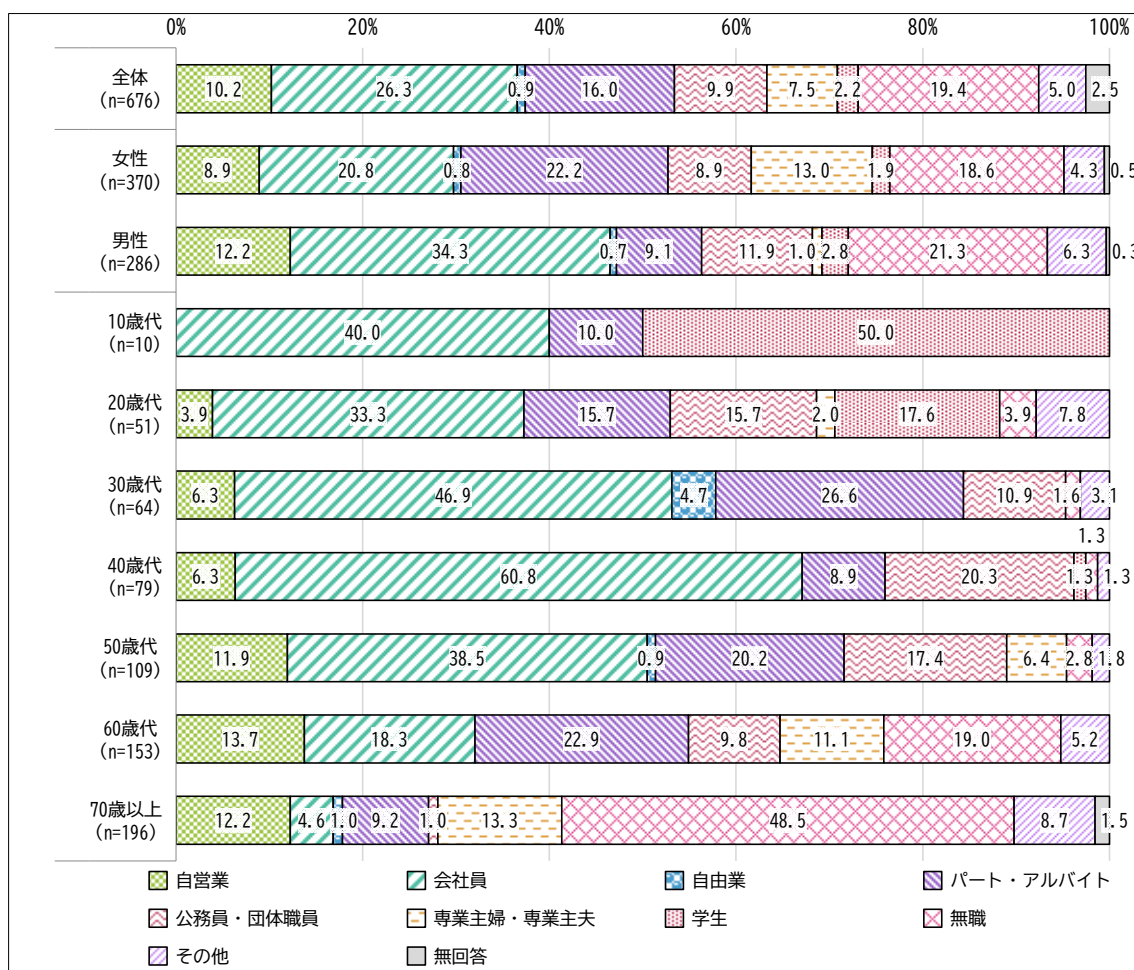


Q6 あなたの職業は、次のどれに当たりますか。(単数回答)

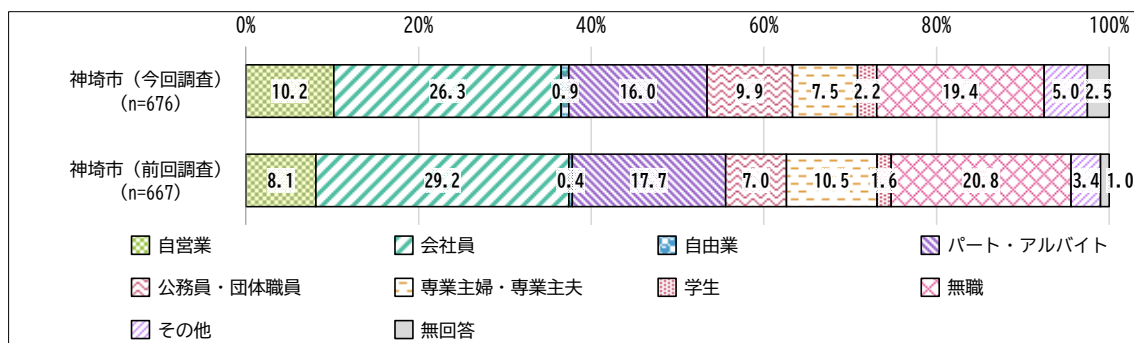
○全体では「会社員」が 26.3%と最も高く、次いで「無職」19.4%、「パート・アルバイト」16.0%となっています。

○性別でみると、女性では「パート・アルバイト」、男性では「会社員」最も高くなっています。また、女性では男性と比べて「会社員」が低く、「パート・アルバイト」「専業主婦・専業主夫」が高くなっており、10 ポイント以上差が生じています。

○年代別でみると、10 歳代では「学生」、20～50 歳代では「会社員」、60 歳代では「パート・アルバイト」、70 歳以上では「無職」が最も高くなっています。



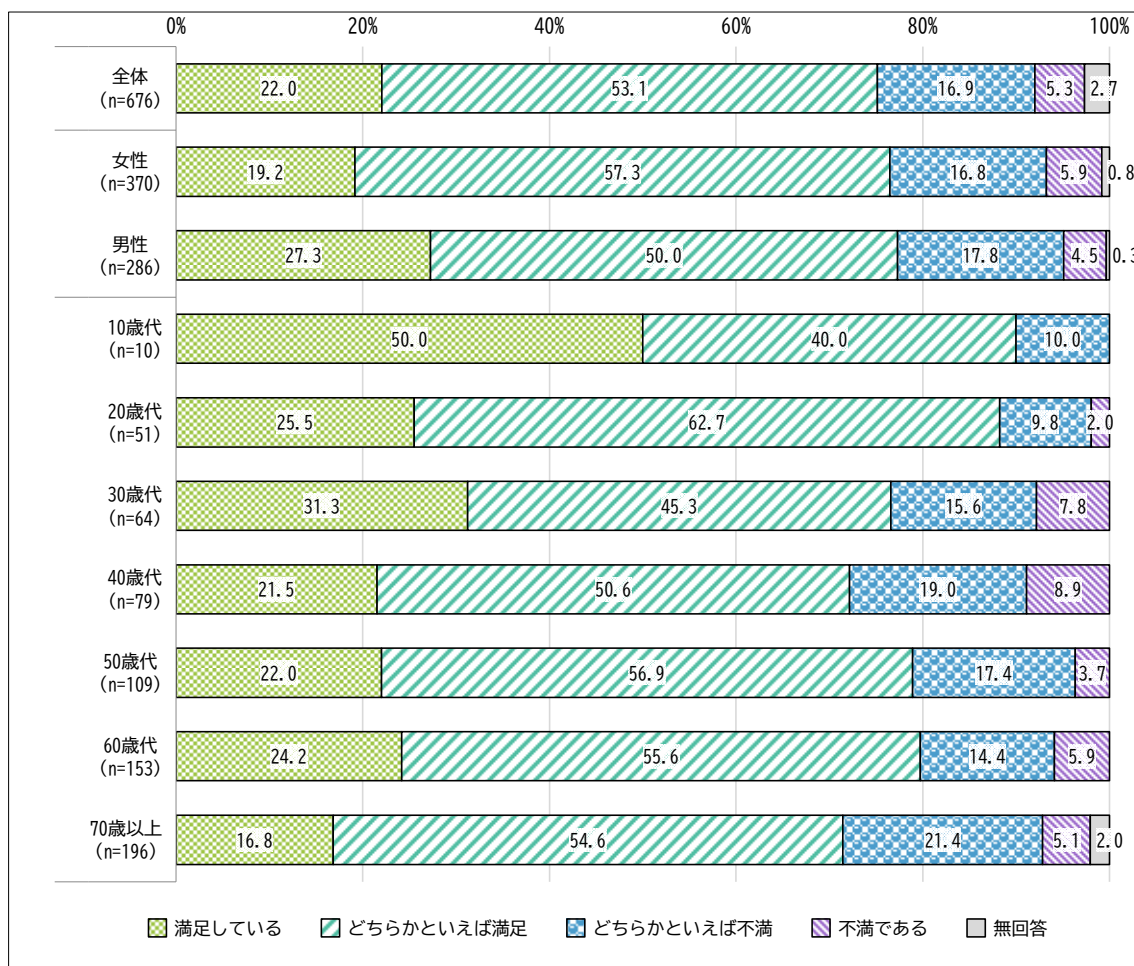
【今回・前回比較】



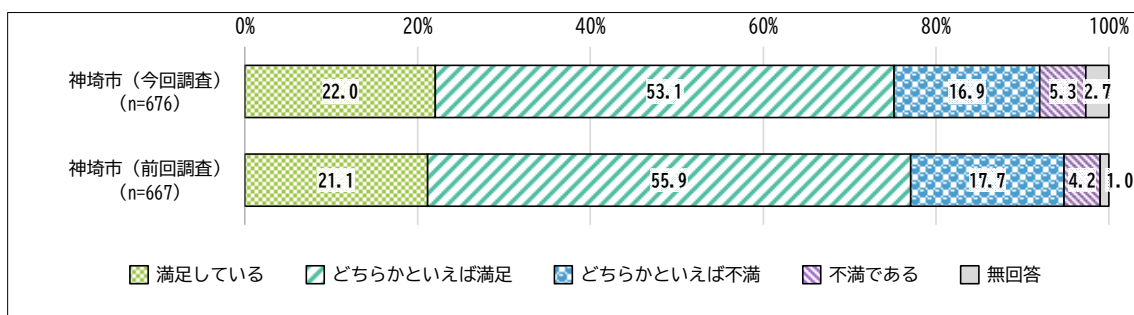
Q7 あなたの今の生活全般の満足度はいかがですか。(単数回答)

○全体では、「どちらかといえば満足」が 53.1%と最も高く、次いで「満足している」22.0%、「どちらかといえば不満」16.9%となっており、75%以上は生活全般に「満足している：満足している+どちらかといえば満足」と回答しています。

○性別及び年代別でも、『満足している』が7割を超えています。



【今回・前回比較】

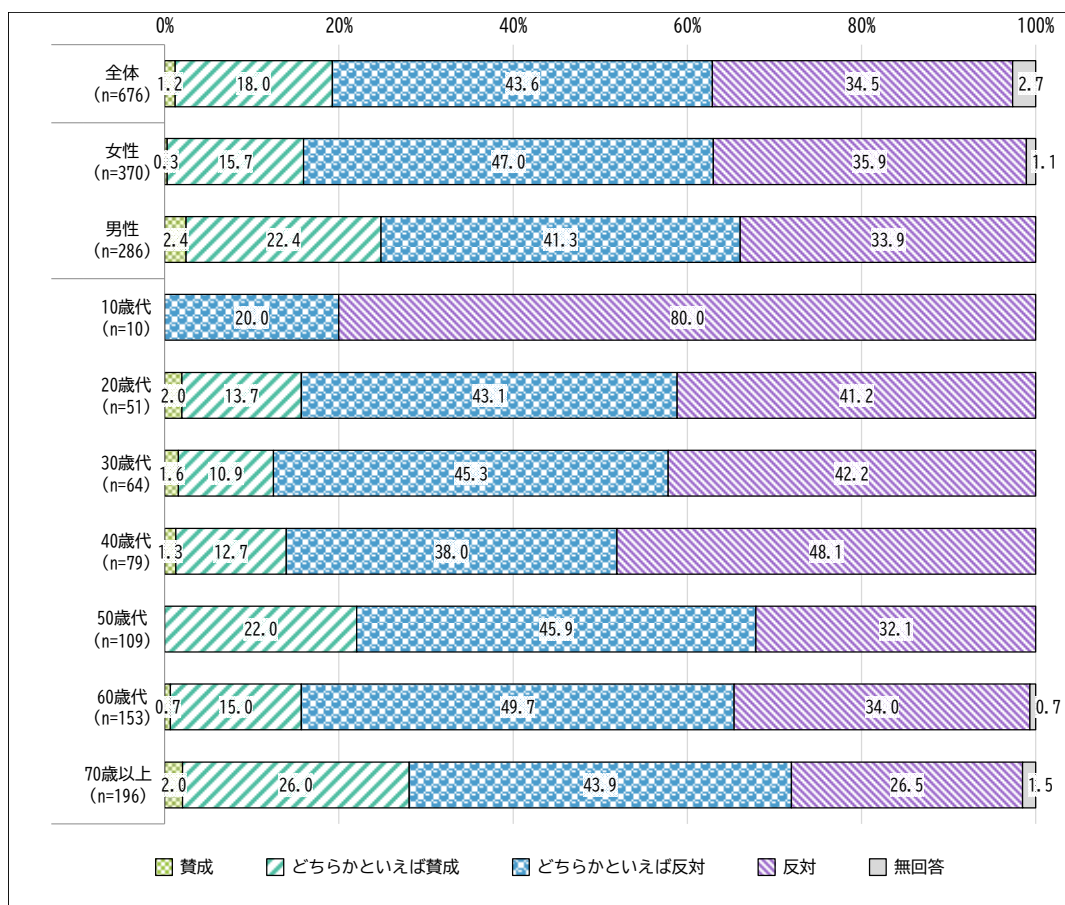


2. 結婚や家庭生活について

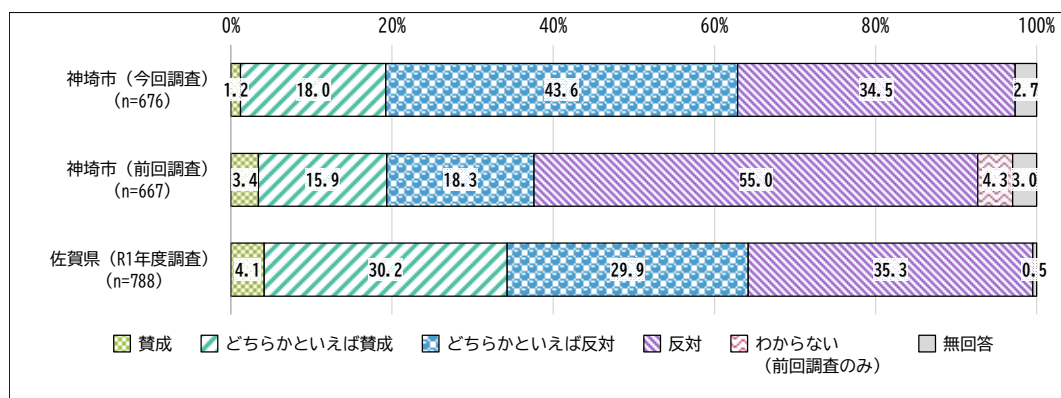
問1 あなたは、「男は仕事、女は家庭」など性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。(単数回答)

○全体では「どちらかといえば反対」が43.6%と最も高く、次いで「反対」34.5%、「どちらかといえば賛成」18.0%となっており、約8割が性別により役割を固定する考え方については「反対：どちらかといえば反対+反対」と回答しています。

○性別及び年代別でも、『反対』が7割を超えており、『賛成』を上回っています。



【今回・前回・県比較】



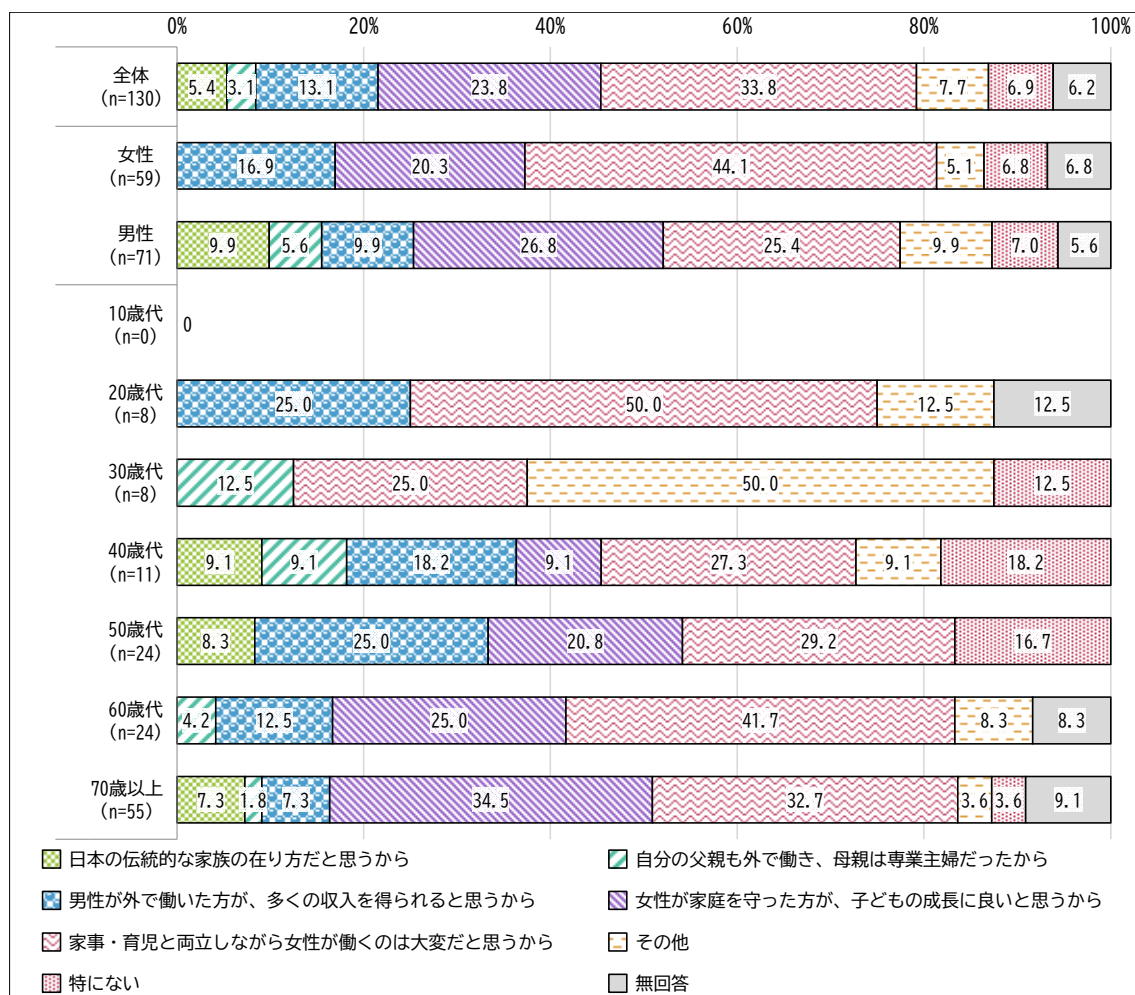
問１－１ 問１でお答えいただいた理由は何ですか。（複数回答）

◆賛成（問１で「賛成」もしくは「どちらかといえば賛成」を選んだ方）

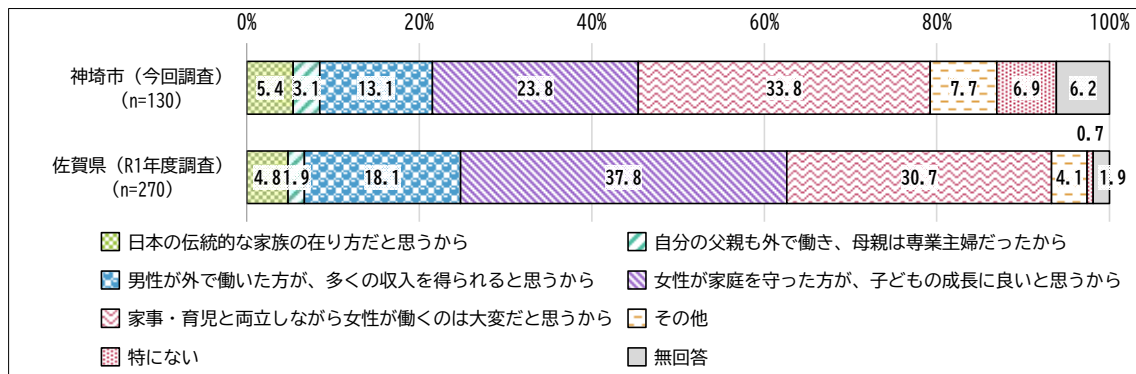
○全体では「家事・育児と両立しながら女性が働くのは大変だと思うから」が33.8%と最も高く、次いで「女性が家庭を守った方が、子どもの成長に良いと思うから」23.8%、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」13.1%となっています。

○性別でみると、女性では「家事・育児と両立しながら女性が働くのは大変だと思うから」が44.1%と最も高く、男性と比べて18.7ポイント高くなっています。また、男性では「女性が家庭を守った方が、子どもの成長に良いと思うから」が26.8%と最も高くなっています。

○年代別についてはサンプル数が少ないため参考程度。



【今回・県比較】



◆賛成：その他

幼児の時は居た方がいい

共働きの社会環境が十分でなく、「家」に支障がないことはない。

多様な働き方があり、個々に自由に決めるべきだ。働くが全てではない。

性別関係なく、どちらかが専業するならそれもありだと思う。

全てではないが、性別に適した役割があると思う。

向き不向きはあるけど、性質的にその方が楽そう。

男女どちらでも良い。稼げる方が稼ぐ、夫婦共に稼ぐ、自由だと思う。仕事と家庭のお互いにバランスをとれば良いと思う。

物理的な性差を全く無視した考え方を画一的に全ての家庭に当てはめようとするとう無理が生じるから。

強要されるのでは無いなら、その人の考えとして受け入れるべきだから。

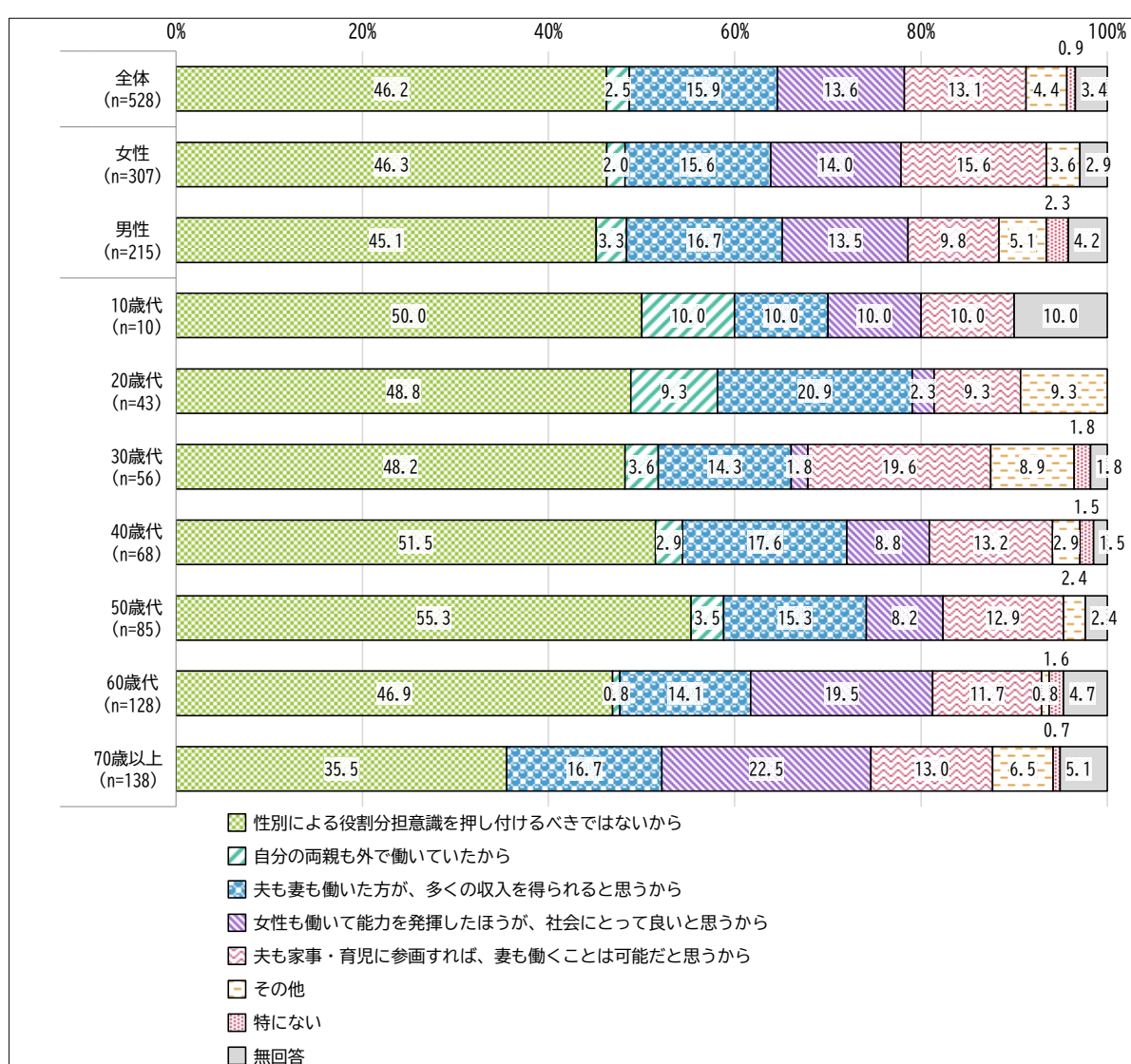
男だけ働いて収入が得られるならそれでいい。

◆反対（問1で「反対」もしくは「どちらかといえば反対」を選んだ方）

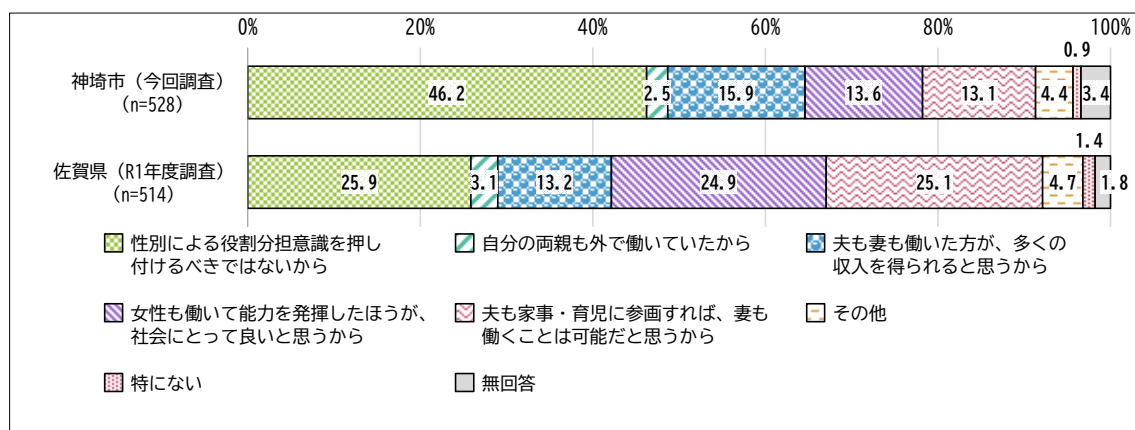
○全体では「性別による役割分担意識を押し付けるべきではないから」が46.2%と最も高く、次いで「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」15.9%、「女性も働いて能力を発揮したほうが、社会にとって良いと思うから」13.6%となっています。

○性別でみても、全体と同様の結果となっています。

○年代別でみても、どの年代も「性別による役割分担意識を押し付けるべきではないから」が最も高くなっています。また、60歳代以上では「女性も働いて能力を発揮したほうが、社会にとって良いと思うから」が他の年代（10歳代を除く）と比べて10ポイント以上高くなっています。



【今回・県比較】

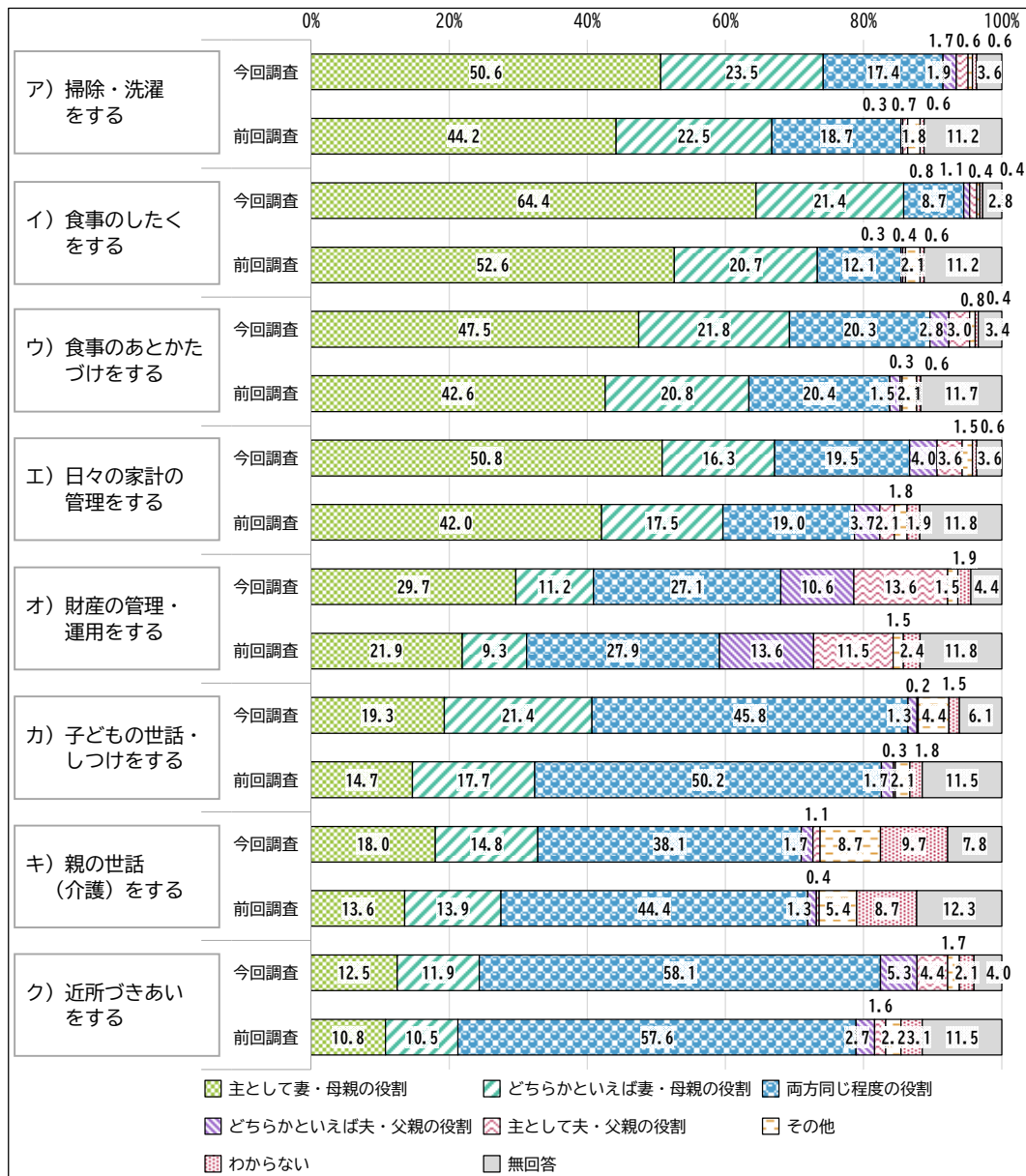


◆反対：その他

効率的でない。	夫婦で話し合って決める。
得手不得手	農業は一人ではできないから。
生き方は自由	自立のため
共働きしないと生活できない！	働きたくない言い訳にすぎないから。
できる事をできる方がすばいと思う。	各々が出来ることを進んで行う様にする。
夫婦又は家族内でよく話し合った結果がベストだと考える。	
自営業の為、妻と一緒に働いてもらっている。	
「女性が働いたら家庭に入る」というのは昔の考えで、一人一人の考えで自分はこうして起業して会社を起こしてでも大きくしたいと思うことは間違っているとは思わないし、夫婦ではあるけど一緒に役割分担しながらの家庭だと思う。	
年齢、男、女関係なく平等。できるものが行う。	
ケースによる。子どもが自立できる様に育てることが先決。	
今後、共働きでないと生活できない。それなのにまだ女性の負担（家事、育児）の方が大きい。	
経済面で共働きでないと生活出来ない事が多い。	
今の世の中、その価値観では無理。生活できないと分かっているから。	
性別にとらわれず自由にすべきだと思うから。	
外で働くことだけが労働ではなく、男も女も外でも家でも同様に自分にできる仕事を分担することがあたりまえのことになってほしい。	
女性は出産の時、身体・心を休めたい。しかし、休んでしまうと生活が苦しくなるので、男性が仕事を多くこなすことには賛成である。	
夫婦でバランスを取れていれば問題ないと思う。ただ、子どもの出産を考えると難しい問題だと思う。少なからず障害になると思う。完全に平等は理想でしかない気がします。	
『男は仕事、女は家庭』とても古い考え。その時代で生きてきた現在の高齢者、男は家の事が何もできず、女が体調不良や入院をした場合に何もできない男が多い印象。また、現代の高物価低収入では成り立たない。	
「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られるから」に近いが、片方だけの稼ぎで安心できない。片方の稼ぎで安心できるのだったら良い。	

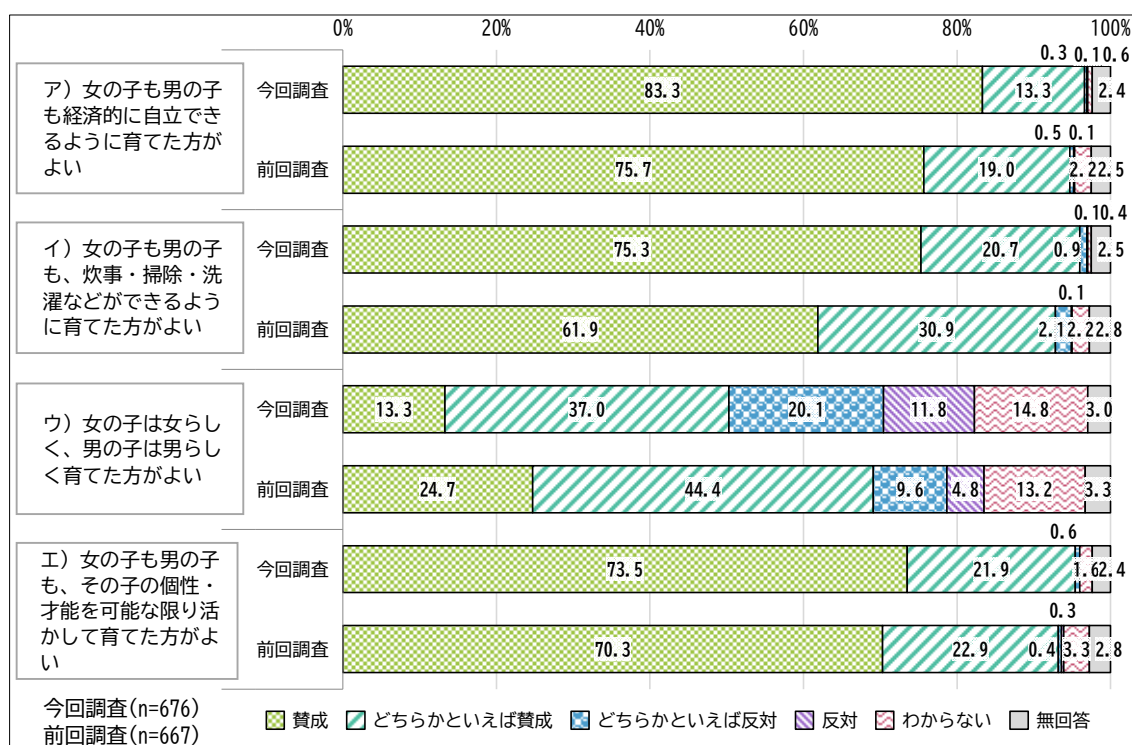
問2 あなたのご家庭では、次にあげるような日常的な事柄は、どなたの役割ですか。 (単数回答)

- どの項目も「妻・母親の役割：主として+どちらかといえば」が『夫・父親の役割』を上回っており、特に「掃除・洗濯をする」「食事のしたくをする」「食事のあとかたづけをする」「日々の家計の管理をする」は6割を超えています。また、『夫・父親の役割』では、「財産の管理・運用をする」が24.2%と最も高くなっていますが、それ以外はいずれも1割以下となっています。
- 「両方同じ程度の役割」としては、「近所づきあいをする」が58.1%と最も高く、次いで「子どもの世話・しつけをする」45.8%、「親の世話（介護）をする」38.1%となっています。
- 前回調査との比較をみると、「食事のしたくをする」では『妻・母親の役割』が12.5ポイント高くなっています。



問3 あなたは、子どもの育て方について、どのような考えをお持ちですか。 (単数回答)

- 「賛成：賛成+どちらかといえば賛成」では、「ア）女の子も男の子も経済的に自立できるように育てた方がよい」「イ）女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯などができるように育てた方がよい」「エ）女の子も男の子も、その子の個性・才能を可能な限り活かして育てた方がよい」が9割を超えています。
- 「反対：反対+どちらかといえば反対」では「ウ）女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」が最も高く、3割を超えています。
- 前回調査との比較をみると、「ウ）女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」では『賛成』が高く、『反対』が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。



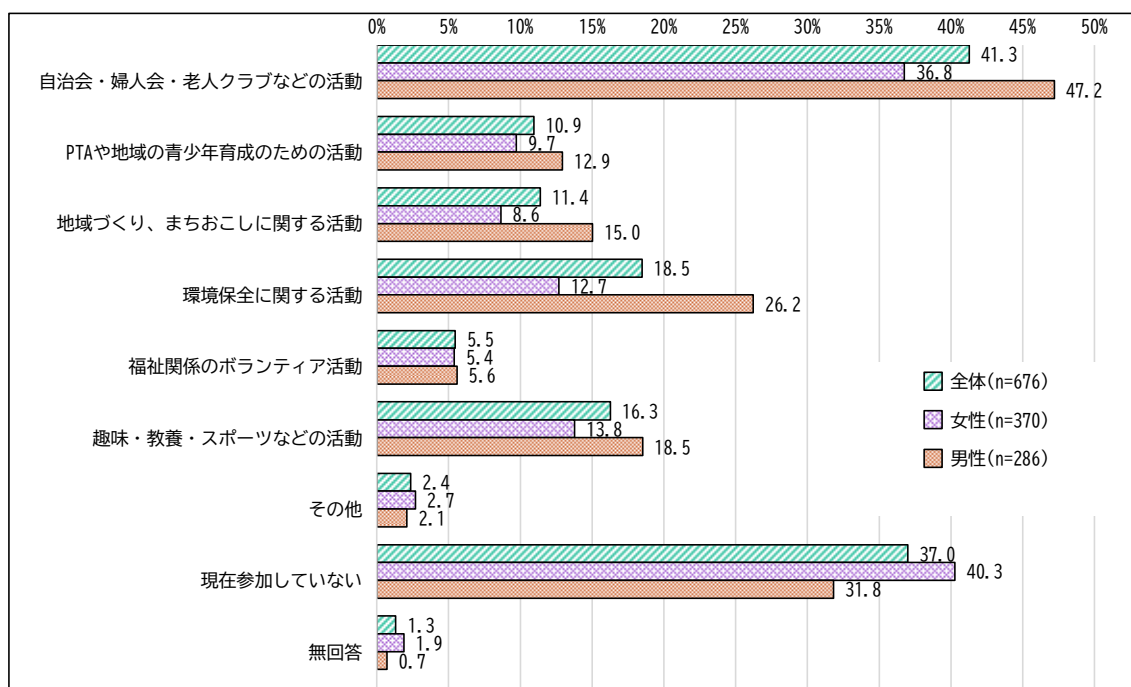
3. 地域活動などへの参加について

問4 あなたは、地域社会においてどのような活動に参加していますか。参加されている活動の番号を選んでください。(複数回答)

○全体では「自治会・婦人会・老人クラブなどの活動」が 41.3%と最も高く、次いで「現在参加していない」37.0%、「環境保全に関する活動」18.5%となっています。

○性別でみると、女性では「現在参加していない」が最も高く、4割を超えています。また、男性も3割が「現在参加していない」と回答していますが、全体的に地域活動への参加率は女性より高くなっており、特に「自治会・婦人会・老人クラブなどの活動」「環境保全に関する活動」は女性と比べて10ポイント以上高くなっています。

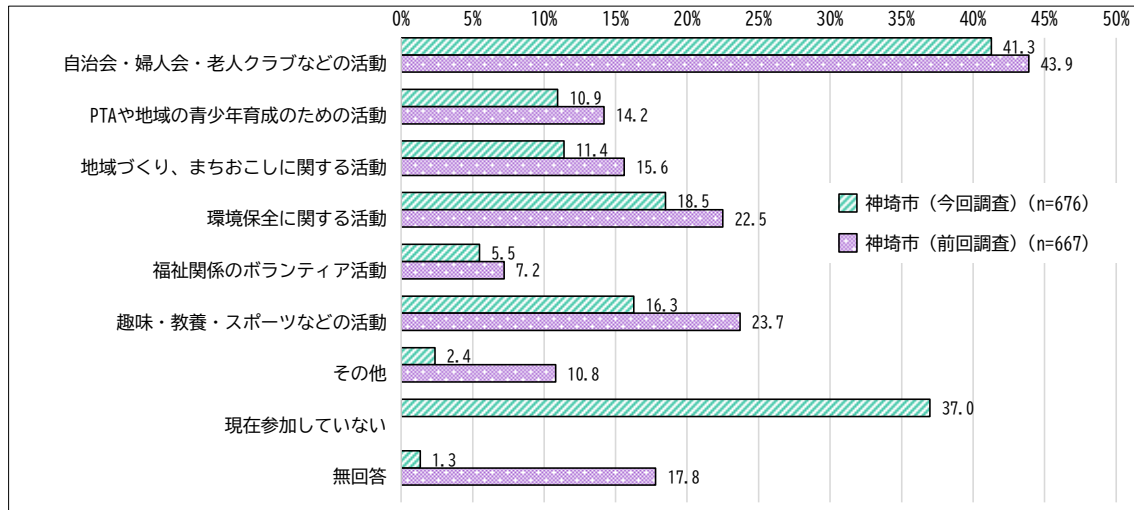
○年代別でみると、40歳代までは「現在参加していない」、50歳代以上では「自治会・婦人会・老人クラブなどの活動」が最も高くなっています。また、30～40歳代では「PTAや地域の青少年育成のための活動」が他の年代と比べて15ポイント以上高くなっています。



(上段：人 下段：%)

		標 本 数 (人)	な 会 自 治 会 ・ 老 人 ク ラ ブ な ど の 活 動	め の 活 動 育 成 の 域 た の	P T A や 地 域 の	ち お こ し に 関 す ま	地 域 づ く り 、 ま ち お こ し に 関 す ま	環 境 保 全 に 関 す ま	福 祉 関 係 の ボ ラ ン ティ ア 活 動	動 ボ ー ッ ・ 教 養 ・ ス ポ ー ツ な ど の 活 動	そ の 他	な い 現 在 参 加 し て い ない	無 回 答
全体 (単純集計)		676	279 41.3%	74 10.9%	77 11.4%	125 18.5%	37 5.5%	110 16.3%	16 2.4%	250 37.0%	9 1.3%		
年 齢 別	10歳代	10	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	2 20.0%	0 0.0%	3 30.0%	0 0.0%	5 50.0%	0 0.0%		
	20歳代	51	4 7.8%	2 3.9%	2 3.9%	2 3.9%	1 2.0%	3 5.9%	2 3.9%	36 70.6%	1 2.0%		
	30歳代	64	14 21.9%	17 26.6%	6 9.4%	4 6.3%	1 1.6%	5 7.8%	1 1.6%	34 53.1%	0 0.0%		
	40歳代	79	29 36.7%	20 25.3%	10 12.7%	15 19.0%	6 7.6%	11 13.9%	0 0.0%	32 40.5%	0 0.0%		
	50歳代	109	47 43.1%	10 9.2%	9 8.3%	18 16.5%	3 2.8%	11 10.1%	3 2.8%	37 33.9%	1 0.9%		
	60歳代	153	75 49.0%	9 5.9%	17 11.1%	36 23.5%	10 6.5%	20 13.1%	5 3.3%	56 36.6%	1 0.7%		
	70歳以上	196	102 52.0%	15 7.7%	30 15.3%	45 23.0%	15 7.7%	51 26.0%	5 2.6%	46 23.5%	6 3.1%		

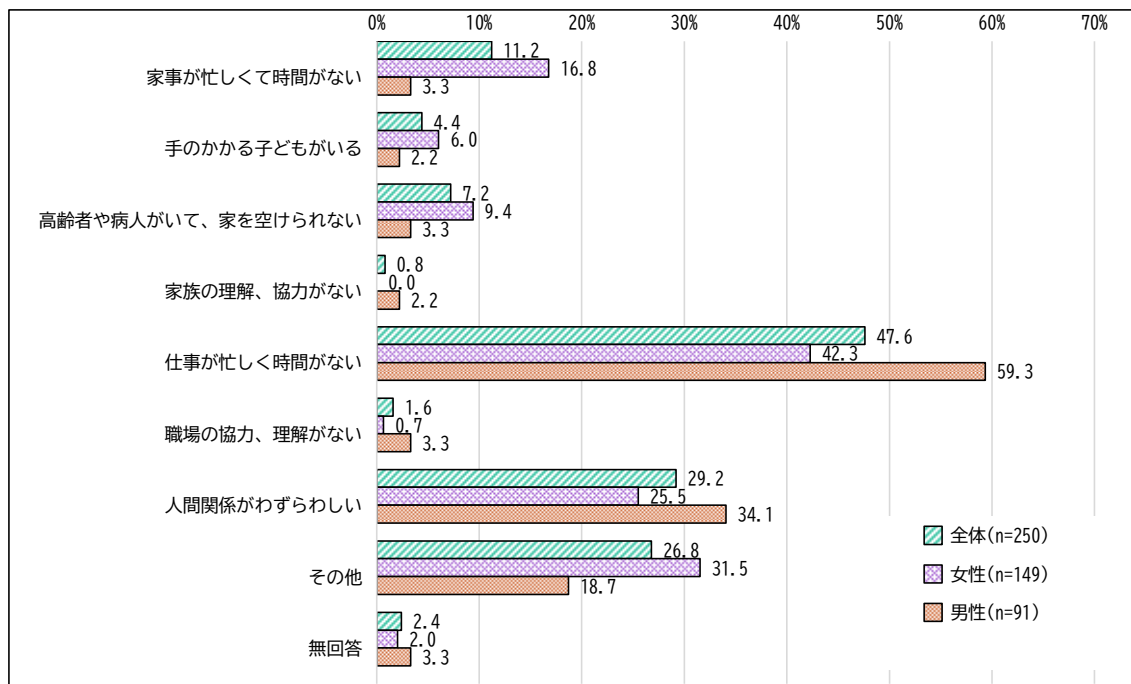
【今回・前回比較】



問4で「8. 現在参加していない」と回答した方のみ

問5 あなたが、問4のような活動に参加されていない場合、どのような理由からですか。(2つまで)

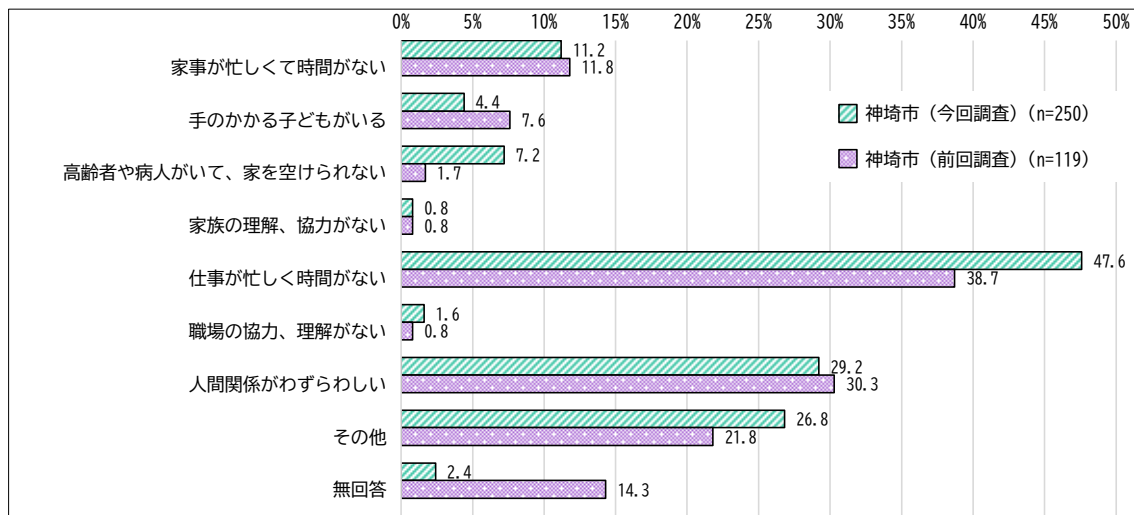
- 全体では「仕事が忙しく時間がない」が47.6%と最も高く、次いで「人間関係がわずらわしい」29.2%、「その他」26.8%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「仕事が忙しく時間がない」が最も高く、男性では女性と比べて17.0ポイント高くなっています。また、女性では男性と比べて「家事が忙しくて時間がない」が13.5ポイント高くなっています。
- 年代別でみると、20～60歳代では「仕事が忙しく時間がない」、70歳以上では「その他」が最も高くなっています。また、20～30歳代では「人間関係がわずらわしい」、30歳代では「手のかかる子どもがいる」が他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。(10歳代についてはサンプル数が少ないため参考程度)



(上段：人 下段：%)

		標 本 数 (人)	間家事が忙しくて時間がない	手のかかる子どもがいる	ない、高齢者や病人がいて、家を空けられない	家族の理解、協力がでない	仕事や家事が忙しくて時間がない	職場の協力、理解がない	人間関係がわずらわしい	その他	無回答
全体 (単純集計)		250	28 11.2%	11 4.4%	18 7.2%	2 0.8%	119 47.6%	4 1.6%	73 29.2%	67 26.8%	6 2.4%
年 齢 別	10歳代	5	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	2 40.0%
	20歳代	36	3 8.3%	2 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	19 52.8%	0 0.0%	15 41.7%	9 25.0%	1 2.8%
	30歳代	34	4 11.8%	7 20.6%	1 2.9%	0 0.0%	20 58.8%	0 0.0%	15 44.1%	6 17.6%	0 0.0%
	40歳代	32	6 18.8%	1 3.1%	0 0.0%	1 3.1%	21 65.6%	2 6.3%	7 21.9%	5 15.6%	1 3.1%
	50歳代	37	2 5.4%	0 0.0%	4 10.8%	1 2.7%	21 56.8%	0 0.0%	10 27.0%	7 18.9%	0 0.0%
	60歳代	56	8 14.3%	1 1.8%	6 10.7%	0 0.0%	24 42.9%	1 1.8%	14 25.0%	17 30.4%	0 0.0%
	70歳以上	46	5 10.9%	0 0.0%	7 15.2%	0 0.0%	12 26.1%	1 2.2%	11 23.9%	19 41.3%	2 4.3%

【今回・前回比較】

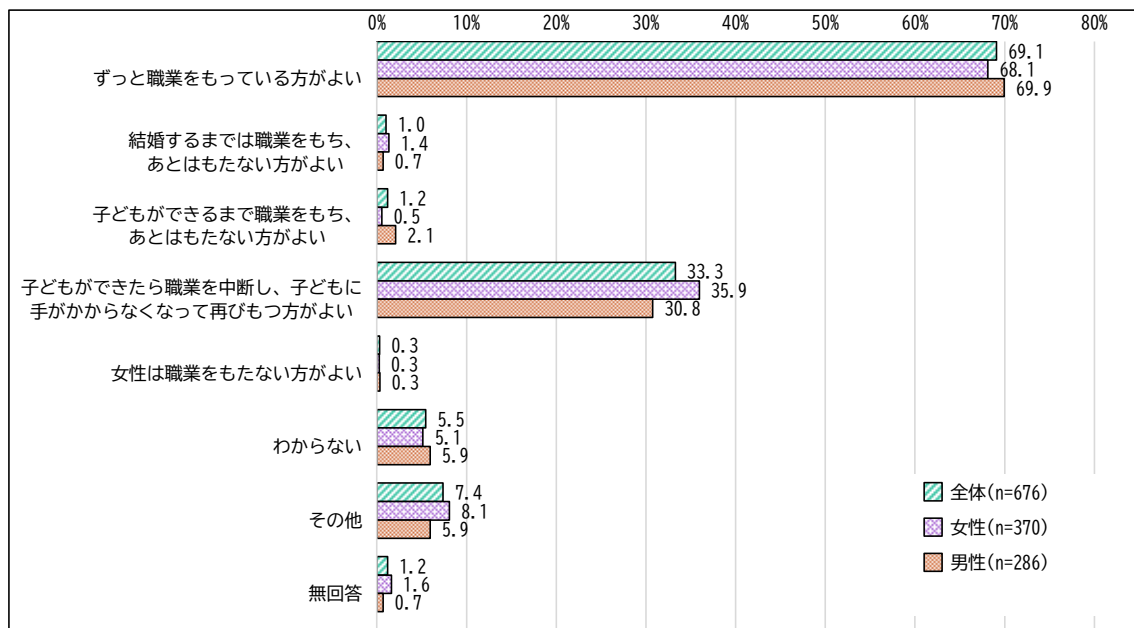


4. 女性が職業を持つことや社会参画について

問6 あなたは、女性が職業を持つことについて、どう思いますか。(複数回答)

○全体では「ずっと職業をもっている方がよい」が 69.1%と最も高く、次いで「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」33.3%、「その他」7.4%となっています。

○性別及び年代別でも、全体と同様の結果となっています。



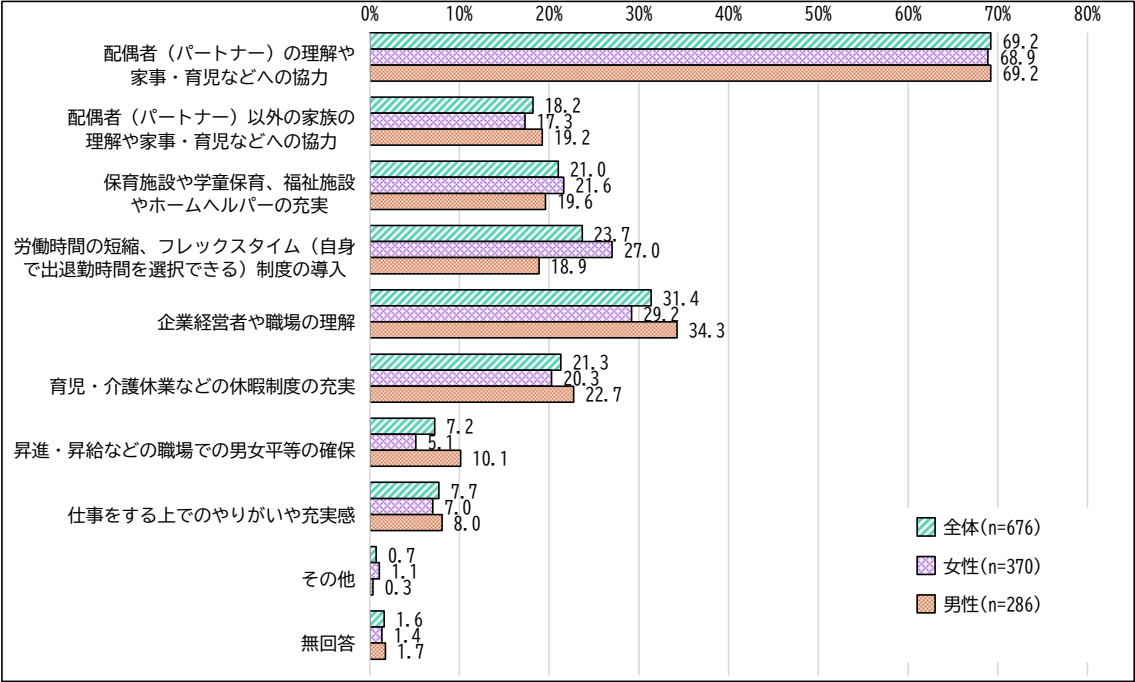
(上段：人 下段：%)

		標本数(人)	ずっと職業をもっている方がよい	結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい	子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい	子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい	女性が職業をもたない方がよい	わからない	その他	無回答
全体(単純集計)			467 69.1%	7 1.0%	8 1.2%	225 33.3%	2 0.3%	37 5.5%	50 7.4%	8 1.2%
年齢別	10歳代	10	5 50.0%	2 20.0%	1 10.0%	4 40.0%	0 0.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%
	20歳代	51	28 54.9%	3 5.9%	0 0.0%	13 25.5%	0 0.0%	8 15.7%	3 5.9%	1 2.0%
	30歳代	64	42 65.6%	0 0.0%	1 1.6%	24 37.5%	0 0.0%	6 9.4%	11 17.2%	0 0.0%
	40歳代	79	62 78.5%	0 0.0%	0 0.0%	18 22.8%	0 0.0%	3 3.8%	5 6.3%	0 0.0%
	50歳代	109	76 69.7%	0 0.0%	0 0.0%	27 24.8%	0 0.0%	8 7.3%	7 6.4%	0 0.0%
	60歳代	153	114 74.5%	1 0.7%	4 2.6%	55 35.9%	0 0.0%	2 1.3%	16 10.5%	1 0.7%
	70歳以上	196	128 65.3%	1 0.5%	2 1.0%	81 41.3%	2 1.0%	7 3.6%	8 4.1%	6 3.1%

問7 あなたは、女性が結婚後や出産後も退職せずに働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。（2つまで）

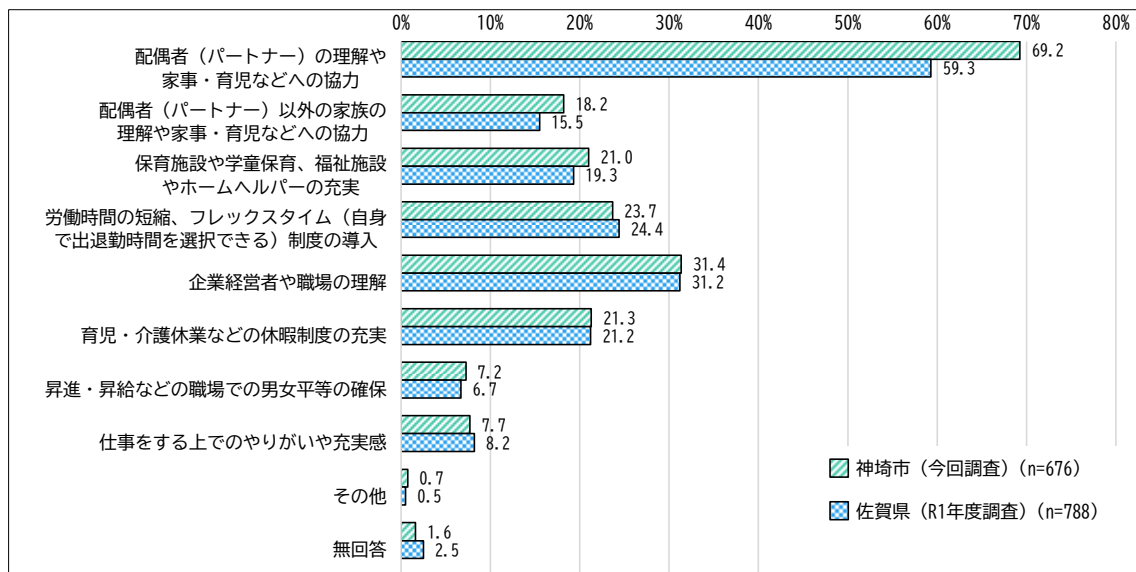
○全体では「配偶者（パートナー）の理解や家事・育児などへの協力」が 69.2%と最も高く、次いで「企業経営者や職場の理解」31.4%、「労働時間の短縮、フレックスタイム（自身で出退勤時間を選択できる）制度の導入」23.7%となっています。

○性別及び年代別でも、6割以上が「配偶者（パートナー）の理解や家事・育児などへの協力」と回答しています。



(上段：人 下段：%)																
		標本数（人）	の協力	理解や家事・育児などへの協力	育児者（パートナー）以外の家族の理解や家事・育児などへの協力	配偶者（パートナー）の充実	福祉施設やホームヘルパーの充実	保育施設や学童保育、福祉の導入	勤務時間を選択できる）制限	労働時間の短縮、フレックスタイム（自身で出退	企業経営者や職場の理解	育児・介護休業などの休暇制度の充実	昇進・昇給などの職場での男女平等の確保	仕事をする上でのやりがいや充実感	その他	無回答
全体（単純集計）		676	468 69.2%	123 18.2%	142 21.0%	160 23.7%	212 31.4%	144 21.3%	49 7.2%	52 7.7%	5 0.7%	11 1.6%				
年齢別	10歳代	10	9 90.0%	1 10.0%	0 0.0%	4 40.0%	3 30.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%				
	20歳代	51	34 66.7%	4 7.8%	8 15.7%	17 33.3%	14 27.5%	16 31.4%	5 9.8%	1 2.0%	0 0.0%	1 2.0%				
	30歳代	64	47 73.4%	9 14.1%	13 20.3%	20 31.3%	17 26.6%	16 25.0%	6 9.4%	3 4.7%	2 3.1%	0 0.0%				
	40歳代	79	53 67.1%	10 12.7%	17 21.5%	17 21.5%	29 36.7%	9 11.4%	4 5.1%	4 5.1%	2 2.5%	2 2.5%				
	50歳代	109	83 76.1%	20 18.3%	20 18.3%	23 21.1%	36 33.0%	26 23.9%	9 8.3%	8 7.3%	0 0.0%	0 0.0%				
	60歳代	153	107 69.9%	36 23.5%	33 21.6%	40 26.1%	60 39.2%	33 21.6%	13 8.5%	12 7.8%	1 0.7%	1 0.7%				
	70歳以上	196	124 63.3%	42 21.4%	46 23.5%	35 17.9%	50 25.5%	40 20.4%	10 5.1%	22 11.2%	6 3.1%					

【今回・県比較】

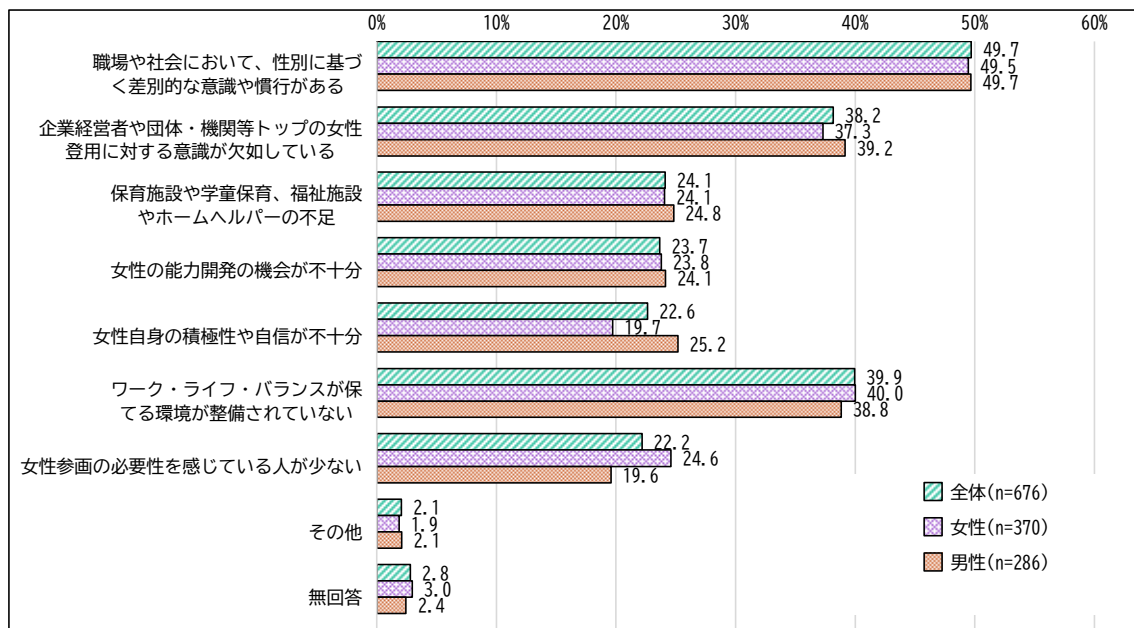


問8 あなたは、政治や行政、企業などのさまざまな分野において、管理職等への登用など企画や方針決定の場に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。
(複数回答)

○全体では「職場や社会において、性別に基づく差別的な意識や慣行がある」が49.7%と最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランスが保てる環境が整備されていない」39.9%、「企業経営者や団体・機関等トップの女性登用に対する意識が欠如している」38.2%となっています。

○性別でみても、全体と同様の結果となっています。

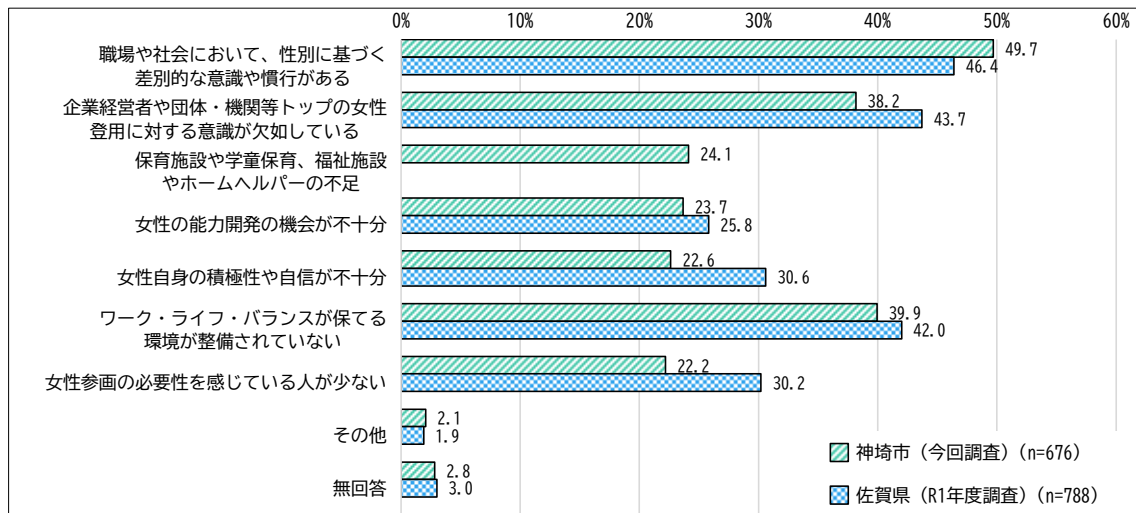
○年代別でみると、30歳代では「ワーク・ライフ・バランスが保てる環境が整備されていない」、50歳代では「職場や社会において、性別に基づく差別的な意識や慣行がある」「ワーク・ライフ・バランスが保てる環境が整備されていない」が同率、それ以外の年代では「職場や社会において、性別に基づく差別的な意識や慣行がある」が最も高くなっています。また、20～50歳代では「ワーク・ライフ・バランスが保てる環境が整備されていない」が4割を超えており、他の年代と比べて高くなっています。



(上段：人 下段：%)

		標 本 数 (人)	や別職 慣場や に基づ く社会 ににお いて、 意識性	するト ップの 女性登 用に機 関等関	企業経 営者や 団体・ 機関の 不足	社施設 や学童 保育、 福祉パ ーの不 足	保女性 育の能 力開 発の機 会が不 十分	が女性 自身 の積極 性や自 信が不 十分	れてい ない保 育・ラ イフ・ 環境が 整備さ れてい ない	ワーク ・ライ フ・バ ランス が保 てられ ていない	女性参 画の必 要性を 感じて いる人 が少ない	その他	無 回 答
全体 (単純集計)			336 49.7%	258 38.2%	163 24.1%	160 23.7%	153 22.6%	270 39.9%	150 22.2%	14 2.1%	19 2.8%		
年 齢 別	10歳代	10	8 80.0%	3 30.0%	2 20.0%	1 10.0%	0 0.0%	3 30.0%	4 40.0%	0 0.0%	0 0.0%		
	20歳代	51	28 54.9%	11 21.6%	9 17.6%	7 13.7%	5 9.8%	26 51.0%	10 19.6%	1 2.0%	2 3.9%		
	30歳代	64	27 42.2%	23 35.9%	17 26.6%	14 21.9%	10 15.6%	37 57.8%	11 17.2%	4 6.3%	0 0.0%		
	40歳代	79	40 50.6%	25 31.6%	18 22.8%	13 16.5%	12 15.2%	39 49.4%	12 15.2%	1 1.3%	4 5.1%		
	50歳代	109	53 48.6%	42 38.5%	27 24.8%	21 19.3%	25 22.9%	53 48.6%	27 24.8%	0 0.0%	0 0.0%		
	60歳代	153	82 53.6%	61 39.9%	49 32.0%	38 24.8%	38 24.8%	57 37.3%	35 22.9%	4 2.6%	2 1.3%		
	70歳以上	196	93 47.4%	89 45.4%	40 20.4%	64 32.7%	56 28.6%	50 25.5%	49 25.0%	3 1.5%	10 5.1%		

【今回・県比較】

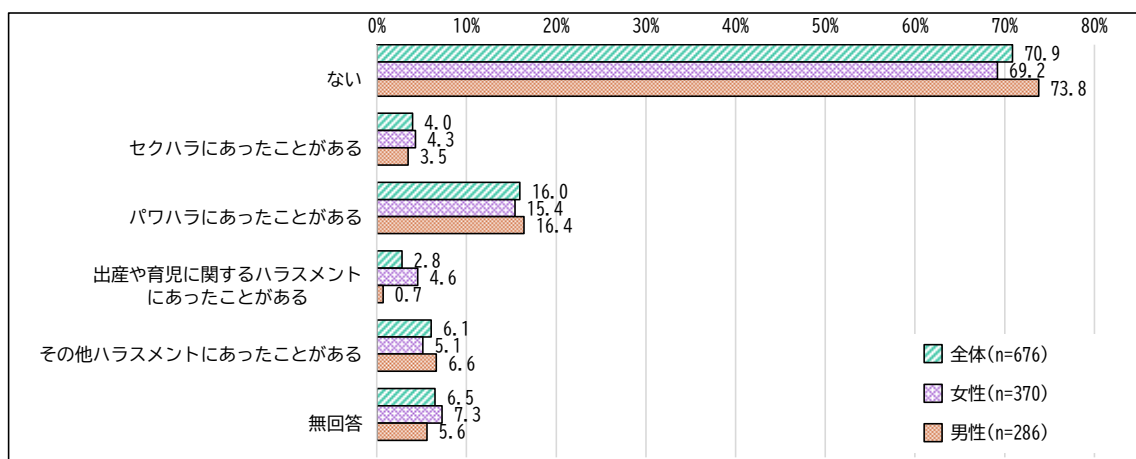


問9 過去5年間に、職場等において、次のようなハラスメント行為（いやがらせやいじめ）にあったことがありますか。（複数回答）

○全体では、「ない」が 70.9%と最も高く、次いで「パワハラにあったことがある」16.0%、「その他ハラスメントにあったことがある」6.1%となっています。

○性別でみても、全体と同様の結果となっており、約7割がハラスメント行為にあったことが「ない」と回答しています。

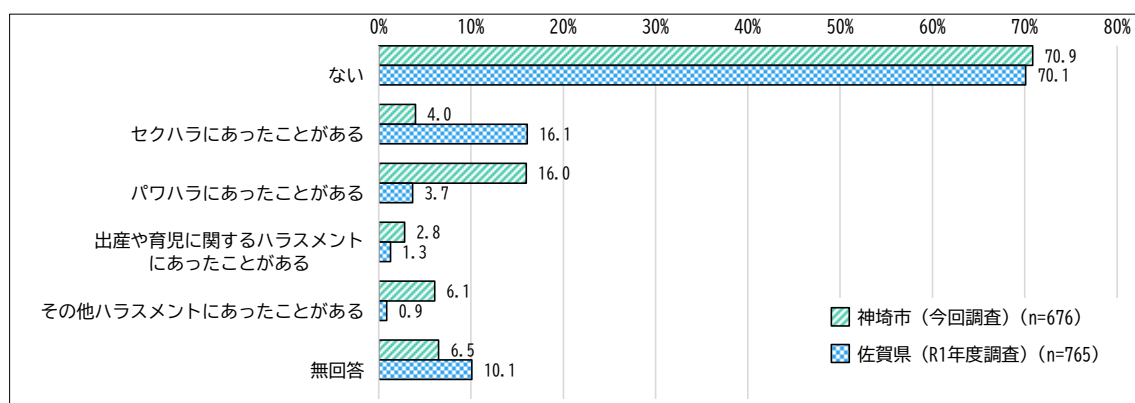
○年代別でみても、「ない」が最も高くなっていますが、40歳代では「パワハラにあったことがある」が3割を超えています。



(上段：人 下段：%)

		標本数 (人)	ない	セクハラ にあった ことがある	パワハラ にあった ことがある	ある 出産や 育児に 関する ハラス メント にあっ たこと がある	その 他 ハラス メント にあっ たこと がある	無 回 答
全体 (単純集計)		676	479 70.9%	27 4.0%	108 16.0%	19 2.8%	41 6.1%	44 6.5%
年 齢 別	10歳代	10	10 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	20歳代	51	35 68.6%	7 13.7%	11 21.6%	1 2.0%	3 5.9%	0 0.0%
	30歳代	64	41 64.1%	5 7.8%	14 21.9%	4 6.3%	6 9.4%	0 0.0%
	40歳代	79	46 58.2%	4 5.1%	24 30.4%	5 6.3%	6 7.6%	2 2.5%
	50歳代	109	84 77.1%	5 4.6%	18 16.5%	4 3.7%	5 4.6%	1 0.9%
	60歳代	153	115 75.2%	0 0.0%	23 15.0%	2 1.3%	12 7.8%	7 4.6%
	70歳以上	196	139 70.9%	5 2.6%	16 8.2%	3 1.5%	8 4.1%	33 16.8%

【今回・県比較】

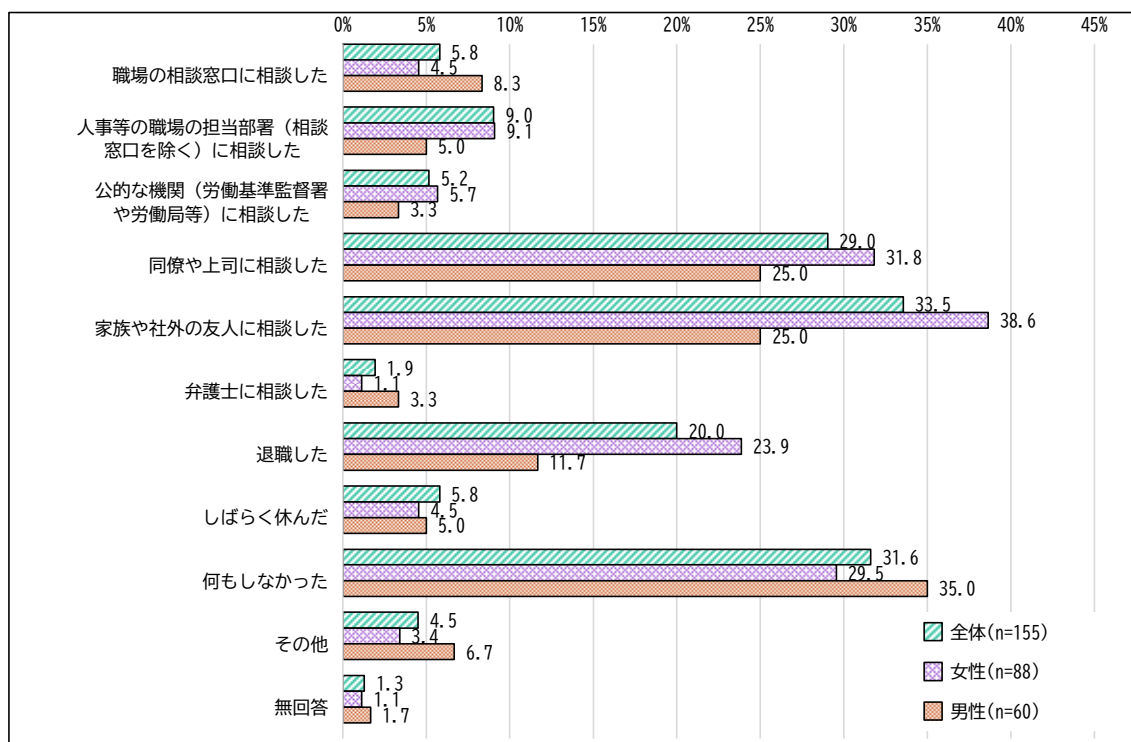


問9—1 あなたは職場において、ハラスメントにあった際にどこかに相談したり、被害を訴えたりしましたか。(複数回答)

○全体では「家族や社外の友人に相談した」が 33.5%と最も高く、次いで「何もしなかった」31.6%、「同僚や上司に相談した」29.0%となっています。

○性別でみると、女性では「同僚や上司に相談した」「家族や社外の友人に相談した」、男性では「何もしなかった」が3割を超えています。また、女性では男性と比べて「家族や社外の友人に相談した」「退職した」が 10 ポイント以上高くなっています。

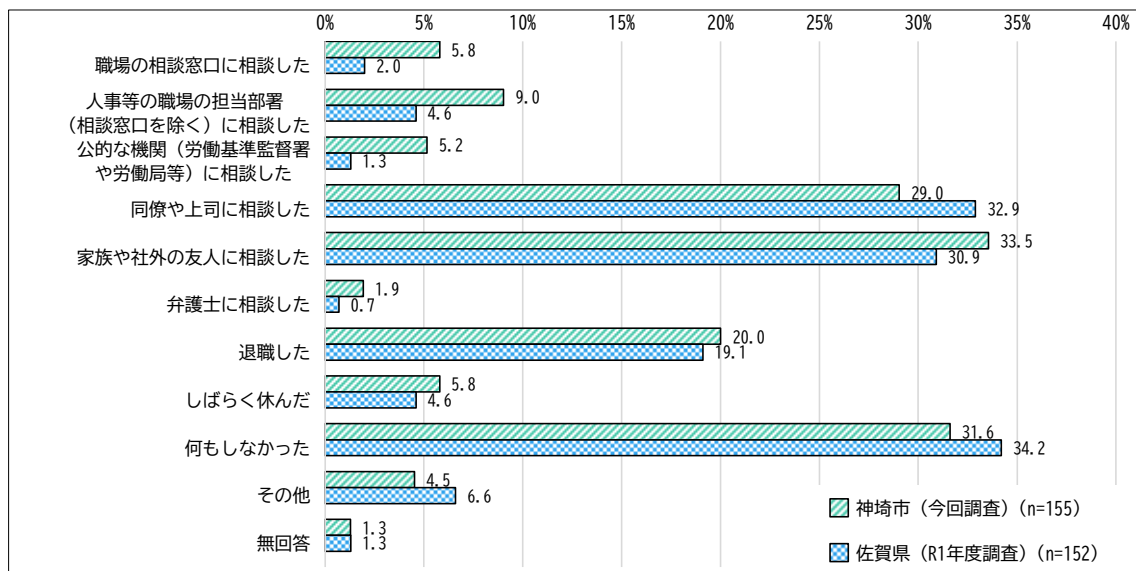
○年代別でみると、20 歳代では「家族や社外の友人に相談した」、30～40 歳代では「同僚や上司に相談した」、50 歳代以上では「何もしなかった」が最も高くなっています。また、20～30 歳代では「退職した」が3割を超えており、他の年代と比べて 20 ポイント以上高くなっています。



(上段：人 下段：%)

		標 本 数 （人）	職 場 の 相 談 窓 口 に 相 談 し た	人 事 等 の 職 場 の 担 当 部 署 （ 相 談 窓 口 を 除 く ） に 相 談 し た	公 的 な 機 関 （ 労 働 基 準 監 督 署 や 労 働 局 等 ） に 相 談 し た	同 僚 や 上 司 に 相 談 し た	家 族 や 社 外 の 友 人 に 相 談 し た	弁 護 士 に 相 談 し た	退 職 し た	し ば ら く 休 ん だ	何 も し な か つ た	そ の 他	無 回 答
全体 （単純集計）		155	9 5.8%	14 9.0%	8 5.2%	45 29.0%	52 33.5%	3 1.9%	31 20.0%	9 5.8%	49 31.6%	7 4.5%	2 1.3%
年 齢 別	10歳代	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	20歳代	16	1 6.3%	3 18.8%	1 6.3%	7 43.8%	8 50.0%	0 0.0%	6 37.5%	0 0.0%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
			2 8.3%	1 4.2%	1 4.2%	10 41.7%	9 37.5%	1 4.2%	9 37.5%	2 8.3%	4 16.7%	0 0.0%	1 4.2%
	40歳代	31	3 9.7%	3 9.7%	3 9.7%	14 45.2%	11 35.5%	0 0.0%	4 12.9%	4 12.9%	6 19.4%	1 3.2%	0 0.0%
	50歳代	24	1 4.2%	2 8.3%	1 4.2%	4 16.7%	6 25.0%	1 4.2%	4 16.7%	1 4.2%	10 41.7%	2 8.3%	0 0.0%
			1 3.2%	2 6.5%	1 3.2%	5 16.1%	10 32.3%	0 0.0%	5 16.1%	0 0.0%	16 51.6%	2 6.5%	0 0.0%
	70歳以上	25	1 4.0%	1 4.0%	1 4.0%	5 20.0%	8 32.0%	1 4.0%	2 8.0%	2 8.0%	9 36.0%	2 8.0%	1 4.0%

【今回・県比較】



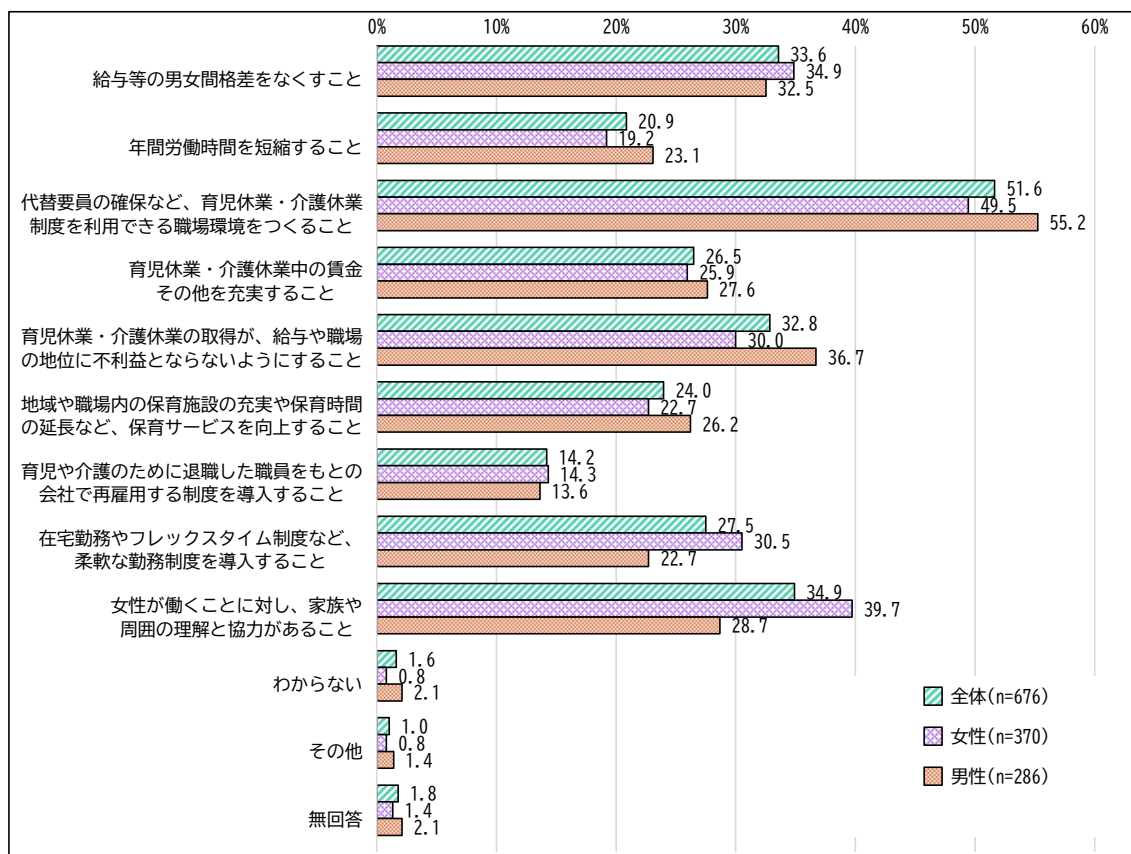
5. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問10 一般的に、男女が共に仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような条件が必要だと思いますか。（3つまで）

○全体では「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が51.6%と最も高く、次いで「女性が働くことに對し、家族や周囲の理解と協力があること」34.9%、「給与等の男女間格差をなくすこと」33.6%となっています。

○性別でも、男女ともに5割前後が「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」と回答しています。また、女性では男性と比べて「女性が働くことに對し、家族や周囲の理解と協力があること」が11.0ポイント高くなっています。

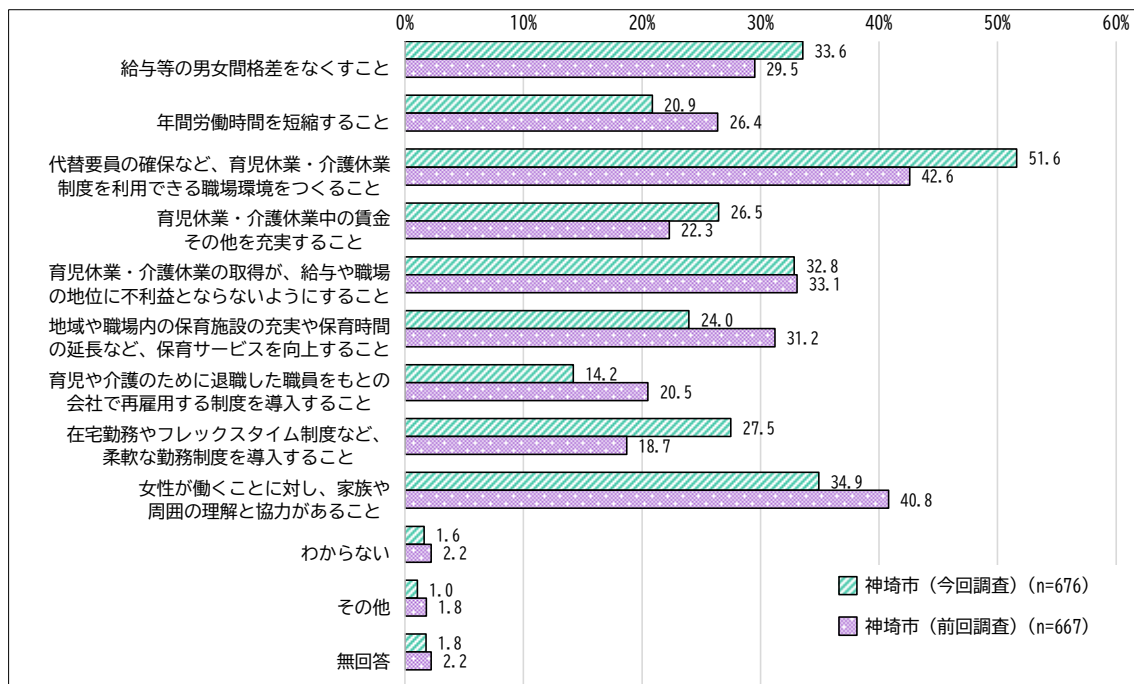
○年代別で見ると、どの年代も「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が最も高く、特に60歳代では6割を超えています。また、10歳代では「給与等の男女間格差をなくすこと」、30歳代では「育児休業・介護休業の取得が、給与や職場の地位に不利益とならないようにすること」が同率で最も高くなっています。



(上段：人 下段：%)

		標本数（人）	給与等の男女間格差をなくすこと	年間労働時間を短縮すること	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	育児休業・介護休業中の賃金 その他を充実すること	育児休業・介護休業の取得が、給与や職場の地位に不利益とならないようにすること	地域や職場内の保育施設の充実や保育時間の延長など、保育サービスを向上すること	育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	わからない	その他	無回答
全体 (単純集計)			227 33.6%	141 20.9%	349 51.6%	179 26.5%	222 32.8%	162 24.0%	96 14.2%	186 27.5%	236 34.9%	11 1.6%	7 1.0%	12 1.8%
年齢別	10歳代	10	4 40.0%	3 30.0%	4 40.0%	3 30.0%	2 20.0%	3 30.0%	0 0.0%	2 20.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	20歳代	51	21 41.2%	13 25.5%	26 51.0%	22 43.1%	15 29.4%	11 21.6%	3 5.9%	18 35.3%	13 25.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30歳代	64	23 35.9%	22 34.4%	29 45.3%	21 32.8%	29 45.3%	13 20.3%	9 14.1%	18 28.1%	14 21.9%	0 0.0%	1 1.6%	0 0.0%
	40歳代	79	34 43.0%	25 31.6%	37 46.8%	18 22.8%	22 27.8%	11 13.9%	7 8.9%	32 40.5%	19 24.1%	1 1.3%	0 0.0%	3 3.8%
	50歳代	109	38 34.9%	25 22.9%	55 50.5%	40 36.7%	28 25.7%	30 27.5%	15 13.8%	32 29.4%	39 35.8%	1 0.9%	2 1.8%	0 0.0%
	60歳代	153	50 32.7%	22 14.4%	96 62.7%	40 26.1%	60 39.2%	38 24.8%	22 14.4%	40 26.1%	55 35.9%	3 2.0%	1 0.7%	2 1.3%
	70歳以上	196	54 27.6%	29 14.8%	98 50.0%	32 16.3%	64 32.7%	54 27.6%	38 19.4%	39 19.9%	87 44.4%	4 2.0%	3 1.5%	6 3.1%

【今回・前回比較】

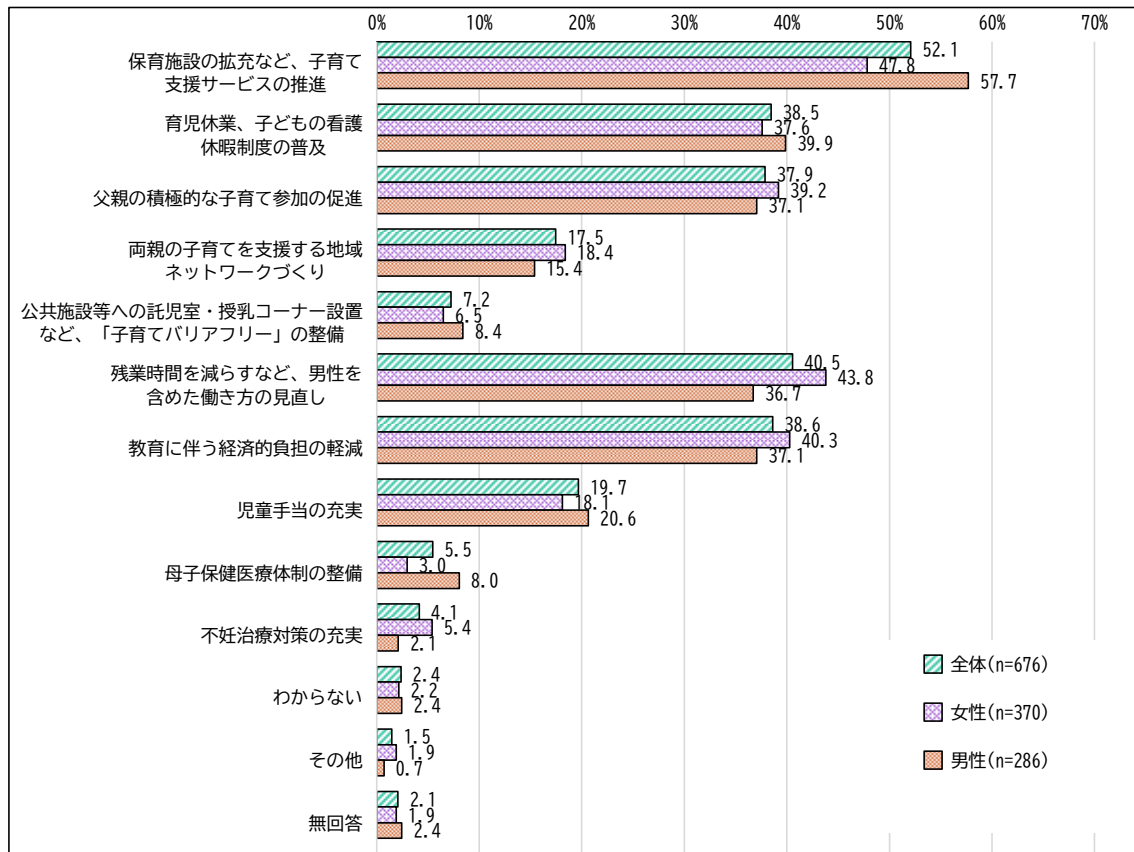


問 1 1 あなたは、男女が共に仕事と家庭を両立しながら子育てしやすい環境づくりのために、どのようなことが有効だと思いますか。（3つまで）

○全体では「保育施設の拡充など、子育て支援サービスの推進」が 52.1%と最も高く、次いで「残業時間を減らすなど、男性を含めた働き方の見直し」40.5%、「教育に伴う経済的負担の軽減」38.6%となっています。

○性別でみても、男女ともに「保育施設の拡充など、子育て支援サービスの推進」が最も高くなっています。

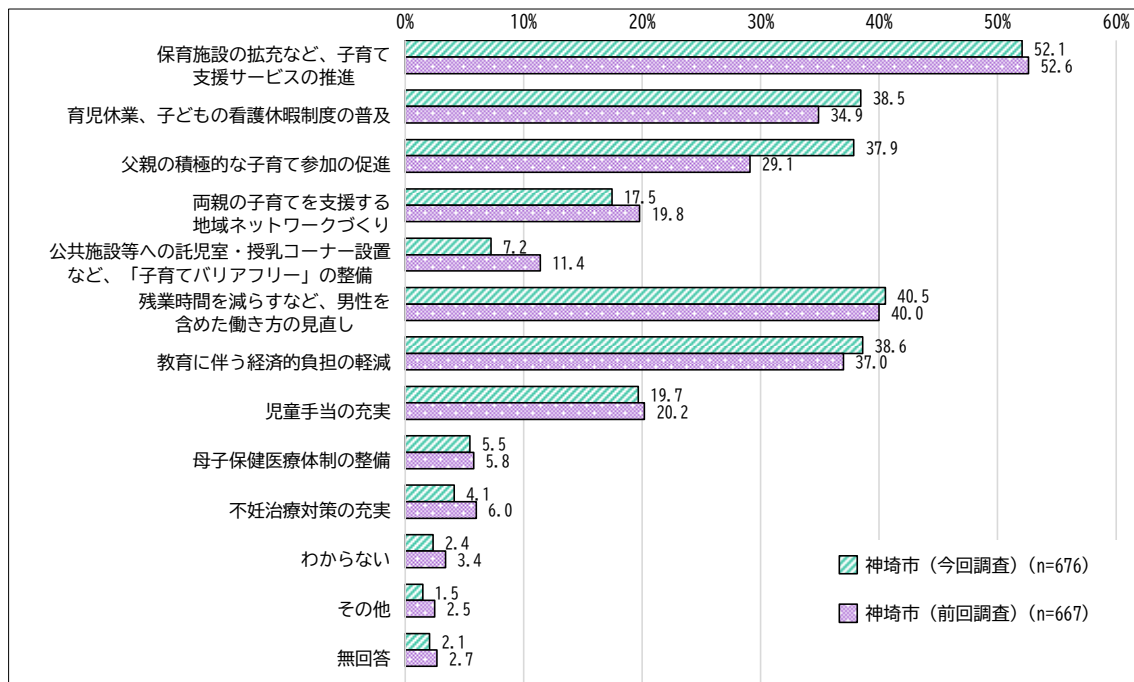
○年代別でみると、20～30 歳代では「残業時間を減らすなど、男性を含めた働き方の見直し」、40 歳代では「教育に伴う経済的負担の軽減」、それ以外の年代では「保育施設の拡充など、子育て支援サービスの推進」が最も高くなっています。また、40 歳代までは「児童手当の充実」が他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。



(上段：人 下段：%)

		標本数(人)	保育施設の拡充など、子育て支援サービスの推進	育児休業、子どもの看護休暇制度の普及	父親の積極的な子育て参加の促進	両親の子育てを支援する地域ネットワークづくり	公共施設等への託児室・授乳コーナー設置など、「子育てバリアフリー」の整備	残業時間を減らすなど、男性を含めた働き方の見直し	減教育に伴う経済的負担の軽減	児童手当の充実	母子保健医療体制の整備	不妊治療対策の充実	わからない	その他	無回答
全体(単純集計)			352 52.1%	260 38.5%	256 37.9%	118 17.5%	49 7.2%	274 40.5%	261 38.6%	133 19.7%	37 5.5%	28 4.1%	16 2.4%	10 1.5%	14 2.1%
年齢別	10歳代	10	6 60.0%	2 20.0%	7 70.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 50.0%	3 30.0%	3 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	20歳代	51	20 39.2%	23 45.1%	19 37.3%	1 2.0%	2 3.9%	30 58.8%	27 52.9%	19 37.3%	3 5.9%	2 3.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30歳代	64	29 45.3%	30 46.9%	25 39.1%	8 12.5%	4 6.3%	33 51.6%	29 45.3%	25 39.1%	2 3.1%	4 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	40歳代	79	32 40.5%	32 40.5%	31 39.2%	14 17.7%	4 5.1%	32 40.5%	35 44.3%	23 29.1%	1 1.3%	5 6.3%	1 1.3%	2 2.5%	0 0.0%
	50歳代	109	58 53.2%	41 37.6%	42 38.5%	17 15.6%	1 0.9%	49 45.0%	46 42.2%	16 14.7%	5 4.6%	10 9.2%	1 0.9%	4 3.7%	0 0.0%
	60歳代	153	84 54.9%	67 43.8%	51 33.3%	30 19.6%	15 9.8%	58 37.9%	55 35.9%	20 13.1%	11 7.2%	4 2.6%	6 3.9%	2 1.3%	5 3.3%
	70歳以上	196	115 58.7%	59 30.1%	76 38.8%	44 22.4%	23 11.7%	62 31.6%	62 31.6%	23 11.7%	15 7.7%	3 1.5%	7 3.6%	2 1.0%	9 4.6%

【今回・前回比較】



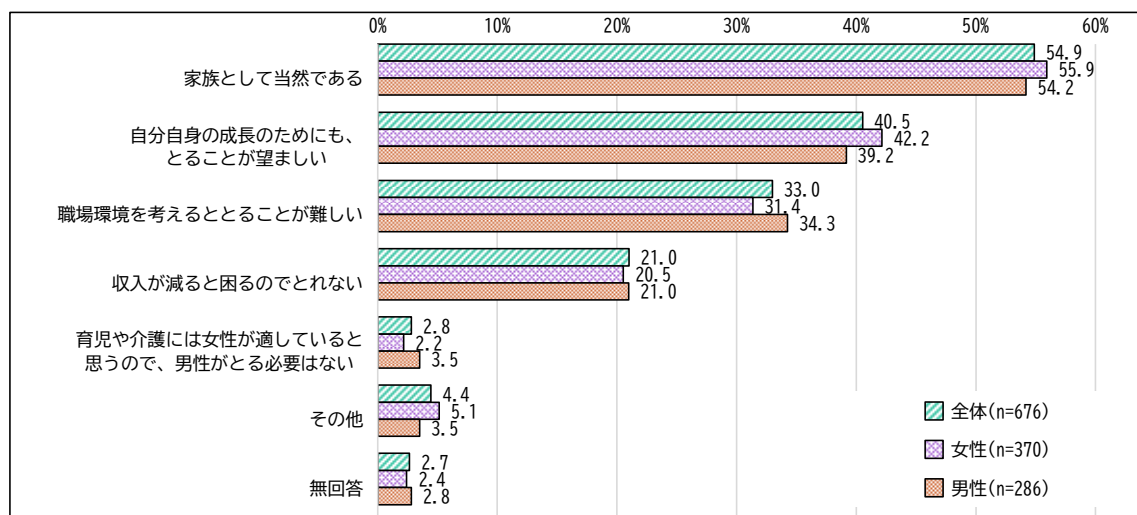
問12 あなたは、男性が育児休業や介護休暇をとることについてどう思いますか。
(2つまで)

○全体では「家族として当然である」が54.9%と最も高く、次いで「自分自身の成長のためにも、とることが望ましい」40.5%、「職場環境を考えるととることが難しい」33.0%となっています。

○性別でみても、全体と同様の結果となっています。

○年代別でみても、どの年代も「家族として当然である」が最も高く、次いで高い割合が20～30歳代及び50歳代以上では「自分自身の成長のためにも、とることが望ましい」となっていますが、10歳代では「収入が減ると困るのでとれない」、40歳代では「職場環境を考えるととることが難しい」となっています。

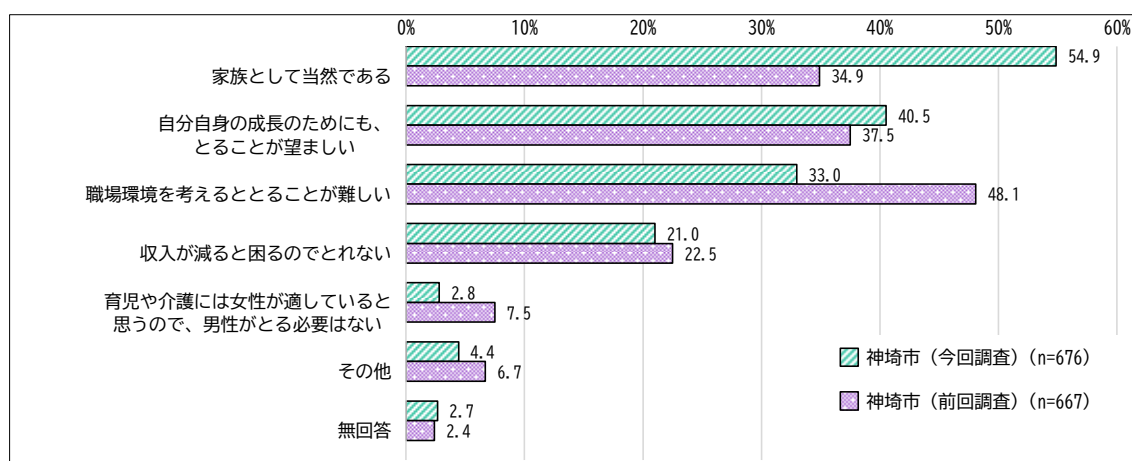
○前回調査との比較をみると、「家族として当然である」が高く、「職場環境を考えるととることが難しい」が低くなっており、15ポイント以上差が生じています。



(上段：人 下段：%)

			家族として当然である	自分自身の成長のために も、とることが望ましい	職場環境を考えるととることが 難しい	収入が減ると困るのでと れない	性 育 児 が と る 必 要 思 い は な い で 男 性 が 適 合	その他	無 回 答
		標 本 数 （ 人 ）							
全体 （単純集計）		676	371 54.9%	274 40.5%	223 33.0%	142 21.0%	19 2.8%	30 4.4%	18 2.7%
年 齢 別	10歳代	10	5 50.0%	2 20.0%	1 10.0%	3 30.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%
			34 66.7%	19 37.3%	10 19.6%	13 25.5%	1 2.0%	1 2.0%	0 0.0%
	20歳代	51	35 54.7%	29 45.3%	23 35.9%	17 26.6%	0 0.0%	5 7.8%	0 0.0%
			36 45.6%	22 27.8%	31 39.2%	24 30.4%	1 1.3%	3 3.8%	1 1.3%
	30歳代	64	54 49.5%	46 42.2%	43 39.4%	26 23.9%	3 2.8%	3 2.8%	0 0.0%
			81 52.9%	64 41.8%	54 35.3%	29 19.0%	4 2.6%	10 6.5%	6 3.9%
	40歳代	79	122 62.2%	88 44.9%	55 28.1%	25 12.8%	9 4.6%	6 3.1%	10 5.1%
			36 45.6%	22 27.8%	31 39.2%	24 30.4%	1 1.3%	3 3.8%	1 1.3%
50歳代	109	54 49.5%	46 42.2%	43 39.4%	26 23.9%	3 2.8%	3 2.8%	0 0.0%	
		81 52.9%	64 41.8%	54 35.3%	29 19.0%	4 2.6%	10 6.5%	6 3.9%	
60歳代	153	122 62.2%	88 44.9%	55 28.1%	25 12.8%	9 4.6%	6 3.1%	10 5.1%	
		36 45.6%	22 27.8%	31 39.2%	24 30.4%	1 1.3%	3 3.8%	1 1.3%	
70歳以上	196	54 49.5%	46 42.2%	43 39.4%	26 23.9%	3 2.8%	3 2.8%	0 0.0%	
		81 52.9%	64 41.8%	54 35.3%	29 19.0%	4 2.6%	10 6.5%	6 3.9%	

【今回・前回比較】

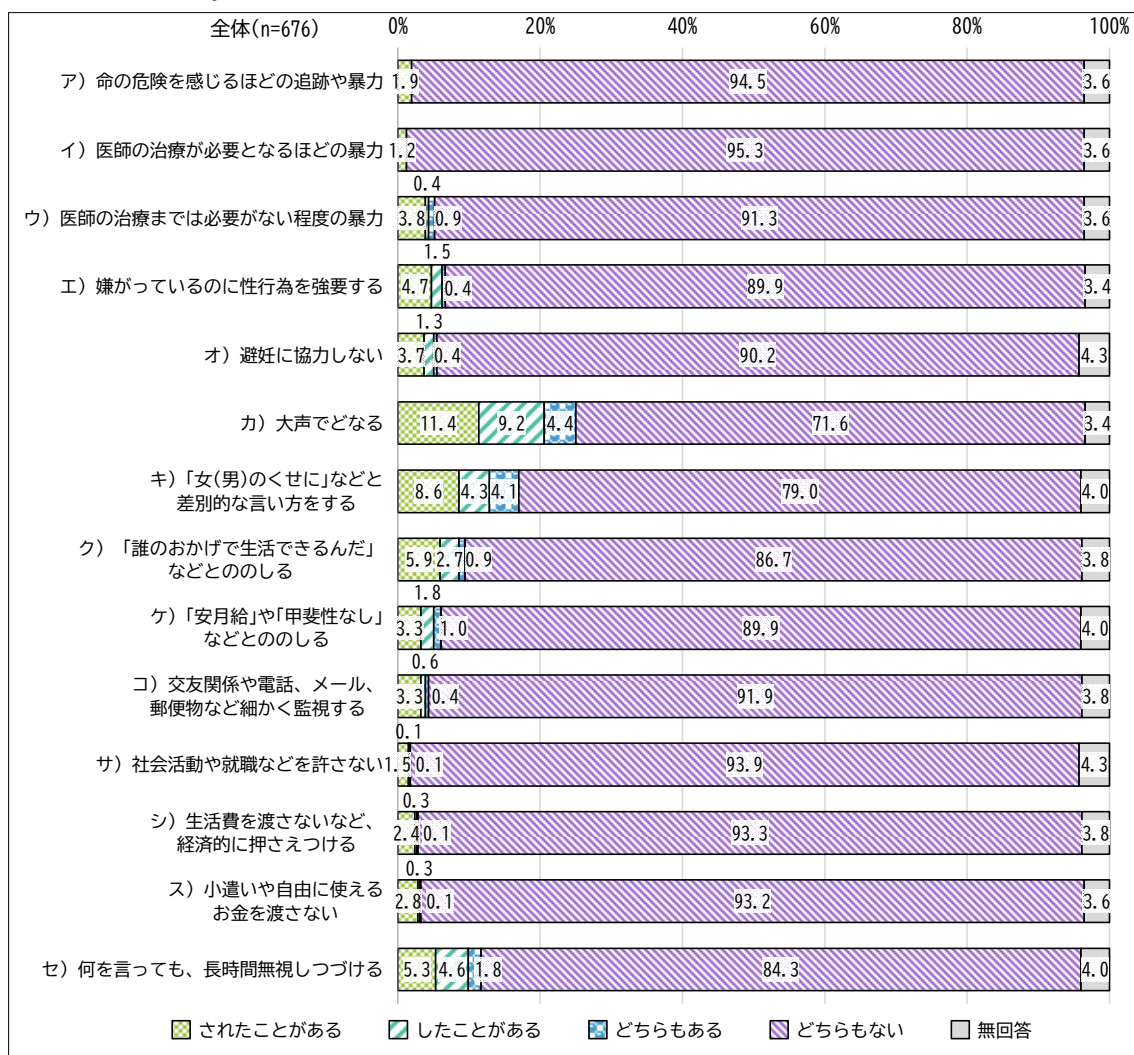


6. ドメスティック・バイオレンス（DV＝配偶者や恋人からの暴力）について

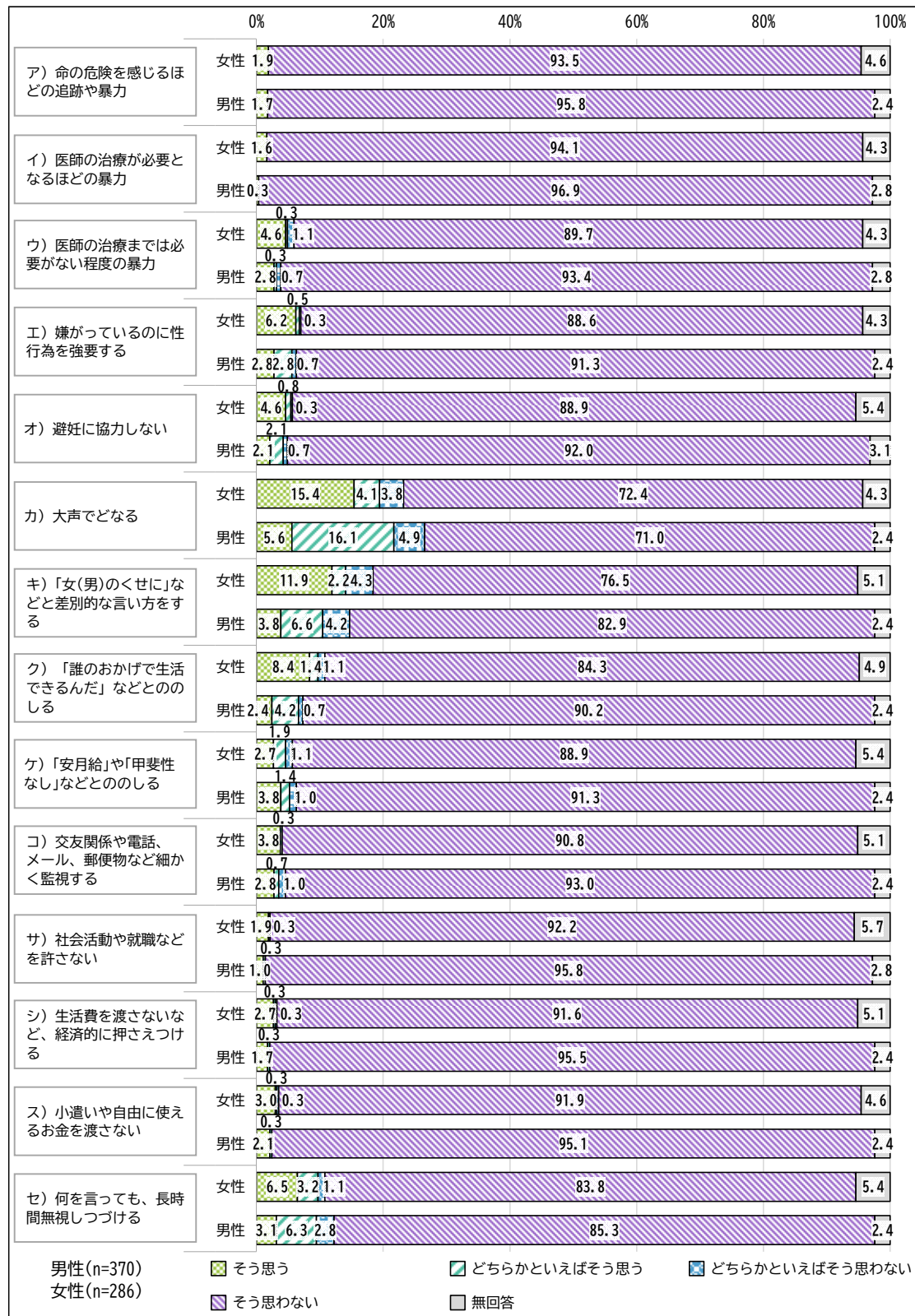
問13 夫婦や恋人同士など親しい間で、身体的・心理的な暴力を受けることが問題となっていますが、あなたは次にあげるようなことをしたり、されたりしたことがありますか。（単数回答）

○DVについては、どの項目も7割以上が「どちらもない」と回答していますが、約1割は「大声でどなる」「女(男)のくせに」などと差別的な言い方をすること「されたことがある」、「大声でどなる」ことを「したことがある」と回答しています。

○性別でみても、男女ともに「どちらもない」が7割を超えていますが、女性では「大声でどなる」「女(男)のくせに」などと差別的な言い方をすること「されたことがある」、男性では「大声でどなる」ことを「したことがある」が1割を超えています。



【男女別】

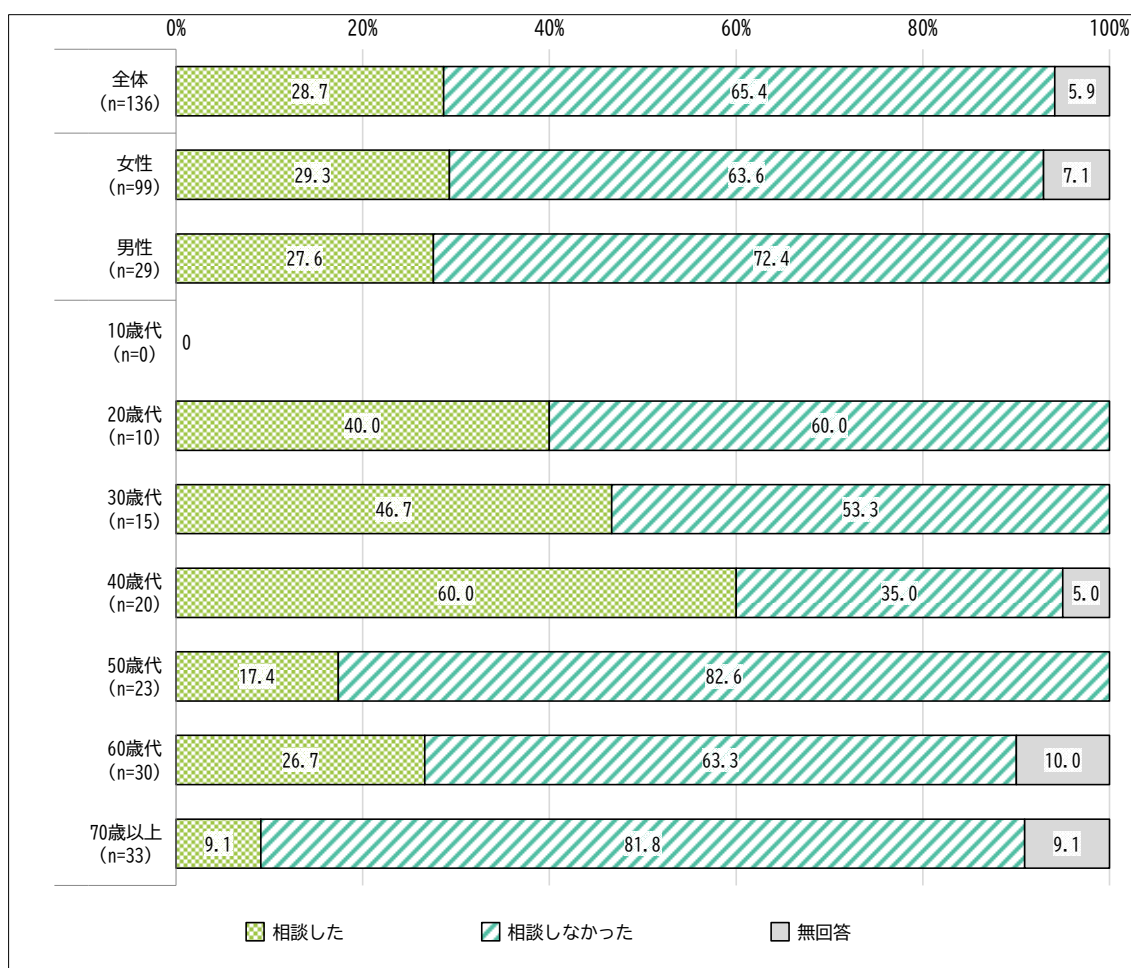


◆その他

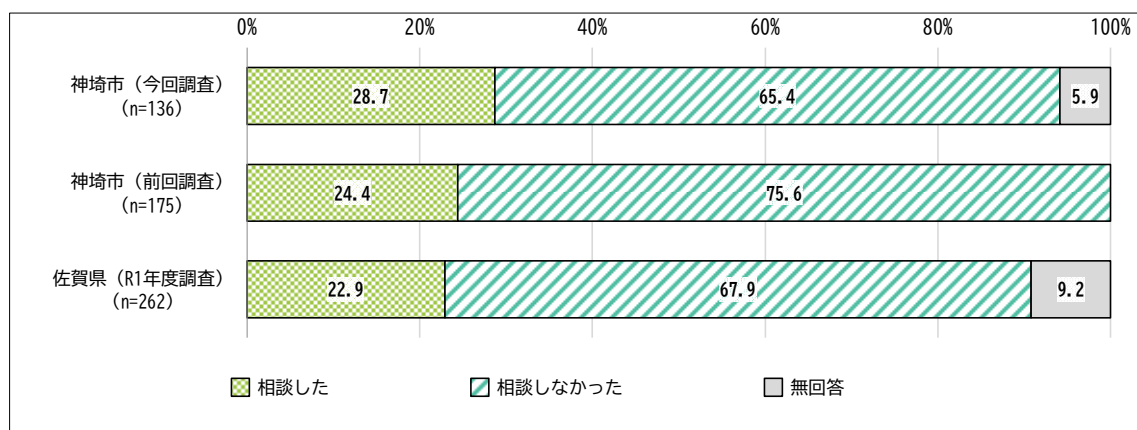
互いに感謝の気持ちでいればいい。	恋人なし。
若い頃はお互いによくケンカをしました（20代～30代頃です）。	
自分の職業に関しての理解がなく、相手の親といっしょにののしられた事があります。	
行き過ぎたコンプライアンスを盾に取る若手職員対策として、必要以上取り合わないことにしている。	

問14 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人関係にあった者からうけた行為について、どこか(だれか)に相談しましたか。(単数回答)

- 全体では「相談した」が28.7%、「相談しなかった」が65.4%となっており、約7割が配偶者等からうけた行為について「相談しなかった」と回答しています。
- 性別でみても、男女ともに「相談しなかった」が6割を超えています。
- 年代別でみると、40歳代では「相談した」が6割を超えていますが、その他の年代（10歳代除く）では「相談しなかった」が「相談した」を上回っており、特に50歳代及び70歳以上では8割を超えています。
- 前回調査との比較をみると、「相談しなかった」が10.2ポイント低くなっています。



【今回・前回・県比較】

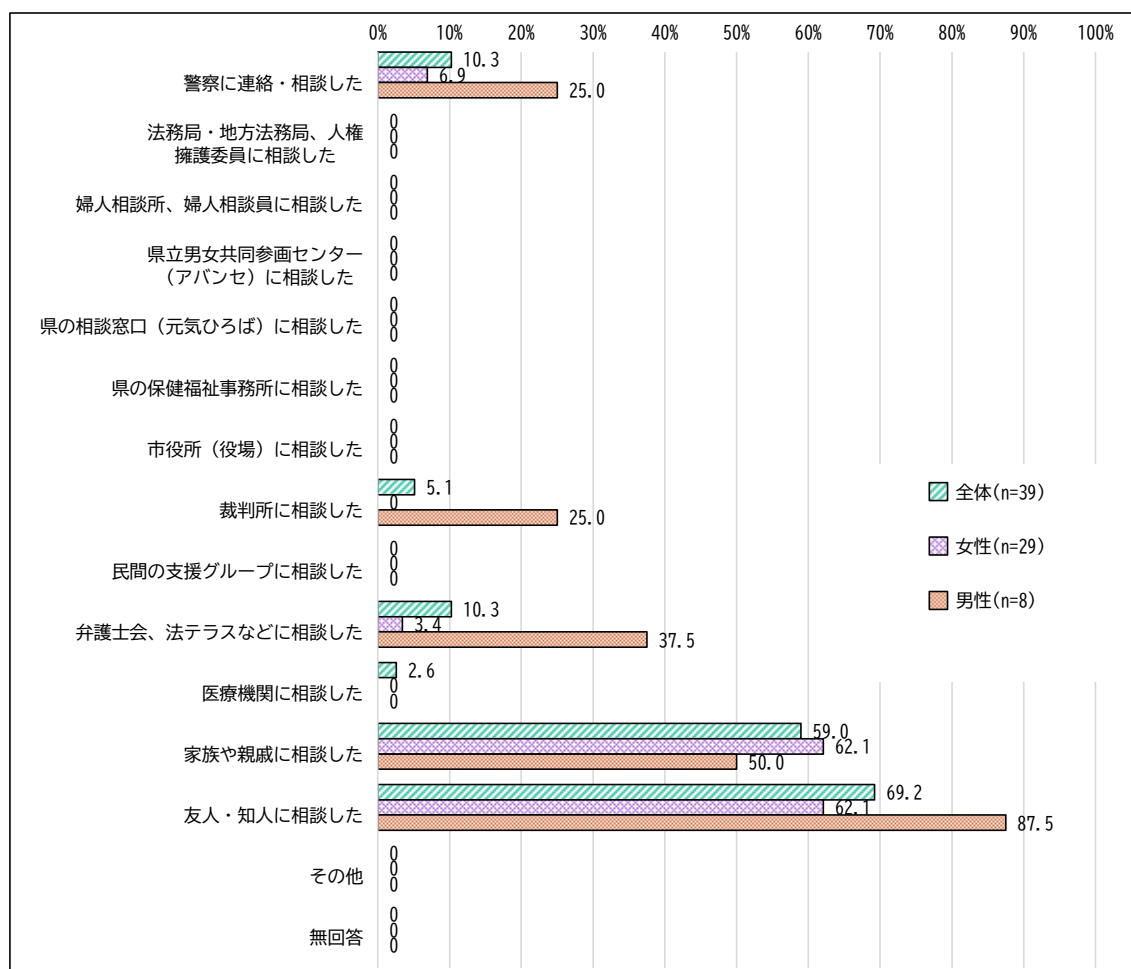


問14で「1. 相談した」と回答した方のみ

問15 どこ（だれ）に相談しましたか。（複数回答）

○全体では「友人・知人に相談した」が69.2%と最も高く、次いで「家族や親戚に相談した」59.0%、「警察に連絡・相談した」10.3%となっています。

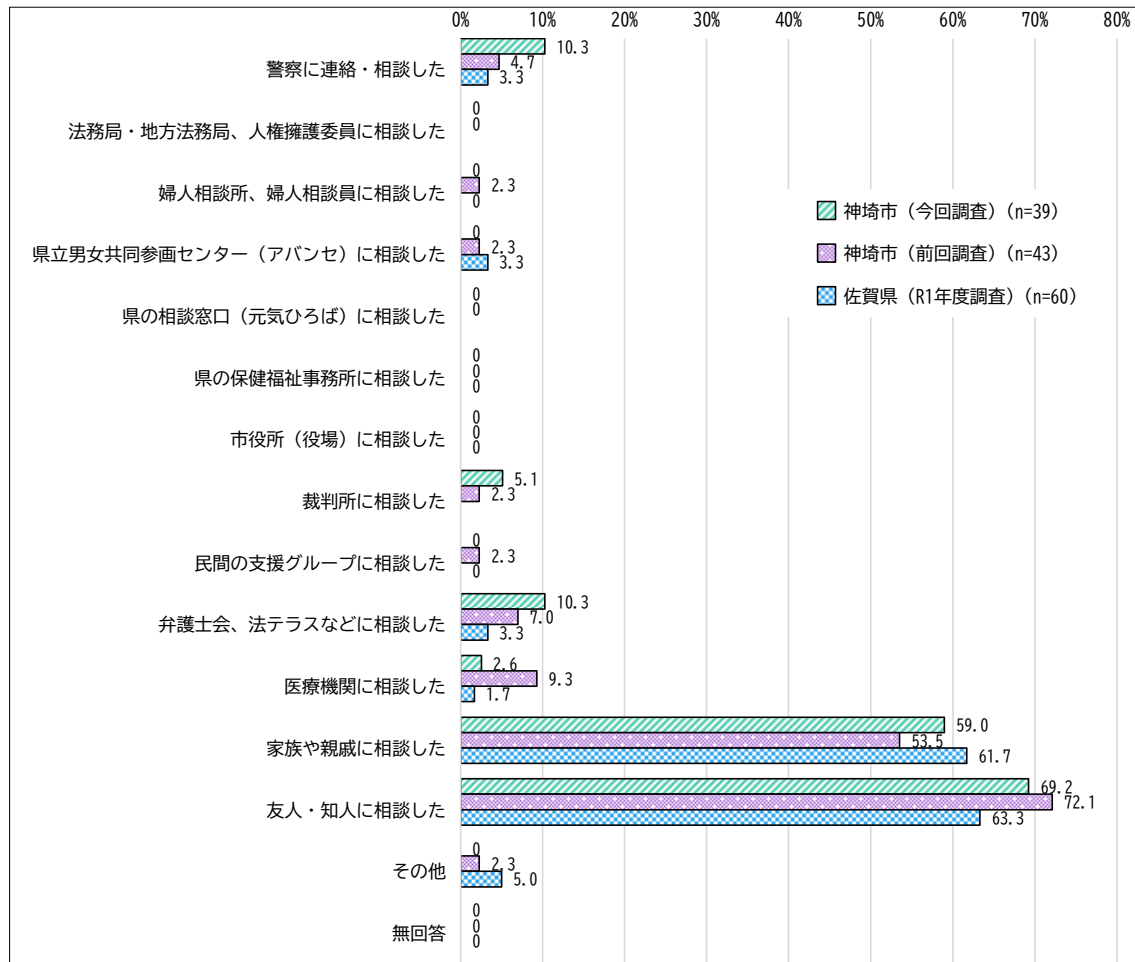
○性別及び年代別についてはサンプル数が少ないため参考程度。



(上段：人 下段：%)

		標 本 数 （人）	警 察 に 連 絡 ・ 相 談	法 務 局 ・ 地 方 法 務 局 ・ 人 権 擁 護 委 員 会	婦 人 相 談 所 ・ 婦 人 相 談 員 に 相 談	県 立 男 女 共 同 参 画 セ ン タ ー （ア バ ン セ） に 相 談	県 の 相 談 窓 口 （元 気 ひ ろ ば） に 相 談	県 の 保 健 福 祉 事 務 所 に 相 談	市 役 所 （役 場） に 相 談	裁 判 所 に 相 談	民 間 の 支 援 グ ル ー プ に 相 談	弁 護 士 会 ・ 法 テ ラ ス な ど に 相 談	医 療 機 関 に 相 談	家 族 や 親 戚 に 相 談	友 人 ・ 知 人 に 相 談	そ の 他	無 回 答	
全体 （単純集計）		39	4 10.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.1%	0 0.0%	4 10.3%	1 2.6%	23 59.0%	27 69.2%	0 0.0%	0 0.0%	
年 齢 別	10歳代	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	
	20歳代	4	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	30歳代	7	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 71.4%	7 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	40歳代	12	3 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	1 8.3%	1 8.3%	8 66.7%	10 83.3%	0 0.0%	0 0.0%	
	50歳代	4	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	60歳代	8	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	4 50.0%	5 62.5%	0 0.0%	0 0.0%
	70歳以上	3	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	

【今回・前回・県比較】

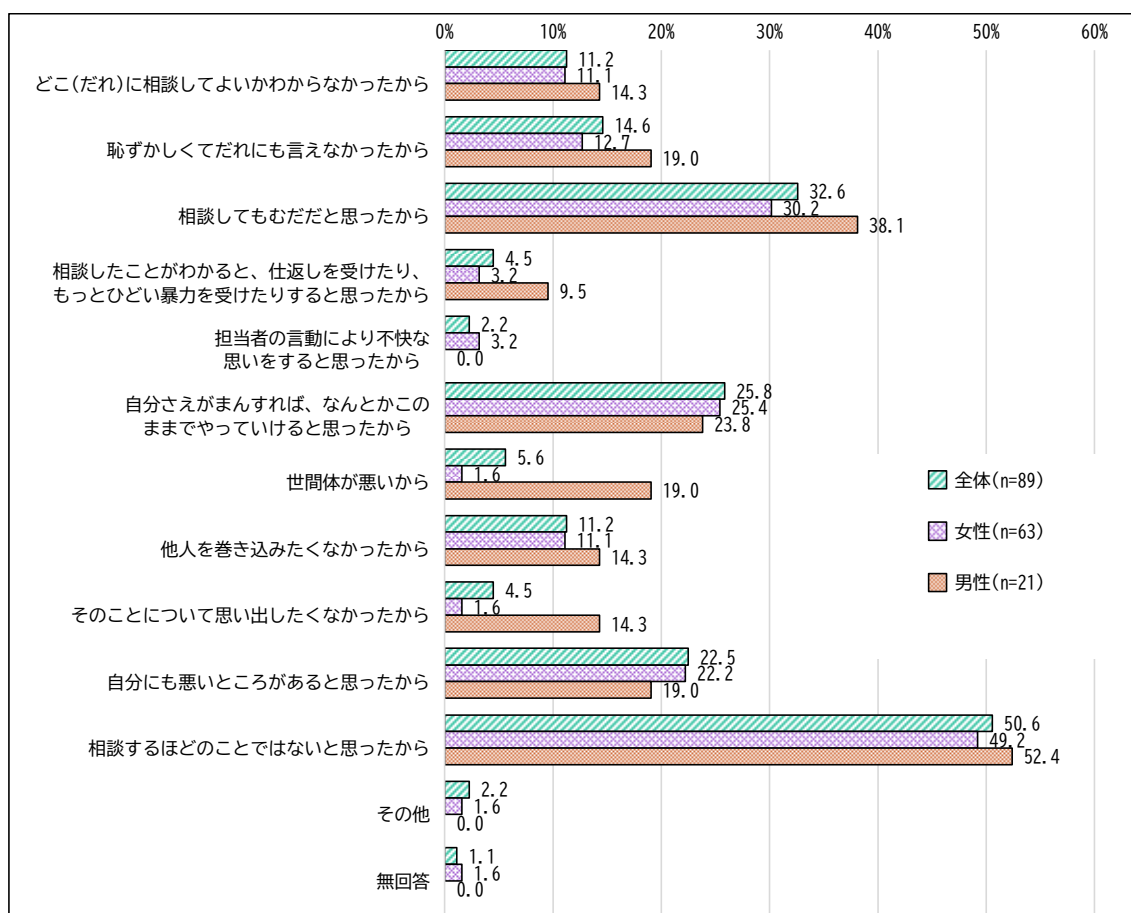


問16 相談しなかったのは、なぜですか。(複数回答)

○全体では「相談するほどのことではないと思ったから」が50.6%と最も高く、次いで「相談してもむだだと思ったから」32.6%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままでやっていけると思ったから」25.8%となっています。

○性別でも、5割前後が「相談するほどのことではないと思ったから」と回答しています。また、男性では女性と比べて「世間体が悪いから」「そのことについて思い出したくなかったから」が10ポイント以上高くなっています。

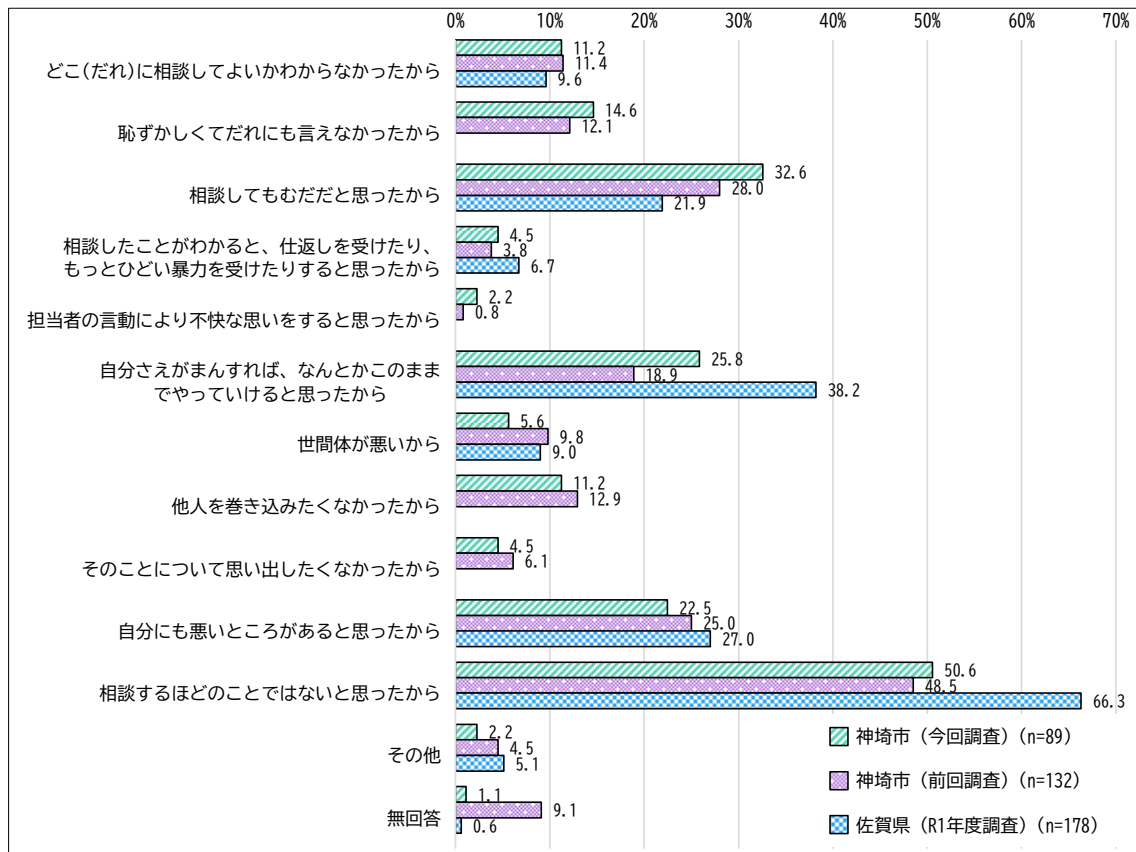
○年代別についてはサンプル数が少ないため参考程度。



(上段：人 下段：%)

		標 本 数 (人)	ら よ い こ か わ か ら な か つ た か	ど こ (だ れ)に 相 談 し て	え な か し く て だ れ に も 言	恥 ず か し く て だ れ に も 言	た 相 談 し て も む だ だ と 思 つ た か	と、 仕 返 し を 受 け た り と 、 ひ ど い 暴 力 を 受 け た り す る こ と を 思 つ た か	相 談 し た こ と が わ か る こ と が あ る こ と が あ る	担 当 者 の 言 動 に よ り 不 快 な 思 い を す る こ と を 思 つ た か	自 分 さ え が ま ん す れ ば、 な ん と か こ の ま ま で や っ て い け る こ と を 思 つ た か	世 間 体 が 悪 い か ら	か つ た か ら	他 人 を 巻 き 込 み た く な か つ た か	し た こ と に つ い て 思 い 出 した こ と が あ る	そ の こ と に も 悪 い こ ろ が あ る	自 分 に も 悪 い こ ろ が あ る	な い と 思 つ た か ら	相 談 す る ほ ど の こ と で は な い	そ の 他	無 回 答
全体 (単純集計)		89	10 11.2%	13 14.6%	29 32.6%	4 4.5%	2 2.2%	23 25.8%	5 5.6%	10 11.2%	4 4.5%	20 22.5%	45 50.6%	2 2.2%	1 1.1%						
年 齢 別	10歳代	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	20歳代	6	1 16.7%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	5 83.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30歳代	8	1 12.5%	1 12.5%	3 37.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	3 37.5%	1 12.5%	4 50.0%	4 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	40歳代	7	2 28.6%	2 28.6%	2 28.6%	1 14.3%	0 0.0%	1 14.3%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	2 28.6%	3 42.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	50歳代	19	2 10.5%	3 15.8%	6 31.6%	2 10.5%	0 0.0%	5 26.3%	2 10.5%	2 10.5%	3 15.8%	3 15.8%	7 36.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	60歳代	19	2 10.5%	1 5.3%	6 31.6%	0 0.0%	1 5.3%	3 15.8%	0 0.0%	3 15.8%	0 0.0%	4 21.1%	13 68.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	70歳以上	27	2 7.4%	5 18.5%	9 33.3%	1 3.7%	0 0.0%	11 40.7%	2 7.4%	1 3.7%	0 0.0%	5 18.5%	11 40.7%	2 7.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

【今回・前回・県比較】

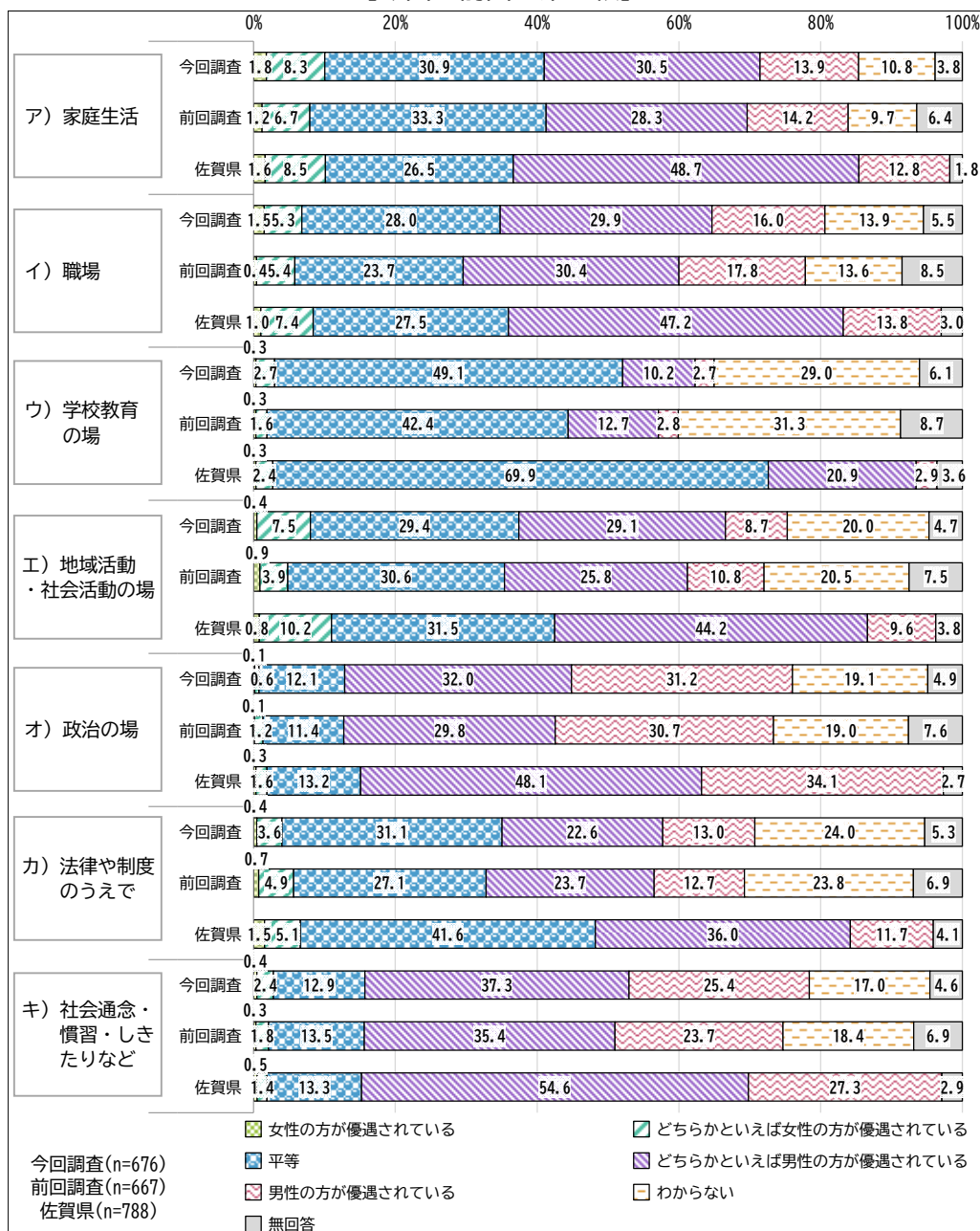


7. 男女平等・男女共同参画について

問17 あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(単数回答)

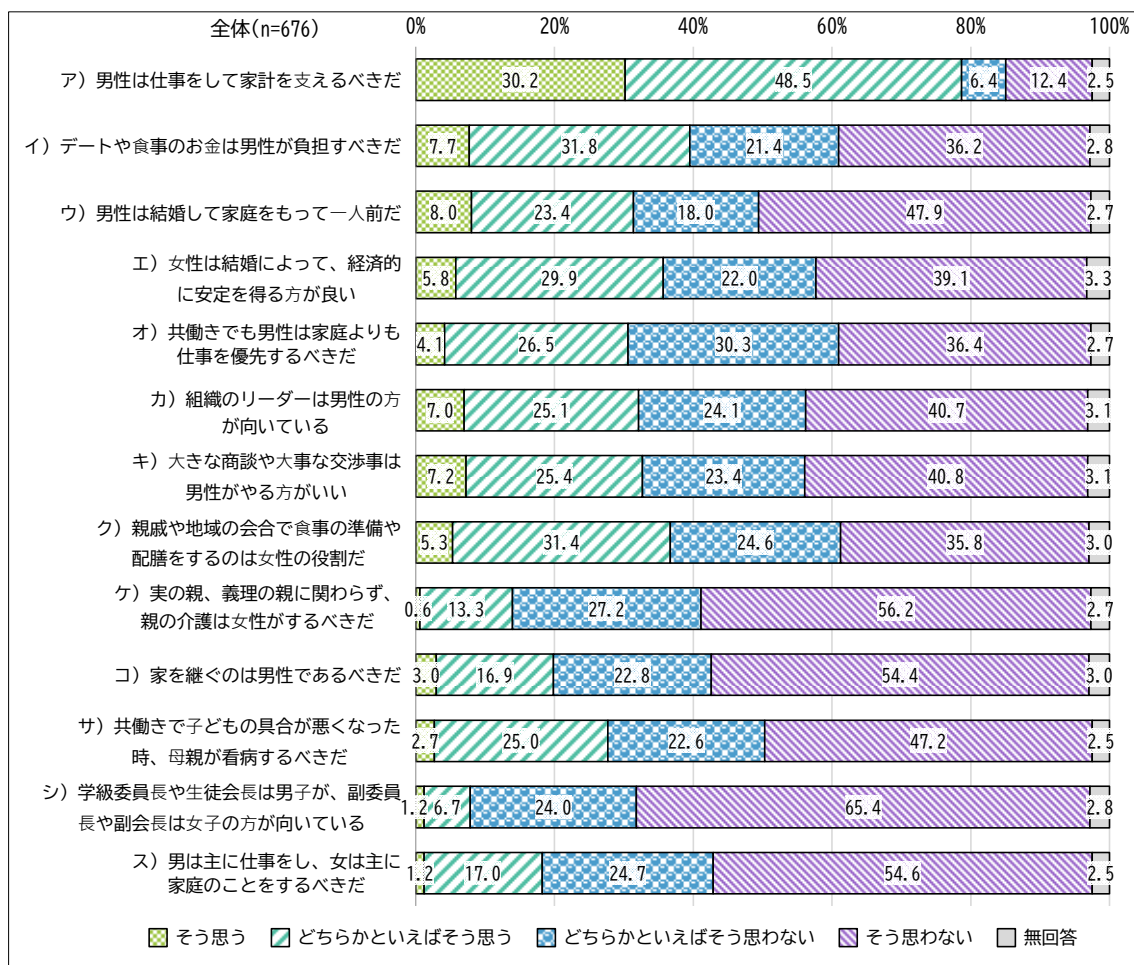
- 「職場」「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっていますが、それ以外の項目は「平等」が最も高くなっており、「学校教育の場」では約5割が男女の地位は「平等」になっていると回答しています。
- すべての項目において、「男性の方が優遇されている：男性の方が優遇されている＋どちらかといえば男性の方が優遇されている」が『女性の方が優遇されている』を上回っており、特に「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」では6割を超えています。また、どの項目も『女性の方が優遇されている』は1割以下となっています。

【今回・前回・県比較】

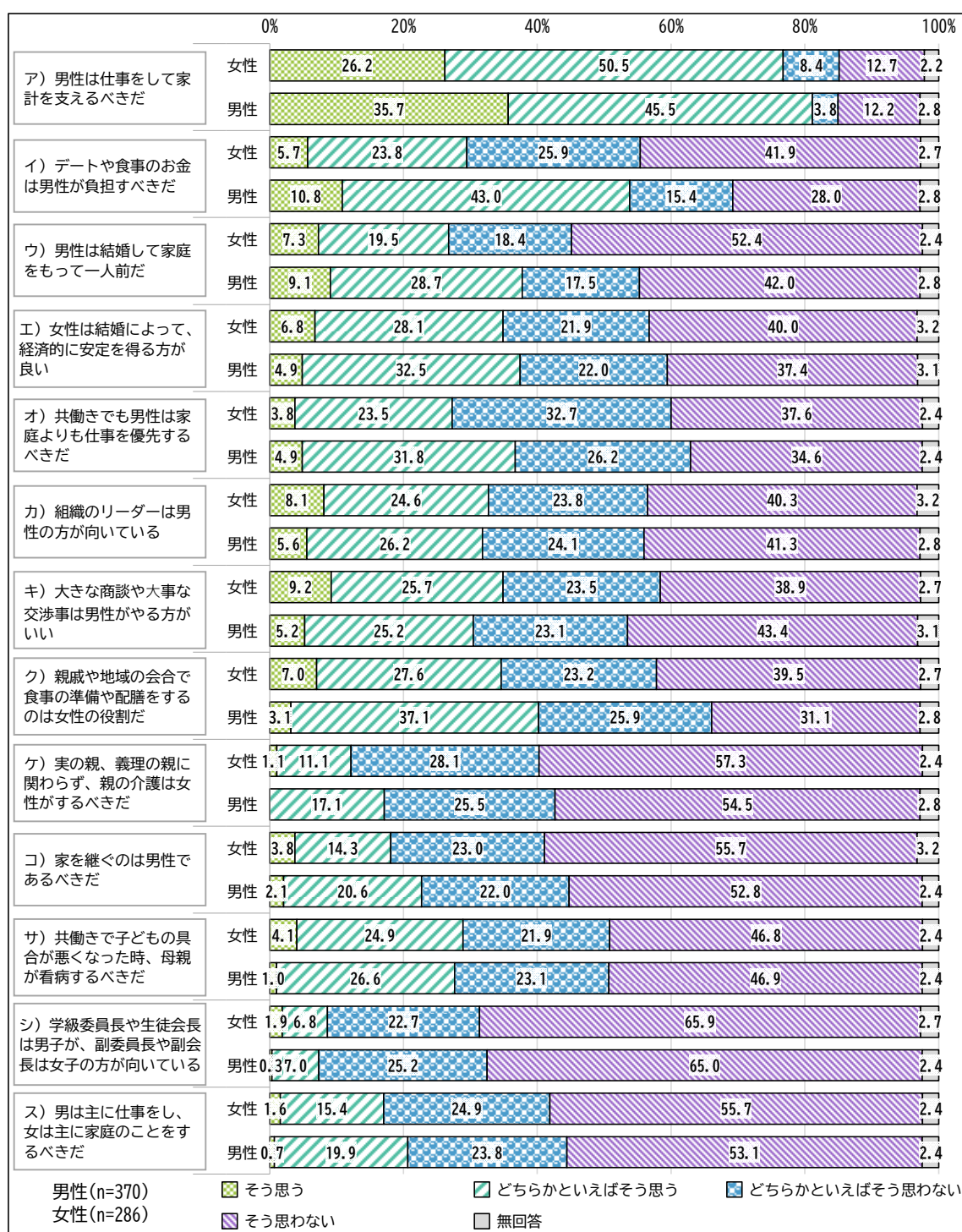


問18 あなたは下記の考え方について、どのように思いますか。(単数回答)

- 「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」以外は、どの考え方も「そう思わない」が最も高くなっています。
- 「そう思う：そう思う+どちらかといえばそう思う」では、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」が78.7%と最も高く、次いで「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」39.5%、「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」36.7%となっています。
- 「そう思わない：どちらかといえばそう思わない+そう思わない」では、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」以外は5割を超えており、特に「実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ」「学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いている」が8割を超えています。
- 性別でみると、男女ともに約8割が「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」、男性では5割が「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」と回答していますが、それ以外は『そう思わない』が『そう思う』を上回っています。また、「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」については、男性は女性と比べて『そう思う』が10ポイント以上高くなっています。



【男女別】

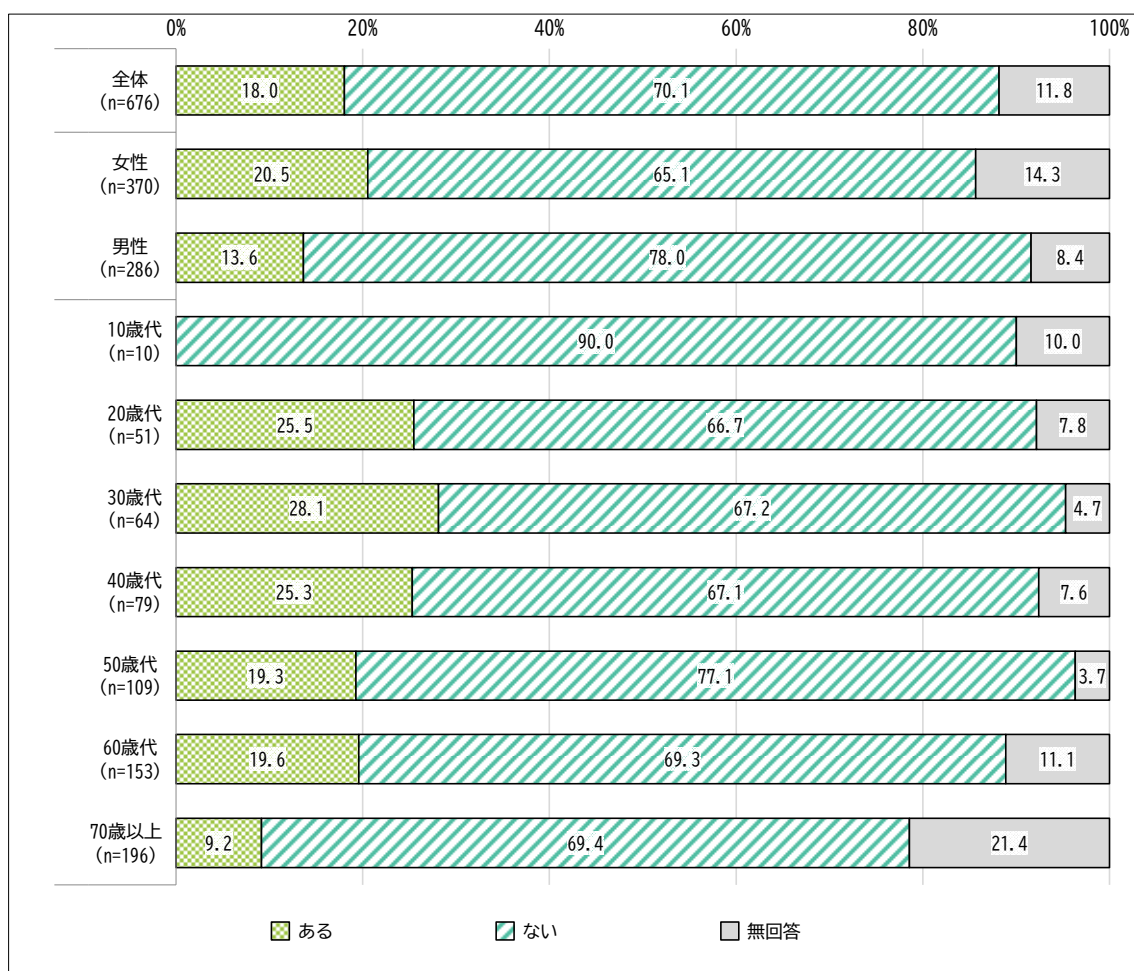


問１９ あなたは女性として、あるいは男性として差別を感じたことはありますか。 (単数回答)

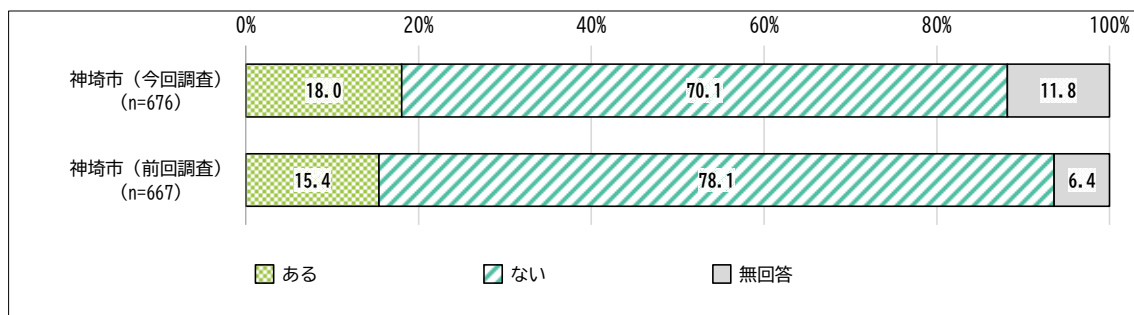
○全体では「ある」が 18.0%、「ない」が 70.1%となっており、7 割が性差別を感じたことは「ない」と回答しています。

○性別でみると、男女ともに「ない」が「ある」を上回っていますが、男性では女性と比べて「ない」が 12.9 ポイント高くなっています。

○年代別でも、「ない」が 6 割を超えており、「ある」を上回っていますが、20～40 歳代までは約 3 割、50～60 歳代では約 2 割が性差別を感じたことが「ある」と回答しています。



【今回・前回比較】



問19で「1. ある」と回答した方のみ

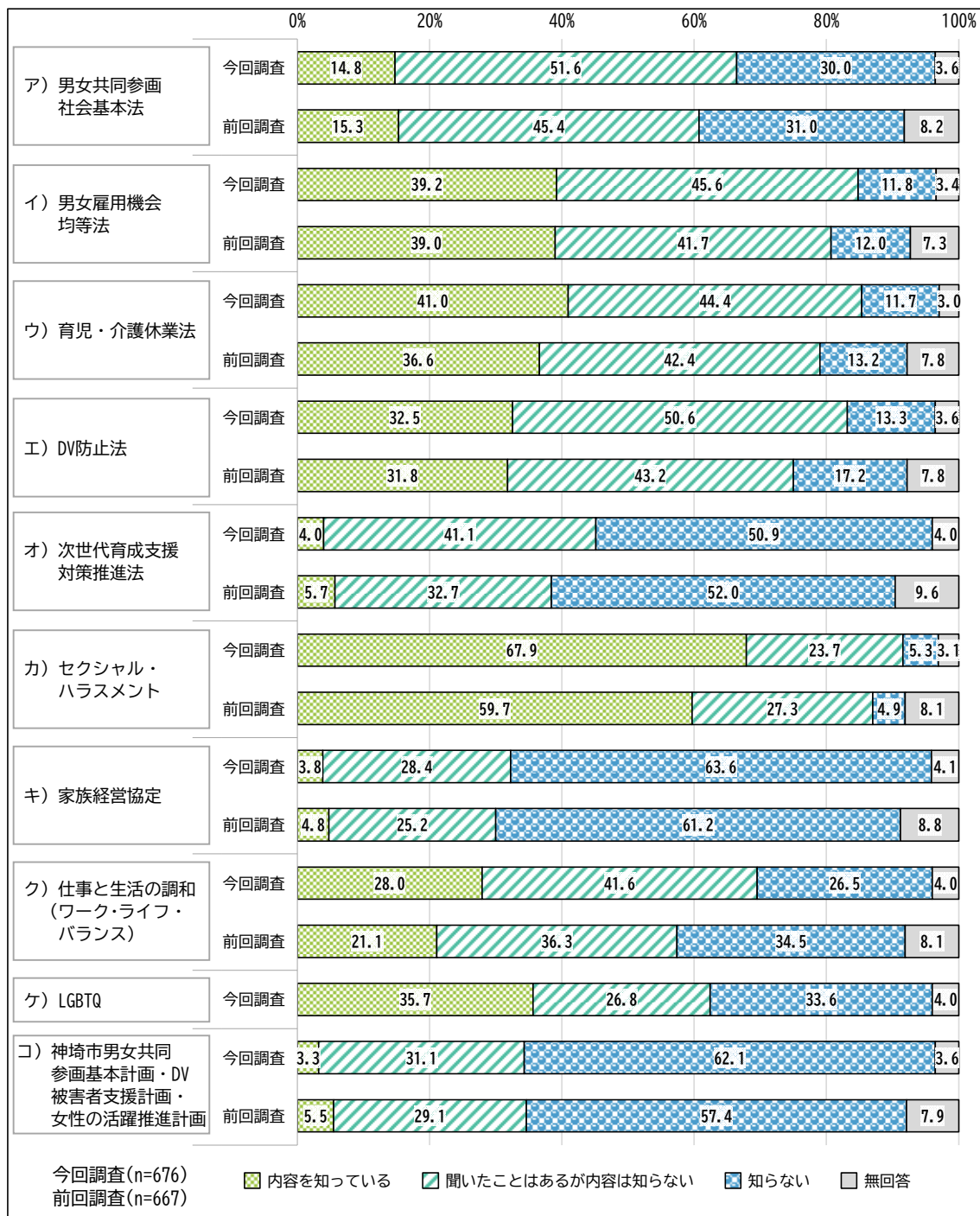
問19-1 差別を受けたと感じたことはどんなことでしたか。具体的にお書きください。（自由記述）

分 類	件 数
就職時・職場での差別	26 件
性別による役割分担について	22 件
性別による態度の違い	20 件
地域での差別	9 件
施設やサービスについて	5 件
結婚について	4 件
その他	10 件
合 計	96 件

問20 あなたは、男女共同参画社会の実現へ向けての関連用語をご存知ですか。
(単数回答)

○「セクシャル・ハラスメント」「LGBTQ」では「内容を知っている」、「次世代育成支援対策推進法」「家族経営協定」「神崎市男女共同参画基本計画・DV 被害者支援計画・女性の活躍推進計画」では「知らない」、それ以外の関連用語については「聞いたことはあるが内容は知らない」が最も高くなっています。

【今回・前回比較】

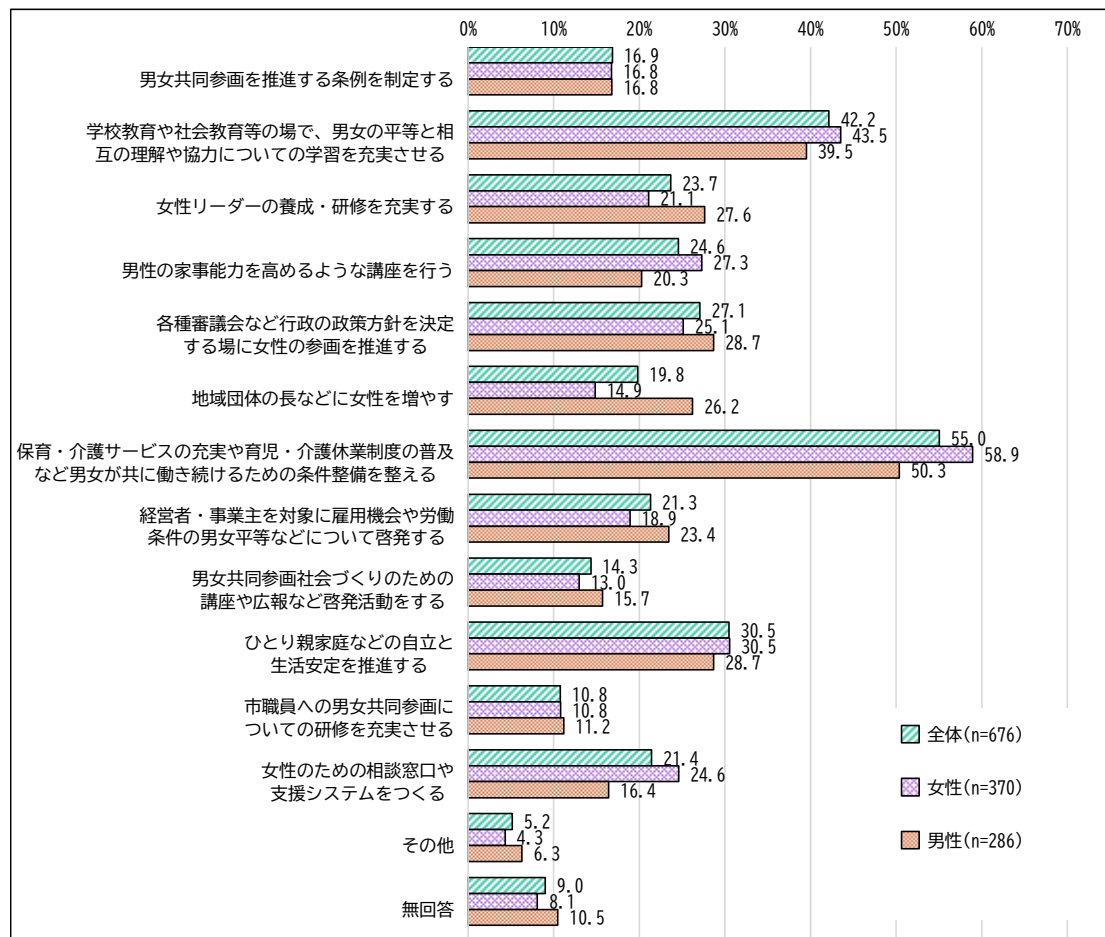


問21 「性別よりも、ひとり一人の考えや行動が尊重され、活力ある住みやすい神崎市」となるため、今後、神崎市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(複数回答)

○全体では「保育・介護サービスの充実や育児・介護休業制度の普及など男女が共に働き続けるための条件整備を整える」が 55.0%と最も高く、次いで「学校教育や社会教育等の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる」42.2%、「ひとり親家庭などの自立と生活安定を推進する」30.5%となっています。

○性別で見ても、男女ともに「保育・介護サービスの充実や育児・介護休業制度の普及など男女が共に働き続けるための条件整備を整える」が最も高く、5割を超えています。また、男性では女性と比べて「地域団体の長などに女性を増やす」が11.3ポイント高くなっています。

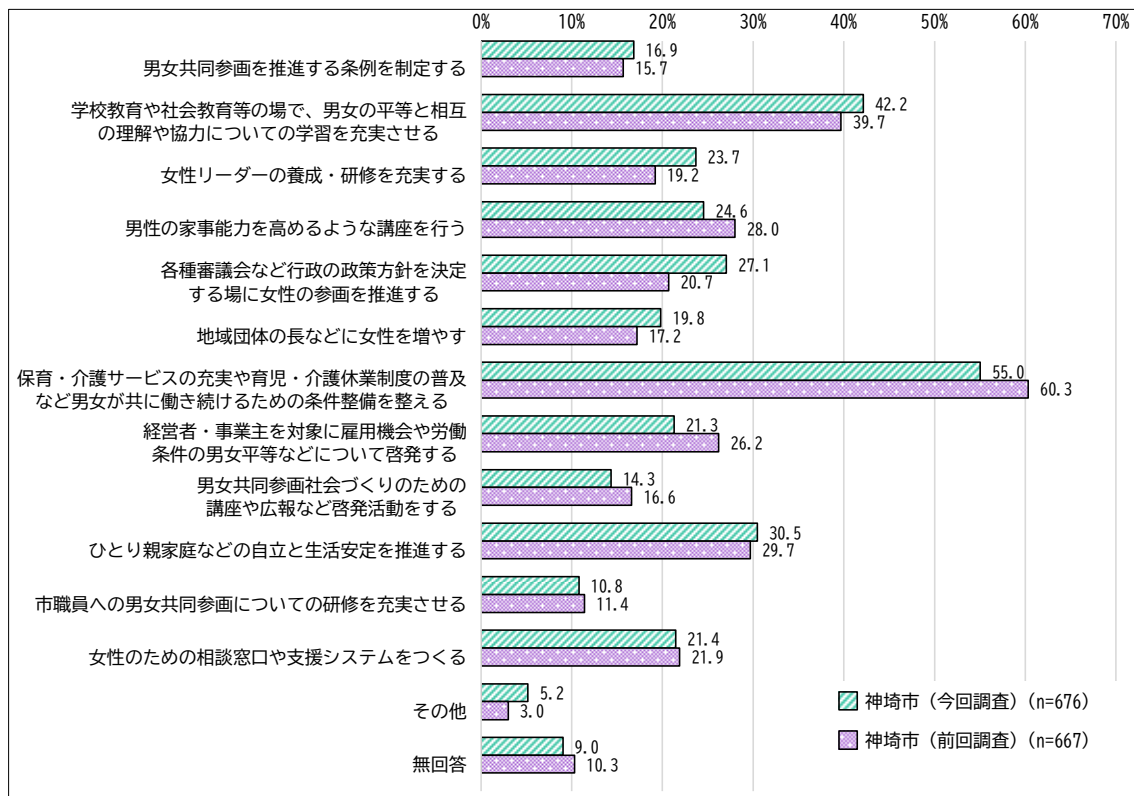
○年代別で見ると、10歳代では「学校教育や社会教育等の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる」「保育・介護サービスの充実や育児・介護休業制度の普及など男女が共に働き続けるための条件整備を整える」が同率、20歳代以上ではどの年代も「保育・介護サービスの充実や育児・介護休業制度の普及など男女が共に働き続けるための条件整備を整える」が最も高く、特に20歳代及び60歳代では6割を超えています。



(上段：人 下段：%)

		男女共同参画を推進する条例を制定する	学校教育や社会教育等の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる	女性リーダーの養成・研修を充実する	男性の家事能力を高めるような講座を行う	各種審議会など行政の政策方針を決定する場に女性の参画を推進する	地域団体の長などに女性を増やす	保育・介護サービスの充実や育児・介護休業制度の普及など男女が共に働き続けるための条件整備を整える	経営者・事業主を対象に雇用機会や労働条件の男女平等などについて啓発する	男女共同参画社会づくりのための講座や広報など啓発活動をする	ひとり親家庭などの自立と生活安定を推進する	市職員への男女共同参画についての研修を充実させる	女性のための相談窓口や支援システムをつくる	その他	無回答
全体 (単純集計)	676	114 16.9%	285 42.2%	160 23.7%	166 24.6%	183 27.1%	134 19.8%	372 55.0%	144 21.3%	97 14.3%	206 30.5%	73 10.8%	145 21.4%	35 5.2%	61 9.0%
年齢別	10歳代	2 20.0%	4 40.0%	0 0.0%	2 20.0%	1 10.0%	0 0.0%	4 40.0%	2 20.0%	0 0.0%	3 30.0%	0 0.0%	1 10.0%	2 20.0%	1 10.0%
	20歳代	10 19.6%	22 43.1%	12 23.5%	17 33.3%	10 19.6%	11 21.6%	34 66.7%	10 19.6%	2 3.9%	18 35.3%	4 7.8%	11 21.6%	4 7.8%	2 3.9%
	30歳代	12 18.8%	26 40.6%	17 26.6%	15 23.4%	15 23.4%	6 9.4%	37 57.8%	12 18.8%	7 10.9%	22 34.4%	10 15.6%	12 18.8%	6 9.4%	2 3.1%
	40歳代	13 16.5%	34 43.0%	19 24.1%	10 12.7%	22 27.8%	20 25.3%	41 51.9%	18 22.8%	7 8.9%	21 26.6%	6 7.6%	13 16.5%	7 8.9%	3 3.8%
	50歳代	16 14.7%	43 39.4%	21 19.3%	32 29.4%	17 15.6%	16 14.7%	61 56.0%	25 22.9%	20 18.3%	30 27.5%	6 5.5%	25 22.9%	5 4.6%	4 3.7%
	60歳代	20 13.1%	67 43.8%	41 26.8%	41 26.8%	55 35.9%	31 20.3%	96 62.7%	35 22.9%	23 15.0%	50 32.7%	16 10.5%	40 26.1%	6 3.9%	13 8.5%
	70歳以上	39 19.9%	84 42.9%	48 24.5%	44 22.4%	57 29.1%	48 24.5%	94 48.0%	38 19.4%	36 18.4%	57 29.1%	31 15.8%	39 19.9%	4 2.0%	35 17.9%

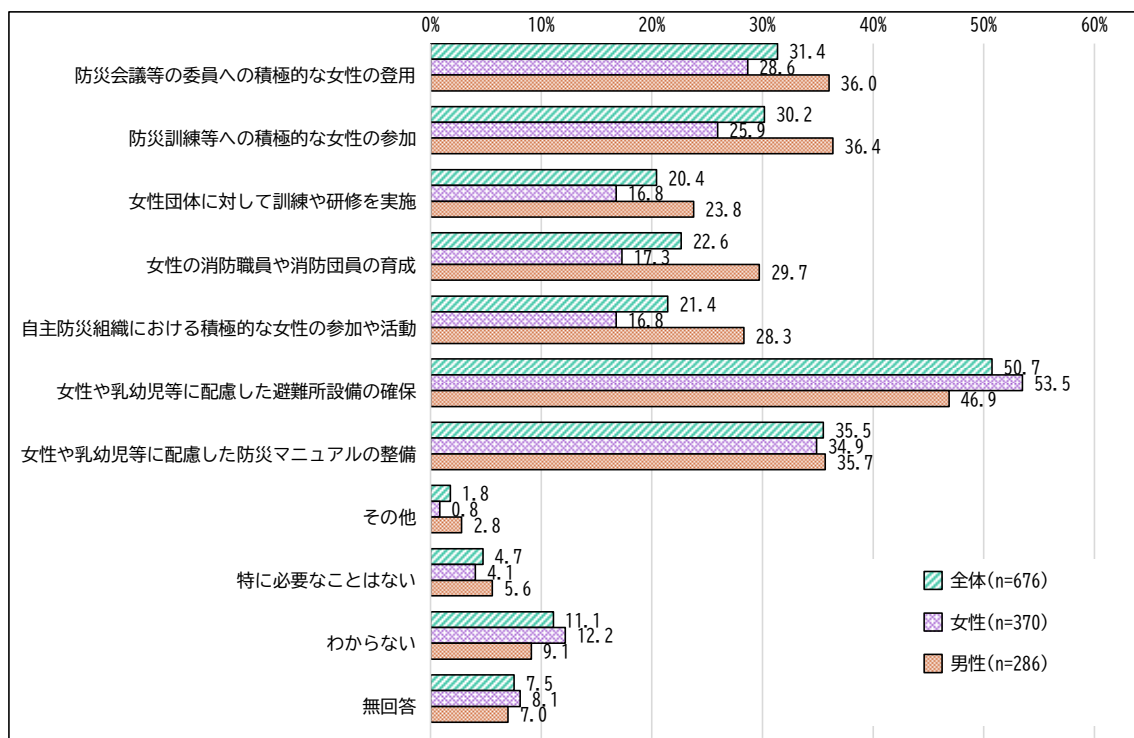
【今回・前回比較】



8. 防災について

問22 防災活動に関して、男女共同参画の視点からどのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

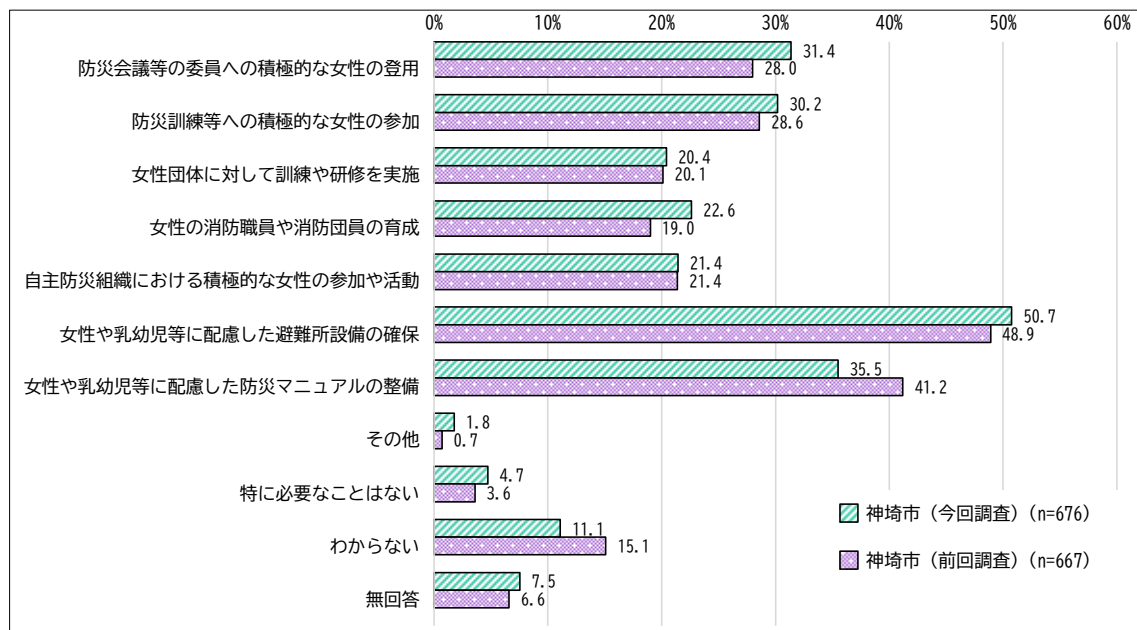
- 全体では「女性や乳幼児等に配慮した避難所設備の確保」が 50.7%と最も高く、次いで「女性や乳幼児等に配慮した防災マニュアルの整備」35.5%、「防災会議等の委員への積極的な女性の登用」31.4%となっています。
- 性別でみても、男女ともに約5割が「女性や乳幼児等に配慮した避難所設備の確保」と回答しています。また、男性では女性と比べて「防災訓練等への積極的な女性の参加」「女性の消防職員や消防団員の育成」「自主防災組織における積極的な女性の参加や活動」が10ポイント以上高くなっています。
- 年代別でみても、どの年代も「女性や乳幼児等に配慮した避難所設備の確保」が最も高くなっていますが、20～40歳代では「女性や乳幼児等に配慮した防災マニュアルの整備」、50歳代以上では「防災訓練等への積極的な女性の参加」、70歳以上では「自主防災組織における積極的な女性の参加や活動」が他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。



(上段：人 下段：%)

		標 本 数 (人)	の 登 用	防 災 会 議 等 の 委 員 的 な 女 性	防 災 訓 練 等 へ の 参 加	訓 練 や 団 体 研 修 を 対 し て	女 性 団 体 の 消 防 職 員 や 消 防 団 員 の 育 成	女 性 の 参 加 や 活 動	自 主 防 災 組 織 に お け る 積 極 な 女 性	備 の 確 保	女 性 や 乳 幼 児 等 に 配 慮 し た 避 難 所 設 置	二 配 慮 し た 防 災 マ ニ ュ ア ル の 整 備	女 性 や 乳 幼 児 等 に 配 慮 し た 防 災 マ ニ ュ ア ル の 整 備	そ の 他	な い に 必 要 な こ と は	わ か ら な い	無 回 答
全体 (単純集計)		676	212 31.4%	204 30.2%	138 20.4%	153 22.6%	145 21.4%	343 50.7%	240 35.5%	12 1.8%	32 4.7%	75 11.1%	51 7.5%				
年 齢 別	10歳代	10	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 20.0%	1 10.0%	5 50.0%	3 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 20.0%	1 10.0%				
	20歳代	51	12 23.5%	10 19.6%	8 15.7%	13 25.5%	7 13.7%	31 60.8%	24 47.1%	1 2.0%	2 3.9%	6 11.8%	0 0.0%				
	30歳代	64	8 12.5%	11 17.2%	12 18.8%	10 15.6%	8 12.5%	44 68.8%	33 51.6%	2 3.1%	2 3.1%	8 12.5%	2 3.1%				
	40歳代	79	22 27.8%	15 19.0%	17 21.5%	15 19.0%	17 21.5%	44 55.7%	35 44.3%	2 2.5%	7 8.9%	12 15.2%	1 1.3%				
	50歳代	109	36 33.0%	37 33.9%	20 18.3%	18 16.5%	17 15.6%	56 51.4%	37 33.9%	2 1.8%	9 8.3%	17 15.6%	4 3.7%				
	60歳代	153	57 37.3%	54 35.3%	31 20.3%	41 26.8%	32 20.9%	75 49.0%	46 30.1%	3 2.0%	7 4.6%	14 9.2%	16 10.5%				
	70歳以上	196	74 37.8%	74 37.8%	46 23.5%	51 26.0%	61 31.1%	80 40.8%	56 28.6%	2 1.0%	4 2.0%	14 7.1%	26 13.3%				

【今回・前回比較】

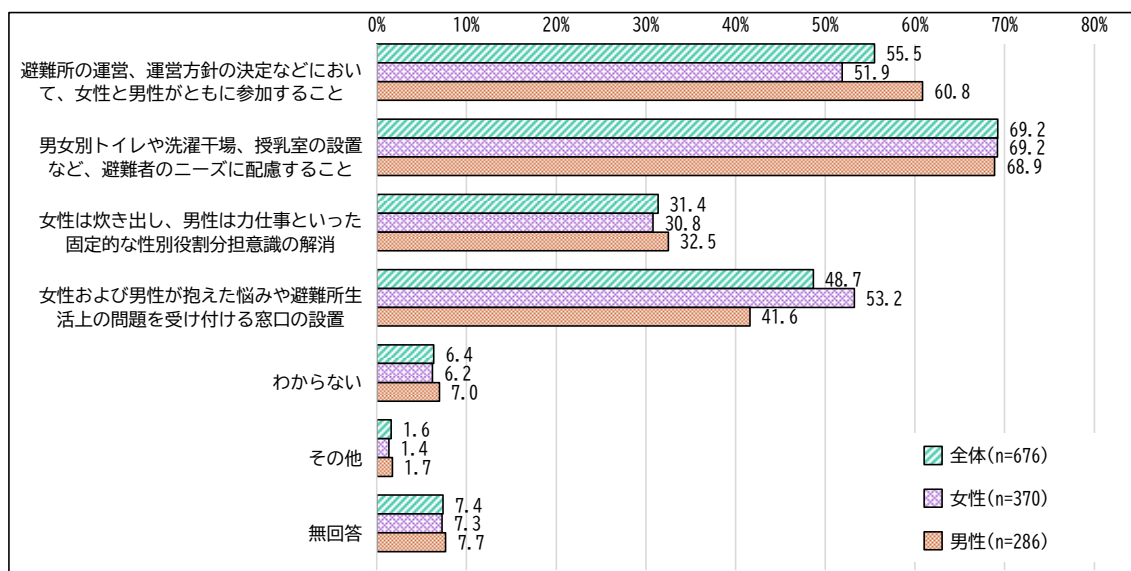


問23 地域の防災についておたずねします。あなたは、避難所における男女共同参画について、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

○全体では「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が69.2%と最も高く、次いで「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」55.5%、「女性および男性が抱えた悩みや避難所生活上の問題を受け付ける窓口の設置」48.7%となっています。

○性別でみても、約7割が「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」と回答しています。また、女性では男性と比べて「女性および男性が抱えた悩みや避難所生活上の問題を受け付ける窓口の設置」が11.6ポイント高くなっています。

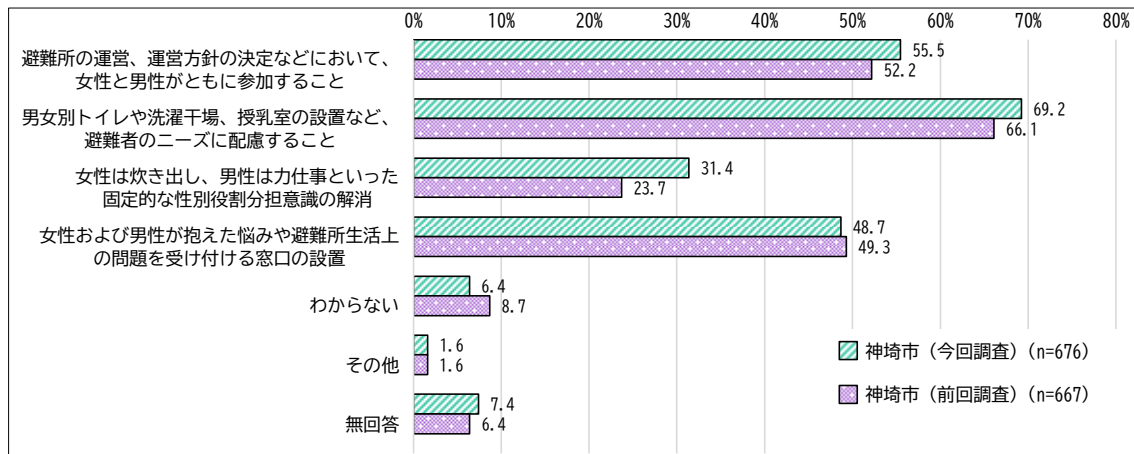
○年代別でみても、どの年代も「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が最も高く、6割を超えています。



(上段：人 下段：%)

		標 本 数 (人)	が避難所 の運営に 参加する こと	避難所の 運営、運 営方針と 男性の決 定	ニーズに 配慮する こと	乳室の設 置や洗濯 場の授乳 室の設置 など	男女別ト イレや洗 濯干場の 設置など	分断意識 の解消	女性に力 仕事とい った固定 的な性別 役割分 担意識の 解消	女性およ び男性が 抱えた悩 みや避難 所生活上 の問題を 受け付け る窓口の 設置	わか らな い	そ の 他	無 回 答
全体 (単純集計)			375 55.5%	468 69.2%	212 31.4%	329 48.7%	43 6.4%	11 1.6%	50 7.4%				
年 齢 別	10歳代	10	4 40.0%	8 80.0%	5 50.0%	3 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%				
	20歳代	51	23 45.1%	38 74.5%	13 25.5%	20 39.2%	5 9.8%	1 2.0%	2 3.9%				
	30歳代	64	32 50.0%	49 76.6%	20 31.3%	34 53.1%	5 7.8%	2 3.1%	2 3.1%				
	40歳代	79	48 60.8%	60 75.9%	25 31.6%	39 49.4%	2 2.5%	1 1.3%	1 1.3%				
	50歳代	109	59 54.1%	74 67.9%	31 28.4%	47 43.1%	10 9.2%	1 0.9%	3 2.8%				
	60歳代	153	90 58.8%	110 71.9%	60 39.2%	84 54.9%	7 4.6%	3 2.0%	11 7.2%				
	70歳以上	196	112 57.1%	118 60.2%	54 27.6%	93 47.4%	14 7.1%	3 1.5%	29 14.8%				

【今回・前回比較】



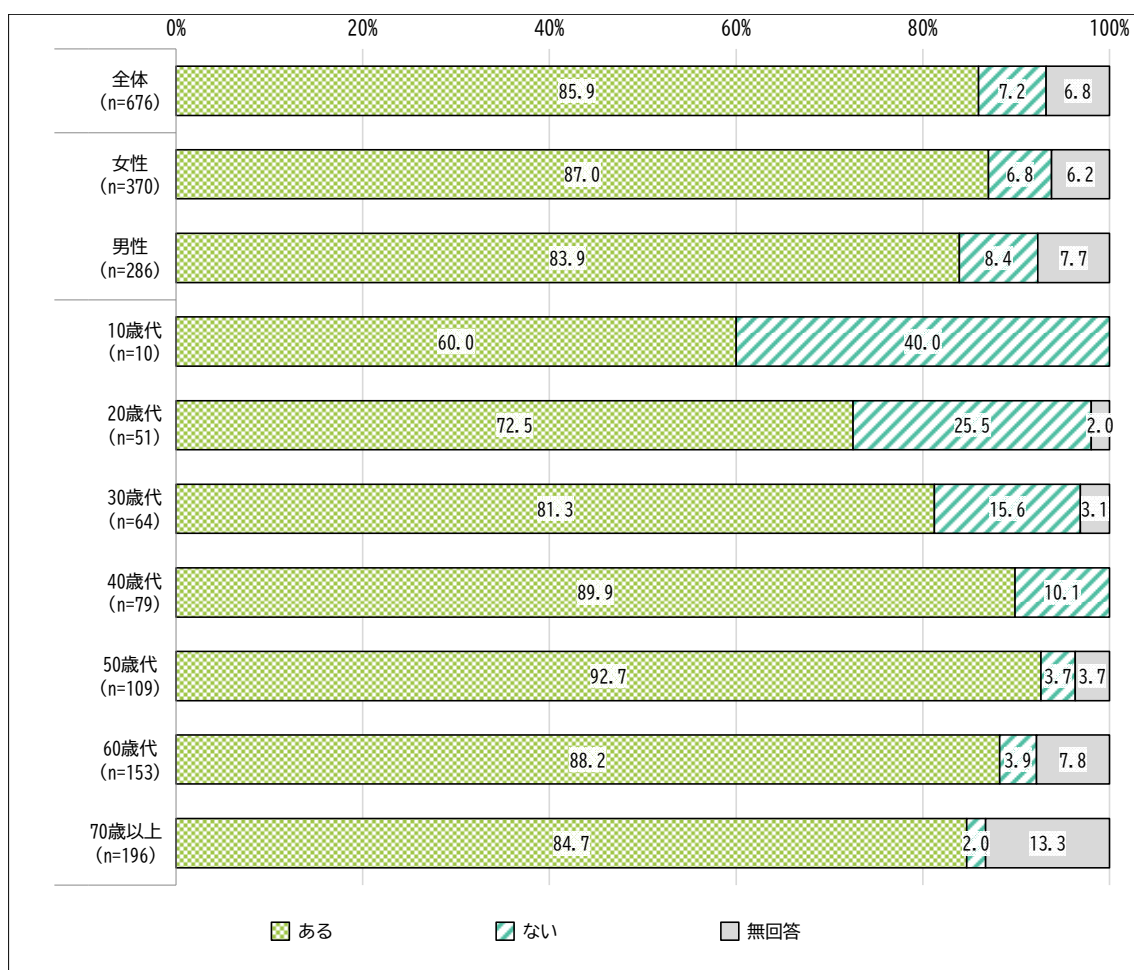
9. その他について

問24 あなたは市報かんざきを見たことがありますか。(単数回答)

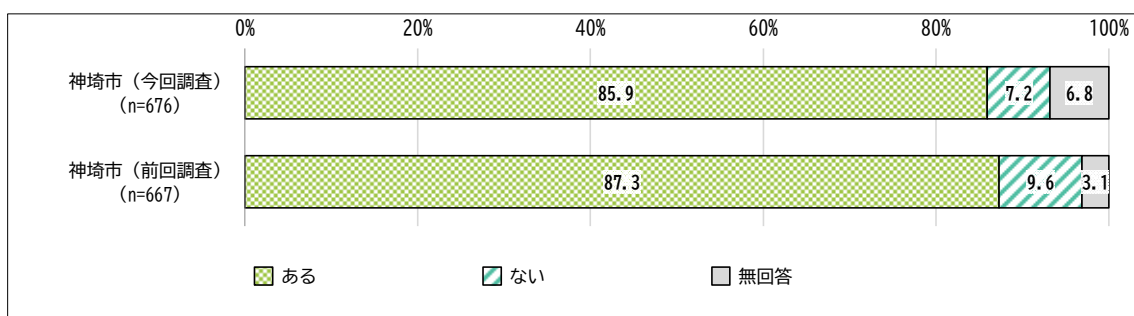
○全体では「ある」が85.9%、「ない」が7.2%となっており、約8割が市報かんざきを見たことが「ある」と回答しています。

○性別でみても、全体と同様の結果となっています。

○年代別でみると、どの年代も「ある」が「ない」を上回っていますが、20歳代以下では約3～4割が「ない」と回答しています。



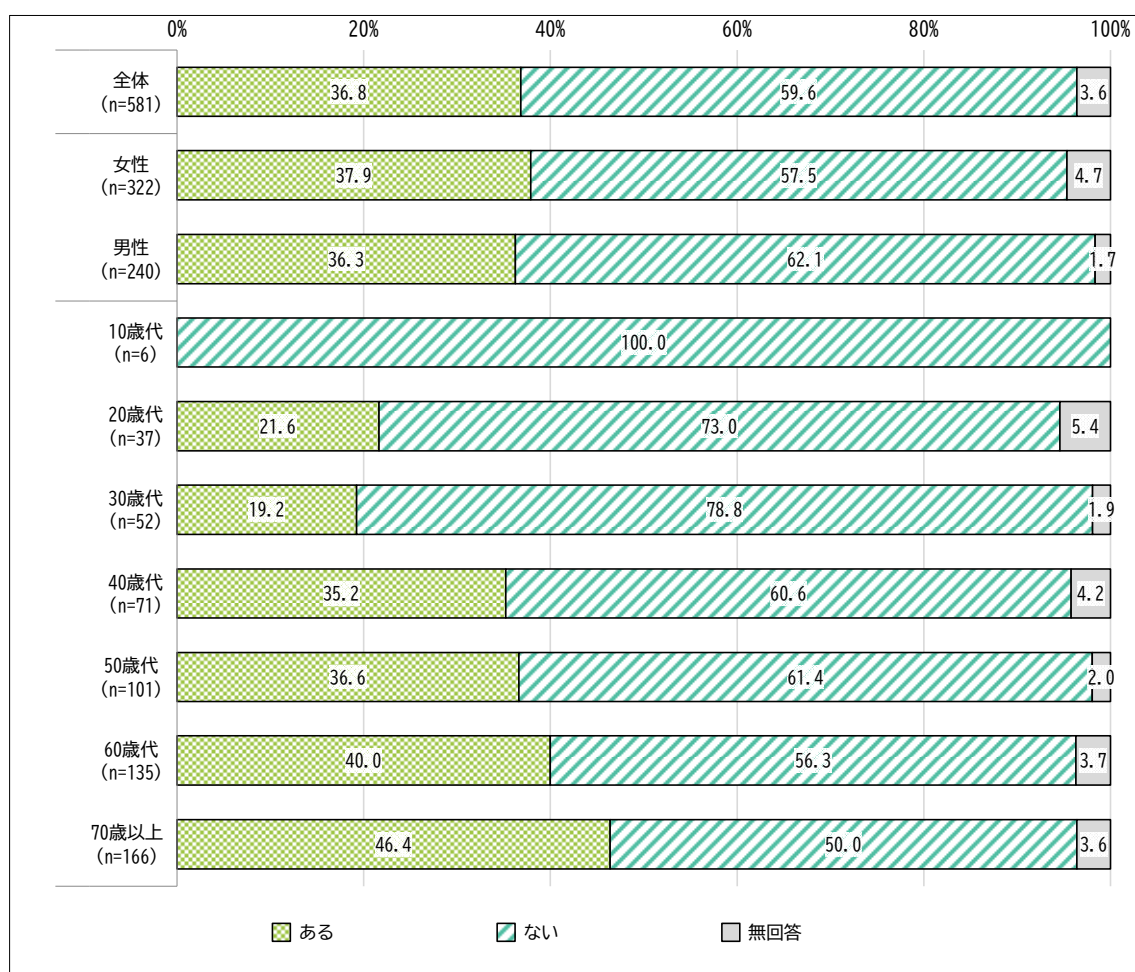
【今回・前回比較】



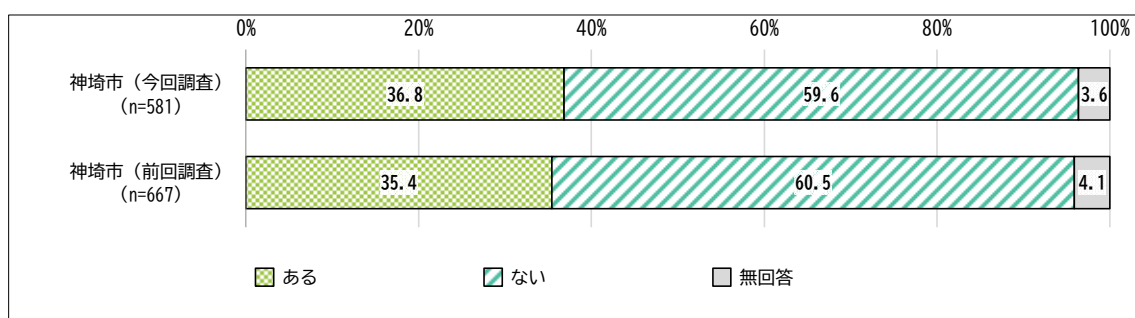
問24で「1. ある」と回答した方のみ

問25 市報かんざきの中に毎月、男女共同参画に関するページを設けていますが、そのページを見たことがありますか。(単数回答)

○全体では「ある」が36.8%、「ない」が59.6%となっており、約6割は市報かんざきの中の男女共同参画に関するページを見たことが「ない」と回答しています。
○性別及び年代別でも、「ない」が「ある」を上回っていますが、40歳代以上では「ある」が3割を超えています。



【今回・前回比較】



問25で「1. ある」と回答した方のみ

問26 男女共同参画に関するページの感想をお聞かせください。（自由記述）

分類	件数
内容について（好意的な意見）	44件
内容について（否定的な意見）	9件
覚えていない/関心がない/わからない	28件
改善して欲しい点	22件
男女共同参画実現に向けての意見	8件
取り組みについて	2件
その他	8件
合計	121件

問24・問25で「2. ない」と回答した方のみ

問27 市報かんざきを見たことがない、または男女共同参画に関するページを見たことがない理由をお聞かせください。（自由記述）

分類	件数
興味がない/関心がない/意識していない	85件
じっくり読んでいない 関心のあるページしか読んでいない	66件
知らなかった	12件
見ていない	12件
忙しい/時間がない	12件
頭に入らない/むずかしそう	9件
覚えていない	8件
デザイン・レイアウト/内容について	9件
その他	24件
合計	237件

問28 男女共同参画について、ご意見・ご要望がありましたらどんなことでも結構ですので、具体的にお書きください。(自由記述)

分 類	件 数
男女共同参画の意識について	39 件
女性登用や活躍について	26 件
市報や行政への意見・要望	12 件
家事・育児について	10 件
アンケートについて	9 件
性別による役割分担について	8 件
教育について	5 件
情報発信について	4 件
その他	24 件
合 計	137 件

